

# INSTRUCTOR

# MANUAL

日本語



**PADI**<sup>®</sup>

PADI® *Instructor Manual*

© PADI 2021

この製品のいかなる部分も出版社の文書による許可なく、いかなる形でも複製することはできません。

® 商標は、米国 およびその他一部の国々で登録されていることを示します。

Published by PADI – Professional Association of Diving Instructors®  
30151 Tomas  
Rancho Santa Margarita, CA 92688-2125 USA

Printed in USA

Product No. 79173J (Rev. 02/21) Version 2021

スクーバ・ダイビングは、リスクを伴わない完全に安全な活動にはなり得ない。しかしながら、PADIコースやプログラムに参加するダイバーをトレーニングし、監督するときには、このマニュアルに概説されている規準を守ることにより、ダイバーや初心者がリスクを管理する方法を学び、そのプロセスにおいて楽しい時間を過ごすための強力な基盤とすることができる。

## このマニュアルの使い方

このマニュアルは、PADIコース必要条件を規定するものである。**太字**で書かれた部分は、コースを教えるにあたって、逸脱してはならない必須規準を示す。しかしながら、PADI規準は地域の法律や条例に優先するものではない。指導活動を行なう地域の法律や条例について、最新情報を把握している必要がある。

このマニュアルはPADIメンバー全員が使用するものであるが、コースの達成条件を除いて、インストラクターの視点で書かれている。達成条件は生徒ダイバーまたはプログラム参加者の視点で書かれており、デモンストレーションしなければならないことを具体的に説明している。

最初に上を目指す努力、ということに精通する。これには、インストラクターの信条、PADIメンバーの行動規範とユース・リーダーとしての義務が含まれる。このセクションでは、ダイバーの安全性と責任とリスク・マネージメントなど、プロとしての責任の実行について概説している。最初にこれを読み、その後も頻繁に読むこと。

次に「一般規準と手続き」を見て、それから、各コースに定められている個別の規準を確認する。PADI *Instructor Manual*の内容と、記載されている情報の効率的な探し方は次の通りである。

### 一般規準と手続き

個々のコース・ガイドで別途に指定されている場合を除き、「一般規準と手続きガイド」に概説されている規準は、すべてのPADIコースおよびプログラムに適用される。個々のコース・ガイドには「一般規準と手続きガイド」の規準は記載されていないため、まずその内容を理解する必要がある。

この部分を最初に読む。「一般規準と手続きガイド」で最も重要なのは、**すべての**PADIコースおよびプログラムに適用される総合規準が規定されているという点である。コースまたはプログラム用の個々のガイドに規準が明記されていない場合には、「一般規準と手続きガイド」の規準が適用される。このガイドは2つのセクションに分かれている：

- **トレーニング規準** - このセクションには、使用されている用語の定義と、マニュアル全体に適用される主なコンセプトがリストされている。監督、教材、必要器材、他団体からダイバーをPADIコースに受け入れる場合の手順などについての一般情報が記載されている。
- **書類と事務手続き** - このセクションには、PADIコースおよびプログラムの事務手続きについてインストラクターが知っていなければならない一般情報がリストされている。内容例：必要書類、認定／登録手続き、ダイバーの知識評価、クオリティ・マネージメント、事故報告書の提出、PADIコースのリンク。

## コース／プログラム・ガイド

次に、個々のガイドには、様々なノンプロフェッショナルレベルのコース／プログラムの規準と、PADI Divemasterレーニングの規準が首尾一貫した形式で記載されている：

- **セクション1、コース／プログラム規準** - コース／プログラムに適用される全般的な規準。一般規準に従い、個々のガイドに記されている一般規準との違いに注意する。
- **セクション2、知識開発** - トレーニングの知識開発部分に関する規準。一般に、ダイバーは生徒用教材を使って事前に学習して知識を習得する。インストラクターが知識開発プレゼンテーションを行なう場合には、各コース用の処方的レッスンガイドとティーチング・アウトラインを使用する。これはPADIリージョナル・ヘッドクォーター（地域のオフィス）から入手できる。
- **セクション3、限定水域ダイブ** - 限定水域トレーニングに関する規準。コースによっては、限定水域トレーニングは必修

ではないが、オープンウォーターに備えるためのシミュレーションとして、練習用に実施してもよい。

- **セクション4、オープンウォーター・ダイブ** - 各オープンウォーター・ダイブの達成条件と、オープンウォーター・トレーニングに関する関連規準。

## プロフェッショナル・メンバーシップ

このガイドにはPADIのメンバーシップ・ステータスと資格について扱っている：

- **メンバーシップ・ステータス** - メンバーシップ・ステータスの各カテゴリーについての説明
- **Professional資格** - PADI、TecRec®、およびEFR®のプロフェッショナルレベルの前条件

このマニュアルは、一般規準とコース／プログラムの規準のみカバーしている。PADI Specialty Diver、TecRec、EFRコースの具体的な規準は、それぞれのインストラクター・ガイドに含まれている。

推奨されるトレーニング方法、コースのセッティングとトレーニングについてのアドバイス、コース理念についての背景的情報など重要な推奨事項については、PADI's *Guide to Teaching*を参照する。

ナレッジレビュー・アンサーキーとエグザムのアンサーキー、ならびにPADIコースに関連した書類は、PADIのプロサイトで入手できる。

## 重要 – 必ず読むこと:

### インストラクターの判断

PADI規準は、世界各地で実施されるコース／プログラムの学習および達成条件を規定しているものであるため、多種多様な指導状況に適合するものでなければならない。

- 最大限度** — 人数比および深度の規準は、最大限度としてリストされている。つまり、コース／プログラムを実施するたびに、トレーニングを実施するにあたって何が適切かについて正しい判断を働かせる必要があることを意味する。様々な要素を検討してリスク評価を実施することは、プロとしてのインストラクターの責任である。水温、透視度、流れ、エントリー／エキジット、担当する各生徒ダイバーの能力、使える認定アシスタントの数、自分自身の能力と限界といったような要素を考慮して、どの程度の人数比が状況に適しているか決定し、必要であれば人数比を減らす。このリスク評価はダイビングの前に実施し、ダイビング中も状況の変化を考慮に入れてリスク評価を続行する。
- 最小限必要条件** — 逆に、コース参加前条件 – ログに記録されたダイブ本数、年齢、インストラクター資格条件などについての規準は、最小限としてリストされている。たとえば、年齢の必要条件が10歳だとしたら、それがコース／プログラムに受け入れることのできる最低年齢である。また、申し込んできた10歳児がコース／プログラムに参加する準備が整っているかどうかについて、インストラクターとして判断を働かせる必要がある。

PADI Professionalとして受けたトレーニングと経験、そして各種PADIマニュアル、参考文献、*Training Bulletins*, *Training News*, *The Undersea Journal*<sup>®</sup>、PADIのプロサイト、PADIリージョナル・ヘッドクォーター（地域のオフィス）のトレーニング部などPADIの様々なリソースは、最新情報を把握するのに役立つだけでなく、疑問がある場合に適切な判断を下すのに役立つ。このマニュアルは、PADI規準を確認するためのクイックリファレンスである。他のリソースと一緒に活用することで、自分とPADIコース／プロ

グラムを受ける参加者の両方にとって、ダイビング経験をできる限りベストのものにすることができるのである

PADIの使命、果たすべき任務、目的、ゴール、PADIワールドワイド・グループと提携団体、PADI教育プログラムのリストについては、PADIのプロサイトおよびPADI's *Guide to Teaching*を参照。



# 目次

<b>このマニュアルの使い方</b>	<b>1</b>
<b>上を目指す努力 - 責任の実行</b>	<b>7</b>
PADIメンバーの行動規範	9
<b>一般規準と手続き</b>	<b>15</b>
トレーニング規準	16
主要規準	31
書類と事務手続き	38
<b>コース／プログラム・インストラクター・ガイド</b>	<b>49</b>
Open Water Diverコース	49
PADI Scuba Diverコース	71
Advanced Open Water Diverコース	75
Rescue Diverコース	99
Master Scuba Diver™プログラム	109
Divemasterコース	111
Discover Scuba® Divingプログラム	133
Bubblemakerプログラム	139
PADI Seal Team™	143
ReActivate®プログラム	153
Discover Local Diving	159
Skin Diver (Advanced Snorkeler)コース	163
<b>プロフェッショナルメンバーシップ</b>	<b>169</b>
メンバーシップ・ステータス	170
PADI Professional資格	173



# 上を目指す努力 - 責任の実行

セクション



**PADI**<sup>®</sup>

## PADI Professionalの信条

私はPADI Professionalとして、様々な心の変化を目の当たりにすることができる：

- 恐怖が勇気になる
- 臆病な心が達成感に変化する
- 気の弱さが自信に変貌する
- 漠然とした期待が情熱へと高まる

私はPADI Professionalとして：

- 自然界の創造物の隠れた美しさと、それを守らなければならない人間としての責任に対し、人の心と精神を開くことができる
- 人の自負心を育むことができる
- 個性や整合性の価値を教えることができる
- 人に影響を与え、その人生を永遠により良い方向へ変えることができる

**「我々は得ることで生計を立て、  
与えることで人生を豊かにする。」**

**- Winston Churchill**

# PADIメンバー

## 行動規範

PADI Professionalは、人にスクーバ・ダイビングを教え、水中世界へ導くという実り多い有意義な役割を担っている。人生を良い方向へ変えることができ、大半の人がおそらく一生の間に一度も楽しむ機会がないであろう様々なことを経験するチャンスがある。そして、そのような機会を享受するにあたっては、生徒ダイバーやお客様など、水中世界への道を求めてPADI Professionalのところへやってくるすべての人に対する極めて重要な責任がある。それは、他者の安全に対する責任である。

PADIメンバーは以下の各項目に同意するものとする：

- 1. お客様と生徒ダイバーの安全を最優先し、自分の責任とする。** それにあたっては、*PADI Instructor Manual, PADI's Guide to Teaching, Training Bulletin, Training News*および各種アップデートの規定に従い、PADI規準と手続きの必要条件とその意図を遵守する一方で、実施するすべてのPADIコースおよびプログラムにおいて、可能な限りベストの判断を働かせる。
- 2. 安全ルールに従っていれば、スクーバ・ダイビングは適度に安全な活動であるが、スクーバ・ダイビングに伴う危険／結果は、極めて重大な事故に結びつく可能性がある。** 常に安全を心がけ、プロフェッショナルとしての指導と監督を実践する。
- 3. 指導するときやダイバーを先導するときには、自分自身の準備が整っているかどうか、事前に自己評価を行なう。** 自分の健康状態をチェックし、ダイビングができる体調かどうか判断することに加えて、その日その場所でダイバーをしっかりと監督し、緊急事態に対応できるかどうかも確認する。
  - a. 個人の能力 – ダイビングのプロフェッショナルの身体能力と健康状態は人によって異なる。** 緊急事態に対応できるかどうかも含めて、ダイバーを先導し監督することに対する自分自身の能力と限界を認識しなければならない。個人の能力は時間と共に変化する。自己評価を

行なって、必要であれば、体力、スタミナ、聴力、視力などの低下に応じた対策を講じる必要がある。自分自身の限界を考慮に入れてダイブプランと緊急時のアクションプランを十分に検討し、ダイバーや自分自身に危険が生じることを回避するために必要と思われるなら、認定アシスタントを使う、良好なコンディションであることを確認した上でダイビングする、人数比を減らすなど慎重な対策を取る。

- b. ダイブサイト – ダイビングのコンディションと環境を評価し、そこで指導活動を行なったりダイバーを先導したりする心構えができていのかどうか、自分自身その場所に十分に精通しているかどうかを判断する。
- c. 知識 – 指導活動を行なったりダイバーを先導したりすることに対する自分自身の知識についても評価し、PADIプログラムの規準、最新情報、指導ツールに精通していることを確認する。また、担当する生徒ダイバーの準備態勢と能力についても、きちんと把握していることを確認する。
- d. 自信 – プロとしての役割を担う十分な資格はあるものの、PADI Divemaster, Assistant Instructor、あるいはInstructorになりたての場合には、経験のあるPADI Professionalから指導やアドバイスを受ける、チームを組んで教える、あるいは教え方を観察することで、リーダーシップスキルや自信をさらに培うことができる。認定を受けたばかりのプロフェッショナルとして、適度に慎重な判断をしなければならない。また、リーダーとしての活動からしばらく遠ざかっていた場合にも、経験のあるPADI Professionalに協力してもらうことは、リーダーシップスキルと自信を取り戻すのに役立つ。

4. 指導にあたっては、繰り返しはマスターリーと長期的なスキルの維持のために重要である。様々なコンディションで基本的なスキルと呼吸のコントロールの習得には、時間と練習が必要である。この学習プロセスを適切に導くことにより、指導し監督する生徒ダイバーを手助けしなければならない。

5. 精神状態や落ち着きのレベルは人によって様々であり、同じグループのダイバー同士でも大きく異なる。グループまたは個別のダイバーの状況によっては、安全を期して、いかなるときでもダイビングを中止することをためらってはならない。
6. ダイバーのストレスと不安の徴候に注意し、気付いたら素早く適切に対応する
7. 水中では効果的なグループコントロール方法を用いる。特に、初心者や子供を監督しているときには、頻繁に人数を数える。
8. 自分自身の行動やPADI関連の活動においては、常にプロフェッショナルらしい態度で対処する。
9. ティーチング・ステータスのInstructorのみ、PADI Instructorと称することができる。あなたのPADIオフィスから通知を受け取った後、あなたはそのコースのみ開催できる。例えば、あなたはそのスペシャルティ・コースを開催するには、PADI Specialty Instructor認定を受けていなくてはならない。
10. 指導および監督活動を実施している際には、PADI安全潜水実施了解声明書の意図を遵守する。
11. 世代を問わず、民族、性別、宗教、身体障害、性的嗜好にかかわらず、生徒ダイバーとダイビング活動に関わるすべての人々を敬意を持って扱う。
12. PADI組織、PADIメンバー、その他のダイビング業界のプロフェッショナルの名誉を傷つけてはならない。
13. PADI関連の活動において、良識ある誠実さを示さなければならない。
14. PADIによる正式な調査に対しては、問い合わせ等に迅速に対応するなど、全面的に協力しなければならない。
15. PADI Scuba Diverやジュニア・ダイバーなど、制限付きのPADI認定カードに表示されている深度および監督上の制限事項を遵守する。

16. 子供の指導や監督を行なう際は、厳格な行動規範「PADIメンバー・ユース・リーダーの義務」に規定されている必要条件を遵守し、その意図に従い行動しなければならない。
  17. すべてのPADI関連活動において、環境保護に向けてプロフェッショナルとしての行動規範に従い、Project AWARE®の「海の惑星を守るためにダイバーにできる10のこと」に規定されているルールとその意図を遵守する。  
([projectaware.org](http://projectaware.org).参照)
  18. PADIメンバー資格を受けてから、またはそれ以前に未成年者虐待に関わる刑事上の有罪判決を受けたことがある場合には、PADIメンバー資格の拒否または打ち切りの根拠となる。
  19. PADIのメンバー資格を受けてから、またはそれ以前に成人の性的虐待に関わる刑事上の有罪判決を受けたことがある場合には、PADIメンバー資格の拒否または打ち切りの根拠となる。
  20. PADI、TecRec®、およびEFRとして広告したものの代わりとして、他のコースやプログラムを実施してはならない。
- 行動規範に違反すると、PADIメンバー資格を喪失する可能性がある。

## ユース・リーダーの義務

1. 児童の健康、安全、安危に注意する。
2. すべての指導活動において、適切な監督を行なう。
3. 可能な限り、児童の親または保護者に会い、プログラムの目的や目標について話し合う。
4. 進み具合などについて、できる限り頻繁に口頭で報告することによって、親または保護者にも関わりを持たせ、情報を伝えておく。
5. 年齢、人種、性別、宗教に関わらず、児童、親、保護者には敬意を持って対応する。
6. 児童に約束したことは守る。
7. しつけ上の問題がある場合には、親または保護者と話し合う。
8. 児童との不適切な接触をしてはならない。
9. 児童のプライバシーを尊重し、健康や安全が脅かされる場合にのみ介入する。
10. 可能な限り、2人の大人が児童と一緒にいるようにする。



# 一般規準と手続き



**PADI**<sup>®</sup>

## トレーニング規準

記載されている以下の定義、説明、および必要条件は、本マニュアルに適用され、全体にわたって使用されている。

### アルティチュード・ダイビング

アルティチュード・ダイビングとは、海拔300～3,000メートル／1,000～10,000フィートに位置するダイビング・ポイントで実施されるダイブのことを言う。

### オープンウォーター・ダイブ参加準備態勢評価

継続教育コースおよびOpen Water Diver委託紹介対象

**オープンウォーター・ダイブに備えて、オープンウォーター・ダイブのスキル練習を開始する前に、ダイバーのスキルと水中での落ち着きのレベルを評価し、さらにダイビングに関する知識を全般的に評価する。オープンウォーター・ダイブに参加する準備態勢が整っていないと判断される場合には、トレーニングを続行する前に補習を行なう。**

そのダイバーと一緒に最近潜ったことがあり、ダイバーの現在の知識レベル、水中スキル、落ち着きの程度を知っている場合には、それを判断材料として用いることができる。

## Assistant Instructor

Assistant Instructorとは、ティーチング・ステータスのPADI Assistant Instructorのことを言う。

### 認定アシスタント

認定アシスタントとは、ティーチング・ステータスのPADI Instructor、PADI Assistant Instructor、またはアクティブ・ステータスのPADI Divemasterのことを言う。

## 限定水域ダイブ

限定水域とは、水泳用プールまたは海の限定水域を指す一般的な用語である。

海の限定水域とは、透視度、穏やかさ、深さの点で、水泳用プールに似たコンディションのオープンウォーター・ポイントのことを言う。浅い場所と、生徒ダイバーがすべてのスキル達成条件を満たせる深さの場所の両方がある。

ダイビング・ポイントのコンディションによっては、「プールに似た」という条件を満たしている日もあれば、満たしていない場合もあるため、ダイブを開始する前に、海の限定水域のコンディションを慎重に評価する必要がある。

深度が浅すぎて、深場で行なう限定水域ダイブスキルを実施できない場合には、まず、足がつかない深度が必要なスキルを、浅場で順序通りに紹介し、オープンウォーター・ダイブの前に達成条件を満たせる深度がある限定水域が使えるときに、深場のスキルを順序通りに繰り返すことで達成条件を満たすことができる。

### 必要条件

**海の限定水域ダイブとオープンウォーター・ダイブを組み合わせて行なうことはできない。**海の限定水域ダイブ後、生徒ダイバーをいったん水から上げて器材を外させ、それから改めてオープンウォーター・ダイブを開始する。

**例外:** Discover Scuba® Diving参加者とPADI Scuba Diver/Open Water Diverの生徒は、水から上がらずに限定水域ダイブ1からオープンウォーター・ダイブ1へ直接進むことができる。

## ディープ・ダイブ

ディープ・ダイブは、18～30メートル／60～100フィートの間の深度で実施される。

**例外:** Deep DiverやTecRecコースなど一部のコースには、これより深い深度が認められている。

## 身体的な障害

身体的な障害とは、通常の達成条件を妨げる物理的な障害、もしくは精神的な障害として定義されている。スキルの達成条件を満たすことが困難な場合は、インストラクターはアダプティブ・テクニックを提案し、ダイブスキルと理論を障害者が達成できるよう配慮を持った支援、行動が必要である。

**障害を持った人に許可されることは：**

1. 医師の承諾を得た後、スクーバ・トレーニングに参加することができる。
2. 認定条件をすべて満たされれば、そのコースの認定は受けられる。
3. 達成条件が満たされなければ資格を得られないが、ダイバー・トレーニングに参加し続けることはできる。

## リーダーシップレベル

**コース開始前に：**

1. 監督または意思疎通能力に影響を及ぼす可能性のある障害を持っているダイバーに対し、個々の状況に応じて認定後付加条項が提示される場合があることを伝える
2. 追加条件については、PADIトレーニング部に連絡し、書面による確認を受ける。

## Divemaster

Divemasterとは、アクティブ・ステータスのPADI Divemasterを言う。

## ドライスーツ・オリエンテーション

ダイバーがオープンウォーターで初めてドライ・スーツを使用する場合には、事前に使い方を説明し、限定水域でドライ・スーツに慣れさせる。

限定水域オリエンテーションが終了するまでに、生徒ダイバーは以下のことができるようになる：

- ドライスーツの着方と脱ぎ方 (必要な場合のみ助けを借りる)。
- ドライスーツ、インナー (必要な場合)、フル器材を装着して、水面で浮力チェックを行なう。
- 中性浮力をデモンストレーションする。息を吸ったり吐いたりしながら、1分間コントロールされた形で身体をゆっくりと上下させる。
- キックしたり手を使ったりしないで、浮力コントロールだけで1分以上水底近くでホバリングする。
- 水中で、ドライスーツの給気バルブから中圧ホースを外し、再び接続する。
- 通常の浮上速度で水底から中性浮力で浮上する (1分間に18メートル／60フィート以下の速度)。
- 足に余分なガスがたまっている状態から体勢を戻すテクニックをデモンストレーションする。
- 水面で、スクーバユニットとウエイト・システムの両方を脱着する。

## eLearning®

PADI eLearning®は、一部のPADIコースおよびプログラムで利用できるオンラインの学習ツールである。PADI eLearningプログラムを修了したダイバーは、知識開発の必要条件をすべて、またはその大半を満たしたと見なされ、インストラクターによるクイックレビューを受ける場合もある。eレコードは必要条件が満たされていることを証明するものであり、最後の知識開発セッション終了後有効期間は1年間。

13歳以下の子供は、eLearningの登録と支払いには保護者の同意が必要。

## 器材

### ダイバー用標準器材

**ダイバーは少なくとも以下の器材を装備する：**

注意：リブリーザーの使用とサイドマウントの使用を参照する。

1. フィン、マスク、スノーケル
2. 圧縮ガス・シリンダーとバルブ
3. シリンダーマウントまたはセパレート式バックパック付き浮力調節具(BCD)とパワー・インフレーター
4. メインのレギュレーターとバックアップ空気源
5. 残圧をモニターする計器(例:残圧計)
6. 深度を測定する計器
7. クイックリリース式ウエイト・システムおよびウエイト(中性浮力をとるのに必要、またはスキル練習に必要な場合)
8. ダイブのコンディションに適した保護スーツ  
注意:本ガイドのドライスーツ・オリエンテーション参照。
9. 音のでる緊急用水面シグナル器材(ホイッスル、エア・ホーンなど)少なくともひとつ
10. ダイブ・コンピューターもしくはRDP (eRDP<sup>ML</sup>™またはテーブル)  
注意:ダイバーがRDPを使って計画をする場合、生徒ダイバーは時間をモニターするデバイスを持っていなければならない。

コース中に器材を使うことで、ダイバーに慣れさせる。

### リブリーザーの使用

- PADI Rebreather, Advanced Rebreather、およびTec CCRコースでは、生徒ダイバーと資格のあるインストラクターが、登録されたリブリーザーを使用する必要がある。必要条件に関しては、関連するインストラクター・ガイドを参照する。
- PADI Rebreather Diverは、すべてのダイブの達成条件を満たすことができれば、コース中にリブリーザーを使用できる。
- 最大深度は、リブリーザー認定を受けている深度、またはコースの最大深度のいずれか浅い方の深さとなる。
- PADI Discover Scuba Divingプログラム, PADI Scuba Diver, Open Water Diver, Instructor Development

**Coursesでは、(スタッフも生徒ダイバーも)リブリーザーを使用してはならない。**

- リブリーザー資格と経験を持つインストラクターと認定アシスタント (タイプRの場合は30時間と30ダイブ、タイプTの場合は50時間と50ダイブ) は、間接監督が許可されている場合は登録されたリブリーザー をダイビングに使うことができる。
- **直接監督が必要な場合は、リブリーザーを使用してはならない。**ただし、使用している特定のユニットのPADI Rebreatherおよび/またはTec CCR Instructorである場合、リブリーザーの使用が適切かどうかを判断するリスク評価を行なったうえで使用してもよい。

### サイドマウントの使用

- **Sidemount Adventure Dive、PADI Sidemountコース、Tec Sidemountコースでは、生徒ダイバーと資格のあるインストラクターはサイドマウント・コンフィグレーションを使用しなくてはならない。**必要条件に関しては、関連するインストラクター・ガイドを参照する。
- PADI Sidemount Diverは、すべてのダイブの達成条件を満たすことができれば、コース中にサイドマウント・コンフィグレーションを使用できる

### インストラクターおよび認定アシスタント用標準器材

**ダイバー用標準器材に加えて：**

1. 時間測定計器 (時計など)
2. コンパス
3. ナイフ/ダイバー用ツール  
例外: 条例等で禁止されている場合
4. 緊急用シグナル器材2個 - 音の出る器材1個 (ホイッスル、エアホーンなど) と視認できる器材1個 (シグナルフロート、照明弾、シグナルミラーなど)
5. ダイブ・フラッグ - 条例等で義務付けられている場合
6. ダイブ・コンピューターまたはRDP/eRDP<sub>ML</sub>の使用説明書

## Instructor

インストラクターとは、ティーチング・ステータスのPADI Open Water Scuba Instructor (またはそれ以上の資格) を言う。

### ジュニア・ダイバー認定

15歳未満のダイバーは、各コースのインストラクター・ガイドに従って、ジュニア・ダイバー認定を取得することができる。**該当するインストラクター・ガイドに特別の定めのない限り、ダイブの深度を除いて、すべてのコース必要条件がジュニア・ダイバーに適用される** (本ガイドの「オープンウォーター・ダイブ」の項に規定されているジュニアを対象とする深度制限を参照)。ジュニアの認定は、成人の場合と同様に、マスタリー・ラーニングに基づく。ジュニア・ダイバー認定カードには、年齢に基づく制限が記載されている。

**認定取得後、10～11歳のジュニア・ダイバーは、親、保護者、またはPADI Professionalと一緒にという制限付きで、最大深度12メートル／40フィートまで潜ることができる。12～14歳には、成人の認定ダイバーと一緒にダイビングしなければならないという制限が付く。**

### ログに記録されたダイブ

コースの必要条件を満たすログに記録されたダイブとしてカウントするには、オープンウォーターで行なわれたもので、ダイブに関するデータ(日付、時間、場所、深度、プロフィールなど)が記録されていなければならない。PADIコースのトレーニング・ダイブ(オープンウォーターで実施されたもの)は、ログに記録されたダイブと見なされる。

### マスタリー・ラーニング

PADIコース／プログラムは達成ベースである。認定は、生徒がコースの知識とスキルの達成条件をすべてマスターしたことを表す。

知識開発でのマスタリーとは、「事務手続き」にリストされている知識評価の必要条件を満たしている事と定義される。(テクニ

カル・ダイビング・コースのマスタリーの特定の条件は、TecRec Instructor Guideを参照)

限定およびオープンウォーター・ダイブでのマスタリーとは、その認定レベルのダイバーに要求されるような適度に余裕があって、スムーズな動作で達成条件を満たしている形で、スキルを繰り返しやってみせることができる事。

## 教材

### ダイバー

生徒ダイバーが理解する言語に翻訳されたものがない場合を除いて、少なくともコースマニュアルとスレート(印刷物、デジタル、もしくはアプリバージョン)を含めて、各生徒ダイバーが最新版のPADI教材を所有し、コース中の学習とコース後の参考用に使用する。生徒ダイバーはログブックを所有する。

PADI eLearning®は、コースマニュアルとビデオ教材の必要条件を満たしている。

### インストラクター

すべてのPADIコースおよびプログラムでは、PADI *Instructor Manual*, PADI's *Guide to Teaching*とPADIダイバーレベルの教材と関連インストラクター・ガイドを使用する。推奨：関連しているインストラクター・レベルの教材を使用する。

## マルチレベル・ダイブ

マルチレベル・ダイブは、eRDP<sub>M</sub>を使って最も深い深度でスタートし、徐々に浅い深度へ進む。

## ナイト・ダイブ

ナイト・ダイブは、一般に日没から日の出までの間に実施される。

## オープンウォーター・ダイブ

オープンウォーターとは、水泳用プールと比較してかなり大きく、ダイバーが一般に経験する自然の水域に特有のコンディションを有する水域のことをいう。

この定義を満たす範囲内で、ダイビングに適した深度、ダイブプランを立てて実施する能力、水底の形状と構成、水温などに関して、自然の水域と同等のコンディションを有する場所（例、水族館の巨大な水槽、レクリエーション・ダイビング用に設計された施設など）がある。そのような特性を有する場所については、以下のPADIオープンウォーター・ダイブを実施するのに適していると思なされる：

- Discover Scuba Divingのダイブ
- PADI Scuba Diverのダイブ
- Open Water Diverコースのダイブ1と2
- 参加前条件がOpen Water Diverとされているスペシャルティ・コースのダイブ

## 必要条件

1. **コースの達成条件を満たすのに役立つ適切なオープンウォーター・ダイブ環境を選ぶ。**以下の要素を考慮する：
  - a. **ウォーター・コンディション** - 水の動き、水温、透視度、深度、水中生物
  - b. **天候状態**
  - c. **ダイブの必修条件**
  - d. **認定アシスタントの人数**
  - e. **自分自身がその場所をどの程度知っているか**
  - f. **参加者の年齢、能力、経験、落ち着きのレベル**
2. **最小深度5メートル／15フィート**
3. **コースのインストラクター・ガイドに規定されている最大深度を超えてはならない。**
  - a. **絶対最大深度は40メートル／130フィート**  
例外：インストラクター・ガイドで定義されているTecRecコース
  - b. **12～14歳のジュニア・ダイバー - 最大深度は21メートル／70フィート**

c. 10～11歳のジュニア・ダイバー - 最大深度は12メートル／40フィート

d. 18メートル／60フィートより深いトレーニング・ダイブを計画する場合には、ダイバーのディープ・ダイビングの経験レベルを考慮に入れる。

4. レクリエーション・ダイブプランナーの限界、または生徒のダイブ・コンピューターのノンストップ・リミット(メーカーの使用説明書に記載)を超えるダイブを計画または実施してはならない。

例外:インストラクター・ガイドで定義されているTecRecコース

5. オープンウォーター・ダイブおよびDiscover Scuba Divingのエクスペリエンス・ダイブを、ケープ、カバール、氷の下、あるいは水面へ垂直に直接浮上するのが不可能な状況で実施してはならない。

例外:Ice, Cavern, Wreck Diverコース、認定ダイバーを対象とした特別オリエンテーション・ダイブとインストラクター・ガイドに記載されているTecRecダイバー

6. オープンウォーター・ダイブ中、ダイバーは5メートル／15フィートより深い深度で時間の大半を過ごし、1,400リットル以上の圧縮空気を呼吸する、または20分以上水中にいる。

7. コースのインストラクター・ガイドに概説されているスキルを実施し、以下を行なう:

a. ダイビングの目的、安全、環境を大切にすることについてのブリーフィング

b. 器材のセッティングとプレダイブ・セーフティ・チェック

c. エントリー

d. エキジット

e. ディブブリーフィングと器材の片付け

f. ログ付け - 生徒ダイバーのログブックに署名/確認

8. オープンウォーター・ダイブは、個々のインストラクター・ガイドで指定されている場合を除き、日中の時間帯に行なう。ここでの日中とは、日の出1時間後から日没1時間前までと定義する

9. 夜間を含めて、生徒ダイバーが1日に参加できるオープンウォーター・トレーニング・ダイブの回数は3回までとする。
10. 2ダイブ以上のダイブを行なうアドベンチャー・ダイブやスペシャルティ・コースの達成条件を1ダイブにまとめて、1つ以上の認定クレジットを受けるようにしてはならない。
11. ダイバーがPADI Enriched Air Diver認定を受けているか、PADI Enriched Air Diverコースに参加しているならば、トレーニングダイブでエンリッチド・エアを使用してもよい。

## PADI Professional

PADI Professionalとは、更新済みのPADIメンバー (PADI Divemasterまたはそれ以上の資格) のことを言う。

### 参加前条件

継続教育コースには、PADI、TecRec、またはEFR認定の参加前条件が設定されている。

この一般ガイドラインに従って、**知識とスキルの前評価を実施した後、他の指導団体が発行する認定を受けているダイバーをPADIコースに受け入れることができる。**

参加受け入れ資格を満たす認定：

1. PADI Scuba Diver — 最低2回のオープンウォーター・トレーニング・ダイブを必修とするエントリー・レベルのスクーバ認定
2. PADI Open Water Diver — 最低4回のオープンウォーター・トレーニング・ダイブを必修とするエントリー・レベルのスクーバ認定
3. PADI Adventure Diver — エントリー・レベルより上の認定 (少なくとも2種類の認定)
4. PADI Advanced Open Water Diver — エントリー・レベルより上の認定 (少なくとも2種類の認定) ; 20回以上のダ

イビング経験がログブックに記録;ディープ・ダイビングと水中ナビゲーションの経験

5. PADI Rescue Diver — ダイビング・レスキュー認定を受けていることの証明
6. EFR Primary Care (一次ケア) — 過去24か月以内に CPRトレーニングを受けていることの証明
7. EFR Secondary Care (二次ケア) — 過去24か月以内にファーストエイド・トレーニングを受けていることの証明

## 人数比 - インストラクター対生徒ダイバー

人数比を決定する前に、正しい判断力を用いて、リスク評価を実施する。別途指定がなければ、下記にリストされる人数比を絶対最大人数比とする。

### 限定水域ダイブ

1:10 認定アシスタント1名につき、生徒ダイバー4名まで加えることができる。

10～11歳の子供がプールではなく海の限定水域に参加する場合には、人数比は1:4とし、グループに入れてもよい10～11歳の子供の数は2人までとする。この人数比は、認定アシスタントを加えても増やすことはできない。

### オープンウォーター・ダイブ

1. 1:8 認定アシスタント1名につき、生徒ダイバー4名まで加えることができる。
2. 10～11歳の子供が参加する場合には、人数比は1:4とし、グループに入れてもよい10～11歳の子供の数は2人までとする。この人数比は、認定アシスタントを加えても増やすことはできない。
3. 下記にリストするリスク評価要素に基づいて、安全とコントロールのために、必要に応じて人数比を減らす：
  - a. ウォーター・コンディション - 水の動き、水温、透視度、深度、水中生物、エントリー／エキジット方法
  - b. 天候状態

- c. ダイブの必修条件
  - d. 認定アシスタントの人数
  - e. 自分自身の能力、限界、そのダイビング・ポイントをどの程度よく知っているか
  - f. 参加者の年齢、能力、経験、落ち着きのレベル
4. マルチレベル・トレーニングには、最も控え目なコース人数比を用いる。
  5. 認定ダイバーが未認定ダイバー（エントリー・レベルまたはDiscover Scuba Diving）に加わる場合には、認定ダイバーを人数比に数え入れ、グループ内で資格が最も低い人の生徒ダイバー／参加者人数比の範囲内に留まる。

## リスクの軽減、プロフェッショナル判断、責任

PADIコースおよびプログラムでは、ダイバー、環境、器材、心身に関わる要素（PADI's *Guide to Teaching*を参照）をチェックすることにより、生徒ダイバーに対してリスク評価を実施する。PADIプログラムにおいて決定を下し、判断を適用するに当たっては、常に控え目を心がけ、慎重すぎるくらい慎重になる必要がある。

ストレスや不安を最小限に抑え、水中でのパニックを防ぐようダイバーをトレーニングする。ダイバーが見せる不安やパニックの徴候に注意し、ストレスを感じて不安になっている人をいつでもサポートできるよう集中力を保つ。

常に周囲に目を配り、自分の任務に集中する。「上を目指す努力－責任の実行」の「PADIメンバーの行動規範」を参照。

## 浅い水域

足がつく浅い場所。

## 監督

**PADIコースおよびプログラムのすべてのスクーバ・ダイビング活動の管理にあたる。**

コースのインストラクター・ガイドで別途に指定されている場合を除いて、間接的監督でよい。

### 監督のレベル

1. 直接的監督 – 生徒ダイバーがスキルを達成できているかどうかと、理論的知識を理解できているかどうかを観察し、評価する。特定のコース規準またはプロフェッショナル・メンバーシップ規準で指定されている場合を除いて、この責任を認定アシスタントに代行させることはできない。
2. 間接的監督 –
  - a. ダイビング・ポイント:現場において管理にあたらなければならないが、必ずしもすべての活動を直接的に監督する必要はない。ダイビング活動を承認し、潜水計画、準備、器材チェック、エントリー、エキジット、ディブリーフィングを監督し、即座にエントリーできる態勢でいる。
  - b. クラスルーム:現場において、必要に応じて生徒のニーズに対応し、管理を引き受ける態勢を整えておく。
3. 指示の下 – コース中、いつでもコンサルテーションを行える態勢でいなければならないが、トレーニングセッション中に必ずしも現場にいる必要はない。参加者のログブックとトレーニング・レコードに連署して、達成条件がすべて満たされていることを確認する。

## トレーニング順序

PADIコースの達成条件は、単純なものから複雑なものへと進むように設計されている。一般に、知識とスキル開発の各部分は、前の部分に基づいている。**したがって、コースのインストラクター・ガイドで別途に指定されている場合を除いて、順序通りにコースの各部分を教える必要がある。**

# 主要規準

## ダイバー年齢制限

規準の詳細については各インストラクター・ガイドを参照。また、「上を目指す努力 - 責任の実行」の「コース・リーダーの義務」を参照。

### 年齢 - 8歳と9歳

**深度** - 最大4メートル / 12フィート (BubblemakerとPADI Seal Teamの各コース・ガイドを参照)

**責任とリスク (限定水域)** - プログラム / コースの前に、親 / 保護者と子供はBubblemakerまたはPADI Seal Teamの事務手続き上の書類に必要事項を記入する。

### 年齢 - 10歳と11歳

**プール・ダイブの人数比** - 1:10 認定アシスタント1名につき、生徒ダイバー4名まで追加しても良い

**海の限定水域およびオープンウォーター・ダイブの人数比** - 1:4 グループに10歳と11歳の子供は2人まで。この人数比は、認定アシスタントを加えても増やすことはできない。

**深度** - 最大12メートル / 40フィート

**認定後** - 親 / 保護者またはPADI Professionalと一緒に最大深度12メートル / 40フィートまで

**責任とリスク (海の限定水域とオープンウォーター)** - コースの前に、親 / 保護者 および子供は:

- ・ 「子供のためのダイビング: 責任とリスク」DVDを見る (または、「子供のためのダイビング: 責任とリスク」フリップチャートを見る)
- ・ 「子供のためのダイビング: 責任とリスクの承認書」を読み、署名する
- ・ 親 / 保護者と子供が管理フォームに署名

### 年齢 - 12歳と14歳

**深度** - Junior Open Water Diverは最大18メートル / 60フィート、継続教育は最大21メートル / 70フィート

**認定後** - 成人の認定ダイバーと一緒にでなければならない

**責任とリスク** - 親 / 保護者および子供が事務手続きの書類に署名する

### 年齢 - 18歳未満

**責任とリスク** - 親 / 保護者および子供が事務手続きの書類に署名する (法定年齢が18歳以上の国では、その年齢まで親 / 保護者が事務手続きの書類に署名する)

## PADIコースおよびプログラムのまとめ

規準の詳細については各インストラクター・ガイドを参照。

コース/プログラム	最低年齢	参加前条件	水中トレーニングダイブ/ 最低ダイブ数	人数比	最低インストラクター資格	推奨時間
Emergency First Response <sup>®</sup> Primary Care (CPR)	-	-	-	1:1-12*	EFR Instructor	4-8
Secondary Care (ファーストエイド)	-	-	-	1:1-12*	EFR Instructor	2-4
Discover Snorkeling	-	-	Guided snorkeling	-	ダイブマスター	-
Skin Diver (Advanced Snorkeler)	8	-	限定水域 (5m/15ft まで) (オープンウォーター・ダイブ推奨)	1:16 (1:10)	Divemasterあるいは Freediver Instructor	12
PADI Seal Team	8	-	プール (2m/6ft まで)	1:6	インストラクター	2
			プール (2m/6ft まで)	1:4	Assistant Instructor	
			プール (2~4m/6~12ft)	1:2	InstructorあるいはAI	
Bubblemaker	8	-	プール	1:6	インストラクター	1
			プール	1:4	Assistant Instructor	
			限定水域	1:4	InstructorあるいはAI	
Discover Scuba Diving	10	-	プール	1:8	InstructorあるいはAI	1-3
			プール	1:4	DSD <sup>®</sup> Leader	
			限定水域	1:4 †	InstructorあるいはAI	
			限定水域	1:2	DSD Leader	
			オープンウォーター - 潜降ライン 1 オープンウォーター・ダイブ	1:1 1:4 †	インストラクター インストラクター	
ReActivate	10	PADI (Junior) Scuba Diver	限定水域	1:10	ダイブマスター	-
			オープンウォーター・ダイブ	1:8		
Discover Local Diving	10	PADI (Junior) Scuba Diver	1 オープンウォーター・ダイブ	-	ダイブマスター	-
PADI Scuba Diver/Junior	15/10	-	3 限定水域	1:10 †	インストラクター	19
			2 オープンウォーター・ダイブ	1:8 †		
Open Water Diver/Junior	15/10	-	5 限定水域	1:10 †	インストラクター	31
			4 オープンウォーター・ダイブ	1:8 †		
Adventure Diver/Junior	15/10	(Junior) Open Water Diver	3 オープンウォーター・ダイブ	1:8 †	インストラクター	9
Advanced Open Water Diver/Junior	15/12	(Junior) Open Water Diver	5 オープンウォーター・ダイブ	1:8	インストラクター	15
Rescue Diver/Junior	15/12	(Junior) Adventure Diver と Underwater Navigation Adventure Dive	オープンウォーター 10課題/2シナリオ	1:8	インストラクター	25
Master Scuba Diver/Junior	15/12	(Junior) Advanced Open Water Diver, (Junior) Rescue Diver と 5種類のPADI Specialty あるいは TecRec コース	-	-	インストラクター	-

注意: 人数比は良好なコンディションでのみ適用される。荒れていたり、濁りがあつたり、非常に低温の水域、その他、あらゆる状況下において生徒ダイバーの安全のため人数比を減らした方がよい。(本ガイドの「人数比 - インストラクター対生徒ダイバー」の項を参照)

• 生徒12名に対し、インストラクター1名とマネキン1体

† 年齢10~11歳の子供を伴うオープンウォーター・トレーニング・ダイブの場合、インストラクター対生徒ダイバーの最大人数比は1:4とする。生徒ダイバー4名のグループに入れることができる10~11歳の子供の数は2人以下とする。

# PADI Specialty Diverコースのまとめ

規準の詳細については各インストラクター・ガイドを参照。

スペシャルティ・コース	最低年齢	参加前条件	最低オープンウォーター・トレーニング	人数比	最低インストラクター資格	推奨時間
Adaptive Support Diver	15	Open Water Diverあるいは Freediver	1 限定水域 1 オープンウォーター・ワークショップ	1:9 1:6	Adaptive Techniques Specialty Instructor	10
Adaptive Techniques	18	DivemasterあるいはMaster Freediver	2 限定水域 2 オープンウォーター・ワークショップ	1:9 1:6	Adaptive Techniques Specialty Instructor	16
Altitude Diver	10	(Junior) Open Water Diver	2 オープンウォーター・ダイブ	1:8†	Altitude Specialty Instructor	12
AWARE - Dive Against Debris*	12	(Junior) Open Water Diver	1 オープンウォーター・ダイブ	1:8	AWARE - Dive Against Debris* Specialty Instructor	12
AWARE - Shark Conservation Diver	12	(Junior) Open Water Diver	2 オープンウォーター・ダイブ	1:8	AWARE - Shark Conservation Specialty Instructor	12
Boat Diver	10	(Junior) Open Water Diver	2 オープンウォーター・ダイブ	1:8†	Boat Specialty Instructor	12
Cavern Diver	18	Advanced Open Water Diver	4 オープンウォーター・ダイブ	1:8 1:2**	Cavern Specialty Instructor	24
Coral Reef Conservation	-	-	-	-	Assistant Instructor	4
Deep Diver	15	Adventure Diver	4 オープンウォーター・ダイブ	1:8	Deep Specialty Instructor	24
Delayed Surface Marker Buoy (DSMB) Diver	12	(Junior) Open Water Diver	2 オープンウォーター・ダイブ	1:8	DSMB Specialty Instructor	12
Digital Underwater Photographer	- 10	- (Junior) Open Water Diver	1あるいは2スノーケル・ダイブ 1あるいは2オープンウォーター・ダイブ	- 1:8†	Digital Underwater Photo Specialty Instructor	12
Diver Propulsion Vehicle (DPV) Diver	12	(Junior) Open Water Diver	2 オープンウォーター・ダイブ	1:8	DPV Specialty Instructor	12
Drift Diver	12	(Junior) Open Water Diver	2 オープンウォーター・ダイブ	1:8	Drift Specialty Instructor	12
Dry Suit Diver	10	(Junior) Open Water Diver	1 限定水域ダイブ 2 オープンウォーター・ダイブ	1:8†	Dry Suit Specialty Instructor	12
エンリッチド・エア・ダイバー	12	(Junior) Open Water Diver	2 オープンウォーター・ダイブ (オプション)	1:8	Enriched Air Specialty Instructor	18
Emergency Oxygen Provider	-	-	-	1:12	Emergency Oxygen Provider Specialty Instructor	3
Equipment Specialist	10	PADI (Junior) Scuba Diver	-	-	Equipment Specialty Instructor	6
Fish Identification Diver	10	(Junior) Open Water Diver	2 オープンウォーター・ダイブ	1:8†	Fish Identification Specialty Instructor	12
Full Face Mask Diver	12	(Junior) Open Water Diver	1 限定水域ダイブ 2 オープンウォーター・ダイブ	1:8	Full Face Mask Specialty Instructor	15
Ice Diver	18	Advanced Open Water Diver	3 オープンウォーター・ダイブ	1:2	Ice Specialty Instructor	24
Night Diver	12	(Junior) Open Water Diver	3 オープンウォーター・ダイブ	1:8	Night Specialty Instructor	12
Peak Performance Buoyancy	10	(Junior) Open Water Diver	2 オープンウォーター・ダイブ	1:8†	Assistant Instructor	5
Project AWARE Specialist	-	-	-	-	Assistant InstructorもしくはProject AWARE Specialty Instructor	4
Public Safety Diver*	18	Advanced Open Water Diver	4 オープンウォーター・ダイブ	1:8	Public Safety Diver Specialty Instructor	30

次のページに続く

## PADI Specialty Diverコースのまとめ(続き)

スペシャルティコース	最低年齢	参加前条件	最低オープンウォーター・トレーニング	人数比	最低インストラクター資格	推奨時間
Search & Recovery Diver	12	(Junior) Advanced Open Water Diver+	4 オープンウォーター・ダイブ	1:8	Search & Recovery Specialty Instructor	24
Self-Reliant Diver	18	Advanced Open Water Diver	3 オープンウォーター・ダイブ	1:8	Self-Reliant Specialty Instructor	24
Semiclosed Rebreather Diver (Dolphin/Atlantis)	15	Advanced Open Water Diver++ と Enriched Air Diver	3 オープンウォーター・ダイブ	1:6	Semiclosed Rebreather Specialty Instructor	24
Sidemount Diver	15	Open Water Diver	3 オープンウォーター・ダイブ	1:8	Sidemount Specialty Instructor	12
Underwater Naturalist	10	(Junior) Open Water Diver	2 オープンウォーター・ダイブ	1:8†	Underwater Naturalist Specialty Instructor	12
Underwater Navigator	10	(Junior) Open Water Diver	3 オープンウォーター・ダイブ	1:8 †	Underwater Navigation Specialty Instructor	12
Underwater Photographer	10	(Junior) Open Water Diver	2 オープンウォーター・ダイブ	1:8 †	Underwater Photography Specialty Instructor	12
Underwater Videographer	10	(Junior) Open Water Diver	3 オープンウォーター・ダイブ	1:8 †	Underwater Videography Specialty Instructor	12
Wreck Diver	15	Adventure Diver	4 オープンウォーター・ダイブ	1:8 1:2**	Wreck Specialty Instructor	24

**注意: 人数比は良好なコンディションでのみ適用される。** 荒れていた、濡りがあったり、非常に低温の水域、その他、あらゆる状況下において生徒ダイバーの安全のため人数比を減らした方がよい。(本ガイドの「人数比 - インストラクター対生徒ダイバー」の項を参照)  
 † 年齢10~11歳の子供を伴うオープンウォーター・トレーニング・ダイブの場合、インストラクター対生徒ダイバーの最大人数比は1:4とする。生徒ダイバー4名のグループに入れることができる10~11歳の子供の数は2人以下とする

\*\* カバーン/レックでのベネトレーション時の人数比

+ Junior Open Water Diver, Open Water DiverとPADI Underwater Navigator認定も条件を満たす

++ Open Water Diverとログに記録されたダイブ本数10本も条件を満たす

## PADI Freediver™ コースのまとめ

規準の詳細については各インストラクター・ガイドを参照。

コース	最低年齢	参加前条件	最低オープンウォーター・トレーニング	人数比	最低インストラクター資格	推奨時間
Discover Freediving	12	-	ドライおぼび/あるいは1 限定水域	1:8	Freediver Instructor	1-3
Basic Freediver	12	-	1 限定水域	1:8	Freediver Instructor	15
Freediver	15	-	1 限定水域 2 オープンウォーター	1:8 1:4	Freediver Instructor	15
Advanced Freediver	15	Freediver	1 限定水域 2 オープンウォーター	1:8 1:4	Advanced Freediver Instructor	15
Master Freediver	18	Advanced Freediver	1 限定水域 2 オープンウォーター	1:8 1:4	Master Freediver Instructor	15

**注意: 人数比は良好なコンディションでのみ適用される。** 荒れていた、濡りがあったり、非常に低温の水域、その他、あらゆる状況下において生徒ダイバーの安全のため人数比を減らした方がよい。(各インストラクター・ガイドの「人数比 - インストラクター対生徒ダイバー」の項を参照)

一般規準と手続き

## PADI TecRec®コースのまとめ

規準の詳細については各インストラクター・ガイドを参照。

プログラム/コース	最低年齢	参加前条件	水中トレーニングタイプ/最低ダイブ数	人数比	最低インストラクター資格	推奨時間
Gas Blender	18	エンリッチド・エア・ダイバー	—	1:10	Gas Blender Instructor	10
Trimix Blender	18	エンリッチド・エア・ダイバー	—	1:10	Trimix Blender Instructor	10
Tec 40	18	Advanced Open Water Diver, Enriched Air Diver, Deep Diver	4 (1限定水域/海の限定水域、3オープンウォーター)	1:3	Tec Instructor	15
Tec 45	18	Tec 40 Rescue Diver	4 (1限定水域/海の限定水域、3オープンウォーター)	1:3	Tec Deep Instructor	15
Tec 50	18	Tec 45 Rescue Diver	4 (1限定水域/海の限定水域、3オープンウォーター)	1:3	Tec Deep Instructor	15
Tec Trimix 65	18	Tec 50 Rescue Diver	5 (1限定水域/海の限定水域、3オープンウォーター)	1:3	Tec Trimix Instructor	15
Tec Trimix	18	Tec 50 Rescue Diver	8 (1限定水域/海の限定水域、3オープンウォーター)	1:3	Tec Trimix Instructor	18
Rebreather Diver	18	Open Water Diver, Enriched Air Diver	6 (1限定水域、1限定あるいはオープンウォーター、4オープンウォーター)	1:4	Rebreather Instructor+	21
Advanced Rebreather Diver	18	Open Water Diver, Rebreather Diver+	5 (1限定水域、4オープンウォーター)	1:4	Rebreather Instructor+	18
Tec Sidemount	18	Advanced Open Water Diver	5 (1限定水域/海の限定水域、4オープンウォーター)	1:4	Tec Sidemount Instructor	18
Tec 40 CCR	18	Advanced Open Water Diver, Enriched Air Diver, Deep Diver	8 (2限定水域/海の限定水域、6オープンウォーター)	1:4	Tec 40 CCR Instructor +	30
Tec 60 CCR	18	Tec 40 CCR+ Rescue Diver	7 (1限定水域/海の限定水域、6オープンウォーター)	1:4	Tec 60 CCR Instructor+	27
Tec 100 CCR	18	Tec 60 CCR+ Rescue Diver	6 (1限定水域/海の限定水域、5オープンウォーター)	1:2	Tec 100 CCR Instructor+	27

+ 特定の種類のリブリーザー/CCRユニットでの認定

## PADIメンバーシップ・レベルのコースおよびプログラムの まとめ

規準の詳細についてはインストラクター・ガイドを参照。

メンバーシップ・レベル	最低年齢	参加前条件	人数比	最低インストラクター資格	推奨時間
ダイブマスター	18	Advanced Open Water Diver と Rescue Diver	1:8	Open Water Scuba Instructor	50
EFR Instructor	18	EFRプロバイダーレベルのトレーニング	1:11:12*	EFR Instructor Trainer	16
Assistant Instructor	18	ダイブマスター	1:8	IDC Staff Instructor	40
Open Water Scuba Instructor	18	ダイブマスター	1:8	Course Director	90
Specialty Instructor	18	Assistant Instructor	—	Course Director*	—
Master Scuba Diver Trainer (MSDT)	18	Instructorと5種類のPADI Specialty Instructor資格**	—	*	—
Gas Blender Instructor	18	Instructor, Enriched Air Specialty Instructor資格 と Gas Blender	—	Gas Blender Instructor Trainer	—
Trimix Blender Instructor	18	Instructor, Enriched Air Specialty Instructor資格と Trimix Blender	—	Trimix Blender Instructor Trainer	—
Rebreather Instructor	18	Instructor, Enriched Air と Deep Specialty Instructor資格 Advanced Rebreather Diver+	—	Rebreather Instructor Trainer	—
Tec Sidemount Instructor	18	Instructor, Enriched Air と Deep Specialty Instructor資格 Tec 45 Diver	—	Tec Sidemount Instructor Trainer	—
Tec Instructor	18	Instructor, Enriched AirとDeep Specialty Instructor 資格	—	Tec Deep Instructor Trainer	—
Tec Deep Instructor	18	Instructor, Enriched AirとDeep Specialty Instructor 資格	—	Tec Deep Instructor Trainer	—
Tec Trimix Instructor	18	MSDTとTec Deep Instructor資格	—	Tec Trimix Instructor Trainer	—
Tec 40 CCR Instructor	18	MSDT, Enriched AirとDeep Specialty Instructor資格; Tec 40 CCR Diver+	—	Tec 40 CCR Instructor Trainer+	—
Tec 60 CCR Instructor	18	Tec 40 CCR Instructor+ と Tec 60 CCR Diver+	—	Tec 60 CCR Instructor Trainer+	—
Tec 100 CCR Instructor	18	Tec 60 CCR Instructor+ と Tec 100 CCR Diver+	—	Tec 100 CCR Instructor Trainer+	—
Freediver Instructor	18	Master Freediver (経験のあるAdvanced Freediver)	—	Freediver Instructor Trainer	—
Advanced Freediver Instructor	18	講習経験のあるFreediver Instructor	—	*	—
Master Freediver Instructor	18	講習経験のあるAdvanced Freediver Instructor	—	*	—
IDC Staff Instructor	18	Master Scuba Diver Trainer	—	Course Director	18
Master Instructor	20	IDC Staff Instructor と EFR Instructor	—	*	—
PADI Alumni	18	Divemaster, Assistant Instructor あるいは Instructor	—	*	—

\* 候補生12名に対し、インストラクター1名とマネキン1体

\* 直接申請での承認、あるいはPADIオフィスによるトレーニング修了

+ 特定の種類のリブリーザー/CCRユニットでの認定

\*\* Peak Performance Buoyancy, Project AWARE, Coral Conservation Specialty Instructorの資格は含まれない。PADI Freediver Instructor資格が一つだけクレジット可能。

## PADI Instructor Trainerコースおよびプログラムのまとめ

規準の詳細についてはインストラクター・ガイドを参照。

メンバーシップ・レベル	最低年齢	参加前条件	人数比	最低インストラクター資格	推奨時間
Course Director	20	Master InstructorとEFR Instructor Trainer	—	*	—
Specialty Instructor Trainer	20	Course DirectorとSpecialty Instructor	—	*	—
EFR Instructor Trainer	18	講習経験のあるEFR Instructor	1:1-12*	*	8
Freediver Instructor Trainer	20	Course Directorと/あるいはMaster Freediver Instructor	—	*	—
Gas Blender Instructor Trainer	20	Course Director/TecRec Instructor TrainerとGas Blender Instructor	—	*	—
Trimix Blender Instructor Trainer	20	Course Director/TecRec Instructor TrainerとTrimix Blender Instructor	—	*	—
Rebreather Instructor Trainer	20	Course Director/TecRec Instructor TrainerとRebreather Instructor+	—	*	—
Tec Sidemount Instructor Trainer	20	Course Director/TecRec Instructor TrainerとTec Sidemount Instructor	—	*	—
Tec Deep Instructor Trainer	20	Course Director/TecRec Instructor Trainerと/あるいはTec Deep Instructor	—	*	—
Tec Trimix Instructor Trainer	21	Tec Deep Instructor TrainerとTec Trimix Instructor	—	*	—
Tec 40 CCR Instructor Trainer	20	Course Director/TecRec Instructor TrainerとTec 40 CCR Instructor+	—	*	—
Tec 60 CCR Instructor Trainer	20	Course Director/TecRec Instructor Trainer, Tec 40 CCR Instructor TrainerとTec 60 CCR Instructor+	—	*	—
Tec 100 CCR Instructor Trainer	20	Course Director/TecRec Instructor Trainer, Tec 60 CCR Instructor TrainerとTec 100 CCR Instructor+	—	*	—

\* 直接申請での承認、あるいはPADIオフィスによるトレーニング修了

• 候補生12名に対し、インストラクター1名とマネキン1体

+ 特定の種類のリブリーザー/CCRユニットでの認定

# 書類と事務手続き

## 認定

コースの知識とスキルの達成条件をすべてマスターしたことをデモンストレーションし、他のコース必要条件をすべて満たしたダイバーは、認定証 (PIC) を取得する。**ダイバーは自分で責任を持って、受けたトレーニングと経験の限度内でダイビングしなければならないことを強調して伝える。**

最後のオープンウォーター・ダイブで達成条件を確認、またはダイブを伴わないコースは最後の達成条件を確認したインストラクターが認定を行なう。生徒ダイバーがすべてのコース必要条件を終了してから7日以内に:

1. PIC (封筒またはオンライン\*) または申請書をPADIオフィスへ提出する。クオリティ・マネージメントを目的とした、生徒ダイバー／参加者の正確な連絡先情報が含まれる。

例外: 生徒ダイバー側の事情で遅れが生じた場合。

\* PADI Rebreather DiverコースとTec CCRコースはPICオンラインのみで提出できる。(2020年12月現在、日本では紙のPICのみ)

2. テンポラリー・カードまたは認定カードのいずれかを生徒ダイバーに発行する。

認定証は、生徒ダイバーがコースの達成条件と承諾済みの支払い条件を満たした場合にのみ発行する。個人的な争い事の解決手段として認定を保留してはならない。

## 書類作成

1. コース開始時に (水中活動を始める前に)、生徒ダイバーは以下の各書類を読み、必要事項を記入し、署名する:
  - 免責同意書 (10072) (日本の場合はPADIコースの危険の告知書) 欧州連合の場合は、EUリスクと責任に関する同意書 (10175) (「非代理人の公開および確認の同意書」を含む)
  - PADI安全潜水実施了解声明書
  - ダイバーメディカル／参加者チェックシート

**例外:**水中活動を伴わないコース、一部の継続教育コース(下記にリスト)、および専用の書類があるプログラム(ディスカバー／エクスペリエンス／TecRecプログラムなど)。Open Water Diverコースのダイブ4と同じ日に修了したアドベンチャー・ダイブは、Open Water Diverコースの書類でカバーされる。

## 健康上の適性

1. **ダイバーメディカル／参加者チェックシート、1ページ目の質問項目3, 5, 10のいずれかに「Yes」と答えた場合には、水中活動の前条件として、医師から文書による許可を得なければならない。**
2. **ダイバーメディカル／参加者チェックシート、1ページ目の質問項目1, 2, 4, 6, 7, 8, 9のいずれかに「Yes」と答えた場合には、参加者/生徒は2ページ目の質問項目に回答する必要がある。ダイバーメディカル／参加者チェックシート、2ページ目の質問項目のいずれかに「Yes」と答えた場合には、水中活動の前条件として、医師から文書による許可を得なければならない。**
3. **医師が指摘した制限や条件はあってはならない** (深度制限、水温制限、等。)
4. **医師からの文書による許可の有効期限は1年間。**  
**例外:**ダイビングに関する健康上の条件は国によって異なるため、所属PADIオフィスに問い合わせること。
5. **文書による許可に署名する医師が生徒本人であってはならない。**
6. **生徒ダイバーがPADIコース参加中に病気になったりケガをしたりした場合には、その後の水中活動を始める前に、あらためてダイバーメディカル／参加者チェックシートに記入してもらう。医学的状態が変わったことで、新しい項目にイエスが記入されることになったかどうか確認する。新しい項目にイエスが記入された場合には、水中トレーニングを再開する前に、医師からダイビングしてもよいという許可を得なければならない。**

2. **Adventure Diver、Advanced Open Water Diver、Rescue Diver、Master Scuba Diver、Specialty Diverの各コースについては、上記3種類の書類が入っていて、同じインストラクター、ダイブセンターもしくはリゾートで12ヶ月以内に受けた継続教育コースに適用される継続教育専用書式を使用する。**
3. **18歳未満の場合は、親／保護者と子供の両者が必要書類に署名しなければならない。**

**例外:**法定年齢が18歳以上の国では、その年齢まで親／保護者が必要書類に署名する。

4. 10～11歳の子供については、親／保護者と子供に「子供のためのダイビング:責任とリスク」DVDを見せ(または「子供のためのダイビング:責任とリスク」フリップチャート)、「子供のためのダイビング:責任とリスクの承認書」を読んで、限定水域やオープンウォーターに行く前に署名してもらう。
5. 生徒ダイバーはオープンウォーター・ダイブをログに記録する。各生徒ダイバーのログに署名する（デジタルログを除く）。
6. 各生徒ダイバー／参加者のトレーニング修了記録を、法律の定める年数または7年間のどちらか長いほうに従って保管する。

## 書式

最新の書式をPADIプロサイトからダウンロードすること。各国固有の免責同意書、申請書、書式については、所属PADIオフィスに確認する。下記の書式はPADIコースおよびプログラムに一般に適用されるものである。各インストラクター・ガイドに、それぞれの必要書式と推奨書式がリストされている。PADI OLPC (オンライン・プロセッシング・センター)を通じて、生徒ダイバーにデジタル書式を送り、生徒ダイバーがそれを完了し、署名したものを送ることができることに注意する。

Cカード再発行申請書 (10225J)

Release of Liability/Assumption of Risk/Non-agency Acknowledgment Form – Certified Diver Experience Programs (10074)

継続教育専用書式 (10038J)

ダイビング事故報告書 (10120J)

Release of Liability/Assumption of Risk/Non-agency Acknowledgment Form – 免責同意書 (10072) (日本の場合はPADIコースの危険の告知書)

ダイバーメディカル／参加者チェックシート (10346J)  
Never Received Card Form (10226)  
クオリティ・アシュアランス情報書式 (10117J)  
PADI安全潜水実施了解声明書 (10060J)  
トレーニング修了記録 (10234J)  
ウォータースキル・チェック・リスト (10081J)  
子供のためのダイビング: 責任とリスクの承認書 (10615J)  
子供のためのダイビング: 責任とリスク フリップチャート  
(79130J)

### 追加書式

Release of Liability/Assumption of Risk/Non-agency  
Acknowledgment Form – Boat Travel and Scuba Diving  
(10077)

Release of Liability/Assumption of Risk/Non-agency  
Acknowledgment Form – Equipment Rental Agreement  
(10087)

Release of Liability/Assumption of Risk/Non-agency  
Acknowledgment Form – Special Event (10085)

Release of Liability/Assumption of Risk/Non-agency  
Acknowledgment Form – Travel and Excursions (10079)

## ダイビング事故報告書

ダイビング事故を目撃した場合、あるいは本人が事故に関わった場合には、水中で起きたものか、陸上で起きたものか、トレーニング関連か、レクリエーションか、テクニカルかにかかわらず、また、見たところ大したことではないように思われるものであっても、ダイビング関連の事件／事故を目撃した場合、あるいは関わった場合には、ただちにPADI事故報告書をPADIオフィスへ提出する。

## 知識開発評価

1. 生徒ダイバーはコースのナレッジレビューを修了する。
2. インストラクター（または認定アシスタント）の監督の下で、生徒ダイバーは本を閉じてクイズとエグザムを受ける。

例外：PADI eLearning教材のクイズとエグザムはオンラインで受ける。認定には、いくつかの時点で本を閉じてエグザムを行なうデジタル学習者用にクイックレビューを適用し、管理をする。

3. 口頭によるエグザムは、以下の場合にのみ許可される：
  - エグザムが生徒ダイバーに理解できる言語に翻訳されていない。
  - 生徒ダイバーに学習障害があり、医師や精神分析医などからその診断書を受けている。
4. 答えを間違えたナレッジレビュー、クイズ、エグザム、およびeLearningクイックレビューの問題について、生徒ダイバーが内容を理解するまで復習する。クイズ、エグザム、またはクイックレビューで点数が75%に満たなかった生徒ダイバーには、再テストを行なう。PADI eLearnerの再テストには、そのコースのファイナル・エグザムを使用する。理解したことの確認として、生徒ダイバーに日付と署名を記入させる。

## コースリンク

2ダイブ以上のダイブを行なうアドベンチャー・ダイブやスペシャルティ・コースの達成条件を1ダイブにまとめて、1つ以上の認定クレジットを受けるようにしてはならない。次のように、クレジットになるようダイバーにクレジットを与えてコースリンクさせる：

### Skin Diver (Advanced Snorkeler)からPADI Seal Team

認定Skin Divers (Advanced Snorkelers)は、PADI Seal Teamアクアミッション: スキン・ダイバー・スペシャリストのクレジットを受けることができる。

## PADI Seal TeamからOpen Water Diverコース

PADI Seal Teamメンバーは、インストラクターがアクアミッション1~5を実施するか、アクアミッション5のスキル・サーキットでスキルマスタリーを評価すれば、Open Water Diverコース限定水域ダイブ1のクレジットを受けることができる。このリンクは、最後のアクアミッションを修了してから12か月間有効。

## Discover Scuba DivingからOpen Water Diverコース

Discover Scuba Divingプログラムで、インストラクターがOpen Water Diverコース限定水域ダイブ1のスキルを実施し、参加者がそれをマスターすれば、参加者は限定水域ダイブ1のクレジットを受けることができる。

インストラクターが限定水域ダイブ1のスキルをマスターしている参加者とオープンウォーター・ダイブ1を実施すれば、参加者はOpen Water Diverコース・ダイブ1のクレジットを受けることができる。

## PADI Scuba DiverからOpen Water Diverコース

**以下を含めて、Open Water Diverコースの残りの部分を実施する：**

1. 知識開発4と5、クイズとファイナル・エグザム
2. 限定水域ダイブ4と5
3. オープンウォーター・ダイブ3と4、残りのダイブ・フレキシブル・スキル
4. 200メートル／ヤードのノンストップ水泳、またはマスク、スノーケル、フィンを使って300メートル／ヤードの水泳を修了したかどうかを確認

## Open Water DiverコースからSpecialty Diverコース

**PADI Open Water Diverコースと同時に実施できるコース（同時に実施するのは1コースのみとし、そのスペシャルティのPADI Specialty Instructor資格を持っていない限り）。Specialtyダイブ2は、Open Water Diverの認定後に行わ**

## れ、Advanced Open Water Diverコースのクレジットになるダイブになる：

1. Peak Performance Buoyancy – 知識開発はコース中いつでも実施できる。Peak Performance Buoyancyダイブ1のスキルは、ダイブ2、3、4で実施する。コースダイブ以外に別途ダイブを実施し、Peak Performance Buoyancyダイブ2のスキルを修了する。
2. Project AWAREあるいはPADI Coral Reef Conservationコース – コース中いつでも実施できる。
3. Enriched Air Diver – 知識開発、プレダイブ・シミュレーション、実践応用練習は、コース中いつでも実施できる。エンリッチド・エア・ダイブは必須ではないが、Enriched Air Diver認定を取得するには、Open Water Diver認定を取得する必要がある。参加前生徒ダイバーの最低年齢は12歳。
4. Digital Underwater Photographerレベル1 – 知識開発はコース中いつでも実施できる。レベル1フォトダイブは限定水域ダイブ3後に限定水域で実施するか、オープンウォーター・ダイブ4のツアーの一部としてオープンウォーターで実施する。コースダイブ以外に、レベル2用にオープンウォーターで別途ダイブを実施する。
5. Altitude Diver – 知識開発はコース中いつでも実施でき、4回のコースダイブをすべて高所で実施する。ダイブ2、3、4でアルティチュード・ダイブ1のスキルを修了する。コースダイブ以外に別途ダイブを実施して、アルティチュード・ダイブ2のスキルを修了する。
6. Boat Diver – 知識開発はコース中いつでも実施でき、4回のコースダイブをすべてボートから実施する。ダイブ2、3、4でボート・ダイブ1のスキルを修了する。コースダイブ以外に別途ダイブを実施して、ボード・ダイブ2のスキルを修了する。
7. Dry Suit Diver – 知識開発と限定水域達成条件はコース中いつでも実施でき、4回のコースダイブをすべてドライスーツで実施する。ダイブ2、3、4でドライスーツ・ダイブ1のスキルを修了する。コースダイブ以外に別途ダイブを実施して、ドライスーツ・ダイブ2のスキルを修了する。

8. Sidemount Diver – 知識開発、限定水域達成条件と実際応用はコース中いつでも実施できる。ダイブ2、3、4のなかでサイドマウント・ダイブ1のスキルを修了する。Open Water Diver認定後にサイドマウント・ダイブ2と3を終了する。参加前生徒ダイバーの最低年齢は15歳。
9. Delayed Surface Marker Buoy (DSMB) – コース中いつでも知識開発を行なうことができる。ダイブ2、3、4の間いつでもDSMBのダイブ1のスキルを実施することができる。コースダイブ以外に別途ダイブを実施して、DSMBのダイブ2のスキルを修了する。
10. Full Face Mask – コース中いつでも知識開発を終了させることができる。フルフェイス・マスク限定水域ダイブは、限定水域ダイブ3以降であればいつでも実施できる。フルフェイス・マスク・ダイブ1は、オープンウォーター・ダイブ3以降であれば、実施できる。フルフェイス・マスク・ダイブ2をダイブ4で、もしくは両方のフルフェイス・マスク・ダイブはダイブ4以降であれば、実施できる。

## Open Water DiverからRescue Diver

PADI Open Water DiverはRescue Diverコースの知識開発部分と限定水域でのレスキュー練習に参加することができる。Rescue Diverコースの認定条件の知識開発部分のクレジットになる。限定水域で学んだスキルは、オープンウォーターでレスキュー練習を繰り返し行なうことで、ダイバーの準備となる。

## Specialty DiverコースからAdvanced Open Water Diverコース

標準化されたPADI / AWARE Specialty Diverコースのダイブ1は、生徒ダイバーがナレッジレビューを修了していれば、Advanced Open Water Diverコースの関連アドベンチャー・ダイブに向けてのクレジットになる(逆も同様)。

**例外:** Digital Underwater Photography Specialtyの場合は、ダイブ1はオープンウォーターでスクーバ器材を使って実施される場合のみ、アドベンチャー・ダイブとしてクレジットされる。それ以外は、Digital Underwater Photographyダイブ2としてクレジットされる。

## Specialty DiverコースからDivemaster

PADI Search and Recovery DiverはDivemasterコースの実践応用4- サーチ&リカバリー・シナリオがクレジットされる。PADI Deep DiverはDivemasterコースの実践応用5 - ディープ・ダイブ・シナリオがクレジットされる。

## Emergency Oxygen ProviderからRescue Diver

Emergency Oxygen Provider Specialtyコースは、Rescue Diverの「レスキュー練習9 - 圧力関連事故のファーストエイドと酸素供給」の代わりになる。

## Rescue DiverからDivemaster

Rescue Diverコースで作成した緊急アシストプランは、Divemasterコースで作成する同じ課題のクレジットになる。

## Dive Theory eLearningからDive Theoryエグザム

12ヶ月以内にDive Theory eLearningを修了すると、以下がクレジットされる：

- Divemasterファイナル・エグザム - パート2
- IDC Staff InstructorコースのDive Theoryエグザム
- Course Directorトレーニング・コースの前条件のDive Theoryエグザム

## クオリティ・マネージメント

**PADI規準違反を自分で目撃した場合には、PADIオフィスへ報告書を提出する。虚偽の報告をしてはならない。**

状況の重大性から、ただちに措置を取る必要があると判断される場合には、調査中でも、メンバーシップのステータスがノンティーチングに変わることがある。

## 委託紹介

委託紹介とは、コース途中の生徒ダイバーが別の場所でコースを続行することを希望する場合に、トレーニング書類を別のPADI Instructorへ引き渡すプロセスである。

委託紹介の有効期間は、最後のトレーニングセグメント修了日から12ヶ月間。

**例外:** Advanced Open Water DiverコースとSpecialty Diverコースに期限はない。

**個人的な争い事の解決手段として委託紹介を保留してはならない。**

**委託紹介書は、生徒ダイバーがコースセグメントを1つ以上修了し、承諾済みの支払い条件を満たした場合にのみ発行する。**

### 一般的な委託紹介手順

**生徒ダイバーを委託紹介する場合：**

1. 各コースのインストラクター・ガイドに従って書類に必要な事項を記入し、生徒ダイバーのダイバー・メディカル(医師の許可)のコピーを添付する。
2. 委託紹介に期限がある場合は、そのことを生徒ダイバーに伝え、残りのトレーニングや前評価に必要な費用など、受け入れ側のインストラクターとどのように対応すべきかを明確に説明する。

**委託紹介された生徒ダイバーを受け入れる場合：**

1. 委託紹介書類を確認する。
2. 水中活動を始める前に、生徒ダイバーは以下の書類に改めて署名する必要がある：
  - Release of Liability/Assumption of Risk/Non-agency Acknowledgment Form – 免責同意書(日本の場合はPADIコースの危険の告知書)
  - PADI安全潜水実施了解声明書

- **ダイバーメディカル／参加者チェックシート**

ダイバーメディカル／参加者チェックシートで、生徒ダイバーが最初のときと違う項目に「Yes」を記入した場合には、水中活動の前条件として、新たに医師から文書による許可を得なければならない。

3. オープンウォーター・ダイブに備えて、オープンウォーター・ダイブのスキル練習を開始する前に、ダイバーのスキルと水中での落ち着きのレベルを評価し、さらにダイビングに関する知識を全般的に評価する。オープンウォーター・ダイブに参加する準備態勢が整っていないと判断される場合には、トレーニングを続行する前に補習を行なう。
4. 生徒ダイバーが最後のオープンウォーター・トレーニングセッションを修了したら、コースの必要条件（水中能力を含む）がすべて満たされていることを確認し、PIC（封筒またはオンライン）または申請書をPADIオフィスへ提出する。

## 特別許可

PADI規準から逸脱する特別許可を得るには、状況に関する具体的な説明と逸脱の理由を含めて、状況の詳しい説明を含めて、特別許可申請書をPADIオフィスへ提出する。承認されると、特別許可がPADIオフィスから発行される。特別許可は個人メンバーに対してのみ与えられるものであり、有効期間は1年間である。特別許可の期限を延長するには、毎年再申請する必要がある。

# OPEN WATER DIVER COURSE

## INSTRUCTOR GUIDE



# PADI®

本ガイドで別途指定されている場合を除き、  
「一般規準と手続きガイド」に概説されている規準は  
PADI Open Water Diverコースに適用される。

この認定を取得しているダイバーは、レクリエーションル・スクーバ・ダイ  
バー・トレーニング  
のISO 24801-2の要件を満たしている-パート2:レベル2-自律ダイバー

# セクション 1

## コース規準

### 認定条件

- クイズとファイナル・エグザムを含めて、5つの知識開発セグメントを修了する。
- 限定水域ダイブ1～5を修了する。
- 水中能力の必要条件を満たす。
- オープンウォーター・ダイブ1～4を修了する。

### 深度

オープンウォーター・ダイブ1と2 – 12メートル／40フィート

オープンウォーター・ダイブ3と4 – 18メートル／60フィート

1日に3ダイブを実施する場合、最後のダイブの最大深度は12メートル／40フィート

ダイブ3の前に行なうエクスカーション・ダイブ – 12メートル／40フィート

### ダイバー参加前条件

- 10歳

注意:10～14歳のダイバーはJunior Open Water Diver認定を取得する。

### 器材

「一般規準と手続きガイド」を参照。

ナビゲーションのスキルにコンパス、ダイブ・フレキシブル・スキルにシグナルチューブ(またはDSMB)が必要。

## エクスカッション・ダイブ

エクスカッション・ダイブとは、エントリー・レベルのトレーニングの際に、正式な達成条件なしで実施される追加ダイブのことを言う。エクスカッション・ダイブにより、生徒ダイバーは監督者の下で、一般的なダイビングスキル(浮力コントロールなど)をオープンウォーターで応用するという経験を得ることができる。**エクスカッション・ダイブは1日に実施できる3回にトレーニング・ダイブにカウントすること。Open Water Diverコースの監督と人数比の条件に従う。**

### 書式

最新の書式をPADIのプロサイトからダウンロードすること。各国固有の免責同意書または書式については、所属PADIオフィスに確認する。

### 必須

免責同意書 (10072) (日本の場合はPADIコースの危険の告知書) 欧州連合の場合は、EUリスクと責任に関する同意書 (10175) (「非代理人の公開および確認の同意書」を含む)

ダイバーメディカル／参加者チェックシート (10346J)

PADI安全潜水実施了解声明書 (10060J)

### 推奨

Open Water Diverコース委託紹介レコード (10056J)

スチューデント・レコード・フォルダー (10058J)

## インストラクター資格

### インストラクター

### 教材

- PADI *Open Water Diver* マニュアル
- ログブック

生徒ダイバーは「PADI Open Water Diverビデオ」を見て、限定水域とオープンウォーター・ダイブのときに、各ダイバーが「PADI スキル練習とダイブ・プランニング・スレート」を使用する。

生徒ダイバーにRDPテーブルまたはeRDPMLの使い方を教える場合には、それぞれの使用説明書が必要（生徒ダイバーが使用するダイブプランナーの使用説明書）。

## 人数比

### 限定水域

1:10 — 認定アシスタント1名につき生徒ダイバー4名を加えることができる。

### オープンウォーター

1:8 — 最大12名まで、認定アシスタント1名につき生徒ダイバー2名を加えることができる。

## 他団体からの委託紹介

他の指導団体からコース修了を委託紹介されたダイバーの受け入れについては、「一般規準と手続きガイド」に規定される委託紹介手順に従う。委託紹介されたダイバーの知識とスキルを前評価する場合、Open Water Diverオンライン・クイックレビュー、ReActivateクイックレビューもしくは、Open Water Diverコースのファイナル・エグザムを行ない、オープンウォーター・トレーニング・ダイブの準備としてOpen Water Diverコースのスキルの復習のために限定水域で前評価する。

注意：詳細については、PADI's *Guide to Teaching*を参照。

## 監督

直接的監督：

1. 水面でも水中でも、誰も生徒ダイバーに付き添っていない状態にしてはならない。

## 2. インストラクターが実施:

- **初回のスキル・トレーニング**

例外:

- インストラクターの直接的監督の下であれば、Assistant Instructorが初回のスキルを実施できる。
- 認定アシスタントは、限定水域ダイブ2、3、4、または5でスキンドイビング・スキルを実施できる。

- **オープンウォーター・ダイブの前に、スキルをマスターしているかどうかを確認するための最終評価**

## 3. オープンウォーター・ダイブはすべてインストラクターが実施し、直接的に監督する。

例外 - インストラクターの間接的監督:

- 認定アシスタントが、エントリー／エキジット・ポイントへ往復する水面移動中とナビゲーション練習中に生徒ダイバーを監督する場合と、インストラクターが生徒ダイバーと浮上や潜降などのスキルを実施している間に、他の生徒ダイバーと一緒に水面または水中に残る場合。
- ダイブ2～4のツアーで、認定アシスタントが生徒ダイバーをガイドする場合(1:2の人数比)。
- Assistant Instructorがオープンウォーターの水面でダイブ・フレキシブル・スキルを評価する場合と、水中で残圧チェックを実施する場合。

## 水中能力評価

**生徒ダイバーはオープンウォーター・ダイブ2の前に、水泳具を使用せずに10分間の立ち泳ぎ／フロートを行なうことによって、足がつかない深さの水面に落ちて浮いていられることをデモンストレーションする。**

**また、生徒ダイバーは認定を受ける前までに、水泳具を使用せずに200メートル／ヤードの距離をノンストップで泳ぐか、マスク、フィン、スノーケルを使用して300メートル／ヤードを泳ぐという課題を修了する。**

コンディションによっては保護スーツを着用してもよいが、その場合にはウエイトをつけて中性浮力をとる。

## サブセット・コース

PADI Scuba DiverはOpen Water Diverコースのサブセットである。PADI Scuba Diver規準については、「PADI Scuba Diver Instructor Guide」を参照。

# セクション 2

## 知識開発

生徒ダイバーは、ナレッジレビュー、クイズ、ファイナル・エグザムを含めて、5つの知識開発セグメントをすべて修了する。

デジタル学習者のために、生徒ダイバーがオンラインで修了しなかったすべての評価を完了させる。オンラインですべての評価を修了した生徒ダイバーは、Open Water Diverクイックレビューを修了する。

ナレッジレビュー、クイズ、エグザムのアンサーキーはPADIのプロサイトに掲載されている。

# セクション 3

## 限定水域

### 限定水域での一般的な注意事項

各スキルに関して、問題なくできるか、もっと練習が必要か「PADIスキル練習とダイブ・プランニング・スレート」に書くよう生徒ダイバーに指示する。これは、生徒ダイバーの自身と能力のレベルをインストラクターが評価するのに役立つ。

### 順序

- 限定水域ダイブ1の前に、生徒ダイバーは知識開発セッション1を修了するか、Discover Scuba Divingの知識開発ブリーフィングを聞く。

- 限定水域ダイブは順序通りに実施し、ある限定水域ダイブで行なうことになっているスキルを、別の限定水域ダイブへ移動してはならない。

例外:このセクションで概説されているダイブ・フレキシブル・スキル。

## 限定水域ダイブの達成条件

### ダイブ・フレキシブル・スキル

- スキン・ダイビング — 限定水域ダイブ2、3、4、または5で、生徒ダイバーは以下をデモンストレーションする：
  1. 足がつかない深さの場所で、水面から垂直に潜る（水を過度にはね散らしたり、腕を動かしたりしない）。
  2. 正しく浮上し、水から顔を上げずにスノーケルをクリアして呼吸する。
  3. スキン・ダイビングの正しいバディチーム手順。
- 器材の準備と手入れ — 生徒ダイバーは：
  1. 限定水域トレーニング中、スクーバキットを5回セッティングし、取り外す。
    - a. 限定水域ダイブ3終了までに少なくとも3回行ない、最後のセッティングと取り外しは、ほとんど手助けなしで行なう。
    - b. 限定水域ダイブ5終了までに少なくとも5回行ない、最後の2回のセッティングと取り外しは、ほとんど手助けなしで行なう。
  2. 限定水域ダイブ3終了までに、器材を流線型にまとめ、きちんと固定する
  3. 限定水域ダイブ3終了までに、ダイビング後のスクーバ器材の正しい手入れ方法をデモンストレーションする。
- パワー・インフレーターから中圧ホースを外す — 生徒ダイバーは浅い場所でパワー・インフレーターから中圧ホースを外す（水中または水面）。
  - a. PADI Scuba Diverの場合は限定水域ダイブ3終了までに。

b. 生徒ダイバー全員が限定水域ダイブ5終了までに。

- 緩んだシリンダー・バンド – いずれかの限定水域ダイブで、生徒ダイバーは緩んだシリンダー・バンドを締め直すスキルを水面または水中でデモンストレーションする
- ウェイト・システム脱着（水面） – 限定水域ダイブ1後、生徒ダイバーは足がつかない深さの水面で、ほとんど手助けなしでウェイト・システムを外し、元通りに装着し、調整し、確認する。

a. PADI Scuba Diverの場合は限定水域ダイブ3終了までに。

b. 生徒ダイバー全員が限定水域ダイブ5終了までに。

- エマージェンシー・ウェイト・ドロップ – 限定水域またはオープンウォーターでのいずれかのダイブで、生徒ダイバーは足がつかない深さの水面でBCDから空気を抜き、ウェイト・システムのクイックリリースを使ってウェイトを外し、身体から離して下に落とし、浮力を確保する。

## ダイブ1 達成条件

水面：

1. 器材の正しい装着テクニックを使って、手助けしてもらって、マスク、フィン、スノーケル、BCD、スクーバキット、ウェイトを装着し、調節する。
2. プレダイブ・セーフティ・チェックを行なう。
3. 浅い水域で、パワー・インフレーターを使ってBCDに空気を出し入れする。

浅い水中：

4. 息を止めずに、自然に息を吸ったり吐いたりして圧縮空気を呼吸する。
5. 息を吐いてクリアする方法とパージボタンを使う方法の両方を使ってレギュレーターをクリアし、呼吸を再開する。

6. 肩の後ろからレギュレーターをリカバリーする。
7. 下半分だけ水を入れたマスクをクリアする。
8. 他のダイバーの予備の空気源から30秒間以上呼吸する。

水中:

9. 耳とマスクを圧平衡しながら、コントロールされた速度で足がつかない水中に潜降する。
10. スクーバ器材を装着し、方向と深度の両方をコントロールしながら泳ぐ。
11. 残圧計を手にとって目盛りを読み、ゲージのレッドゾーンを見て、および／またはあらかじめ打ち合わせておいた残圧限界に基づいて、残圧が十分か少ないかを合図する。
12. ハンドシグナルを理解してデモンストレーションする。
13. 適切なテクニックを使って浮上する。
14. バディの手の届く範囲内にいる。

足がつかない深さの水面:

15. 水面に浮いて、顔を下にして泳ぎながらスノーケルまたはレギュレーターで呼吸する。
16. 浮上後、マスクをしたままレギュレーターから呼吸しながら、パワー・インフレーターを使って浮力を確保する。
17. BCDから空気を抜き、それからプラス浮力になるまでオーラルで膨らませる。

## ダイブ2 達成条件

水面:

1. ダイブプランを立てる。
2. 器材の正しい装着テクニックを使って、バディと一緒に、マスク、フィン、スノーケル、BCD、スクーバキット、ウエイトを装着し、調節する。
3. バディとプレダイブ・セーフティ・チェックを行なう。

4. 適切なディープ・ウォーター・エントリーをデモンストレーションする。
5. ウェイト量を調節する – 水面でBCDに空気を入れなくて通常の肺の大きさで呼吸を止めて、目の高さで浮くようにする。
6. ブラスト法を使ってスノーケルをクリアし、水から顔を上げずに呼吸を再開する
7. 水から顔を上げずにスノーケル／レギュレーターとの交換を何度か（少なくとも2回交換）繰り返す。
8. スクーバを装着してスノーケルで呼吸し、バディと近い距離を保ちながら50メートル／ヤード以上泳ぐ。

#### 水中:

9. バディと一緒に、足がつかない深さの場所で主にBCDを使って浮力をコントロールしながら、ファイブ・ポイント方法を使って潜降する。
10. パワー・インフレーターを使ってBCDを膨らませ、中性浮力をとる。息を吸ったり吐いたりしながら、コントロールされた形で身体をゆっくりと上下させる。
11. 全部に水を入れたマスクをクリアする。
12. マスクを取り外し、元に戻し、クリアする。
13. マスクなしで少なくとも1分間呼吸する。
14. 「エア切れ」の合図を出してエア切れに対応する。
15. 残圧計を見ずに、誤差20bar／300psiの範囲内で残圧を予測して知らせる。
16. 主にBCDを使って浮力をコントロールしながら、ファイブ・ポイント方法を使って浮上する。
17. 最も適切なテクニックを使ってエキジットする。（バディが手助けしてもよい）

## ダイブ3 達成条件

足がつかない深さの水面:

1. 適切なディープウォーター・エントリーをデモンストレーションする。
2. バディと一緒に、ウエイト・チェックを行なって適切なウエイト量になるよう調節する。
3. 足がつったときの治し方をデモンストレーションする(水面または水中)。

水中:

4. バディと一緒に、足がつかない深さの場所で視標だけを使いながら、ファイブ・ポイント方法を使って潜降する。
5. キックしたり手を使ったりしないで、浮力コントロールだけで30秒間以上ホバリングする。
6. 中性浮力を保ちながら、水平の姿勢でゆっくりと泳いでトリムをチェックする。通常の泳ぐ姿勢に合わせて適切にトリムを調整する。
7. 「エア切れ」の合図を出し、予備の空気源を確保して呼吸することで、エア切れに対応する。泳ぎながら少なくとも1分間以上続け、浮上し、オーラルでBCDを膨らませる。
8. 予備の空気源を使って、バディに空気を与える。
9. アーという声を出して息を吐き続けながら水中を水平または斜めに少なくとも9メートル／30フィート以上泳ぐというやり方で、コントロールされた緊急スイミング・アセントをシミュレーションする。
10. 残圧計を見ずに、誤差20bar／300psiの範囲内で残圧を予測して知らせる。

## ダイブ4 達成条件

足がつかない深さの水面:

1. バディと一緒に、ウエイト・チェックを行なって適切なウエイト量になるよう調節する。
2. 25メートル／ヤードの疲労ダイバー曳行を行なう。
3. ほとんど手助けなしで、スクーバキットを外し、元通りに装着し、調整し、確認する。

水中:

4. バディと一緒に、足がつかない深さの場所でファイブ・ポイント方法を使って潜降し、浮力コントロールを使って水底に接触せずに潜降を止める。
5. バディと一緒に、浮力コントロールを維持しながら、傷つきやすい生物がいるという設定の水底の上を泳ぐ。
6. オーラルでBCDを膨らませて、キックしたり手を使ったりしないで1分間以上ホバリングする。
7. フリーフローしているという設定のレギュレーターから、30秒間以上効率的に呼吸する。
8. マスクなしで少なくとも15メートル／50フィート以上泳ぎ、マスクを元に戻し、クリアする。
9. 残圧計を見ずに、誤差20bar／300psiの範囲内で残圧を予測して知らせる。
10. 傷つきやすい生物がいるという設定の水底に接触せずに、そこからファイブ・ポイント浮上をする。

## ダイブ5 達成条件

水中:

1. 足がつかない深さの場所で、浮力、姿勢、深度のコントロールを失うことなく、ほとんど手助けなしでスクーバキットを外し、元通りに装着し、調整し、確認する。

2. 浮力、姿勢、深度のコントロールを失うことなく、ウエイト・システムの全部または一部を外し、元通りに装着し、調整し、確認する
  - ウエイト・ベルトおよびウエイト一体型BCDの場合 - 足がつかない深さの水底で。
  - いったんウエイトを取り外すと、セッティングし直す必要があるウエイト・システムの場合 - 浅い場所で。
3. 残圧計を見ずに、誤差20bar / 300psiの範囲内で残圧を予測して知らせる。
4. 以下の通り、シミュレーションによるミニダイブを実施する：
  - バディと一緒にダイブプランを立てる。
  - エントリーとエキジットをする。
  - 適正ウエイト量とトリム・チェックをする。
  - ファイブ・ポイント潜降をする。
  - バディと一緒に、中性浮力、ホバリング、スイミングに重点を置いて、これまでに習ったスキルを練習する。
  - 環境に対する意識をデモンストレーションし、傷つきやすい生物がいるという設定の水底と接触しないようにする。
  - シミュレーションによる以下の状況から、少なくともひとつ、ただし多くて3つまでの状況に正しく対処する：足が切れた、エア切れで空気を分け合う、レギュレーターがフリーフロー、マスクに水が入った、マスクが外れた、レギュレーターが口から外れた、BCDのインフレーターが故障、バディとはぐれた。
  - 予定のタイムリミット、またはあらかじめ打ち合わせしておいた浮上開始時の残圧になったら、安全停止をしてファイブ・ポイント浮上をする。

# セクション 4

## オープンウォーター

### オープンウォーターでの一般的な注意事項

#### 順序

オープンウォーター・ダイブは順序通りに実施し、あるオープンウォーター・ダイブで行なうことになっているスキルを、別のオープンウォーター・ダイブへ移動してはならない。

例外: このセクションで概説されているダイブ・フレキシブル・スキル。

- **ダイブ・フレキシブル・スキルは、限定水域でマスターするまで、オープンウォーターで実施してはならない。**

例外: コンパス・ナビゲーション練習、シグナルチューブ/DSMBの使い方、エマージェンシー・ウエイト・ドロップ。

- **限定水域ダイブの後、同じ日にオープンウォーター・ダイブを行なう場合には、オープンウォーター・ダイブは2回までとする。**

### ダイブの前条件

#### ダイブ 1

生徒ダイバーは、以下のうち少なくともひとつを修了していなければならない:

- **Discover Scuba Divingの知識開発ブリーフィングと限定水域ダイブ1\***
- **Open Water Diverコース知識開発1(クイズを含む)と限定水域ダイブ1\***
- **Open Water Diverコース知識開発1~3(クイズを含む)と限定水域ダイブ1~3**

\* Discover Scuba Divingの監督条件と人数に従う: 1:4または認定アシスタント付きで1:6

## ダイブ2

生徒ダイバーは以下を修了していなければならない：

- Open Water Diverコース知識開発1～3(クイズを含む)
- Open Water Diverコース限定水域ダイブ1～3
- 水泳具を使用せずに10分間の立ち泳ぎ／フロート

## ダイブ3～4

生徒ダイバーは、Open Water Diverコースのすべての知識開発セグメント、クイズ1～4、およびすべての限定水域ダイブを修了していなければならない。

ファイナル・エグザムは認定前に修了し、必ずしも最後のオープンウォーター・ダイブの前でなくてもよい。

## オープンウォーター・ダイブの達成条件

### ダイブ・フレキシブル・スキル

どのオープンウォーター・ダイブで実施してもよい。生徒ダイバーは以下をデモンストレーションする：

### 水面：

- 足がつったときの治し方 — 足がつったときの治し方を、自分とボディの両方にシミュレーションする。
- 疲労ダイバー曳行 — 疲労ダイバー役のボディを、スクーバ器材を装着した状態で25メートル／ヤード曳行する。
- シグナルチューブの使い方 — 水面でシグナルチューブを膨らませるか、浮上する直前に水中からディレイド・サーフェス・マーカース・ブイ(DSMB)を膨らませて水面に打ち上げる。
- 直線水面コンパス移動 — 顔を水に入れたまま、方向を見るのにコンパスだけを使って、50メートル／ヤードの直線をスノーケルを使って泳ぐ。
- スノーケル／レギュレーター交換 — スノーケルを口から外さずにクリアし、呼吸を再開する。水から顔を上げずに、

少なくとも2回、スノーケルとレギュレーターから交互に呼吸する。

- ウェイト・システムとスクーバキット脱着 — 足がつかない深さの場所で、ウェイト・システムを外して再び装着する。足がつかない深さの場所で、スクーバキットを外して再び装着する。
- エマージェンシー・ウェイト・ドロップ — 限定水域またはオープンウォーターでのいずれかのダイブで、生徒ダイバーは足がつかない深さの水面でBCDから空気を抜き、ウェイト・システムのクイックリリースを使ってウェイトを外し、身体から離して下に落とし、浮力を確保する。

水中:

ダイブ2、3、または4でのみ実施

- コンパス・ナビゲーション — コンパスを使って、直線の逆方向コースを泳ぐ。各ダイバーが往復をナビゲーションする。
- コントロールされた緊急スイミング・アセント (CESA) — 6～9メートル／20～30フィートの深度から、コントロールされた緊急スイミング・アセントを行ない、水面に出たらオーラルでBCDを膨らませるかウェイトを捨てて浮力を確保する。

以下に概説されている手順に従って、コントロールされた緊急スィミング・アセントを実施する。

## コントロールされた緊急スィミング・アセント

### スキルのブリーフィング

生徒ダイバーへの指導内容：

- レギュレーターはくわえたままにする。
- ウェイトは捨てない。実際の緊急事態では、水面までたどり着けるかどうか疑わしい場合にのみウェイトを捨てるという注意点を説明する
- コントロール・ラインは使わない - ラインはコントロールと緊急停止用にインストラクターだけが使用する。
- 通常の浮上速度を維持する。
- 浮上中は声を出し続ける。
- 浮上を中止した場合、あるいは何か問題が生じたら、通常の呼吸に戻す。
- 水面に出たらオーラルでBCDに空気を入れるか、ウェイトを落とす。

### セットアップ

水面フロートに結び付けたコントロール・ライン（少なくとも太さ12ミリメートル/0.5インチ）を使用する。このラインは、生徒ダイバーをしっかりとホールドしながら片手で握るか足を絡めていつでも浮上を中止できるように、ウェイトなどを使って水底にしっかりと固定する。ラインは水面で確保されていなければならない。フロートに固定されている場合は、フロートが十分に大きく、ライン上に2人のダイバーがいる場合でも引っ張られたときに水没しない状態にする。このスキルは、1回に生徒ダイバー1人ずつで行ない、練習中は、生徒ダイバーとコントロール・ラインから手を離してはならない。

### 深度

このスキルは、深度が6メートル／20フィートから、しかし9メートル／30フィートを超えない範囲で実施する。

### 練習方法

1. 一方の手で生徒をホールドし、もう一方の手でラインを握る。
2. 浮上のサインを出して浮上を開始する。生徒ダイバーは声を出しながら息を吐き始める。
3. 生徒はまず、フィンキックして水底を離れ、その後は力を弱めてキックを続ける。浮上中、生徒はコントロール・ラインを使用しない。レギュレーターはくわえたままにし、ウェイトは捨てない。練習中はずっと、シリンダーのバルブは開けたままにしておく。生徒の浮上を手伝ってはならない。

4. 浮上中、生徒はBCDかドライスーツの排気ボタンに手を添えたままにし、いつでも過剰な空気を排出できるようにしておく。
5. 浮上中は生徒の様子を観察し、1分間18メートル／60フィート以下の速度で浮上するように、コントロールを維持する。生徒が自分より少し下の位置になるようにホールドする。そうすることにより、生徒が出している声を聞くことができ、生徒も上を見るようになる。生徒が息を吐き続けているかどうか、注意して確認する。疑わしい場合には浮上を中止する。浮上を中断しなければならなかった場合には、最初から練習をやり直す。
6. 水面に出たら、BCDにオーラルで空気を入れるか、ウェイトを落とすよう生徒ダイバーに指示する。ウェイトを落とす前に、下にダイバーがいないことを確認するよう言う。生徒が落ち着いてリラックスした様子になるのを待ってから、次のトレーニング練習に入る。

## ダイブ1 達成条件

### 水面：

1. ブリーフィングで、「OK」、「何か変だ」、「耳が抜けません」、「エアがない」、「浮上/ダイブ終了」、「バディと一緒に」を意味するハンドシグナルと、「私を見てください」を意味する音による(または接触する)シグナルおよびハンドシグナルを理解する。
2. 器材を装着して調整する - 器材の正しい装着テクニックを使うこと。
3. プレダイブ・セーフティ・チェックを実施する。
4. BCDを膨らませて浮力を確保した状態でエントリーする。
5. ウェイト量をチェックして調整する。

### 水中：

6. 潜降ラインが傾斜している水底の地形を使って、コントロールしながら12メートル／40フィート以内の深度まで潜降する。
7. トリム・チェックを行なう。
8. 下半分だけ水を入れたマスクをクリアする。
9. 深度下でレギュレーターをリカバリーしてクリアする。

10. ダイビング・ポイントを探検する。
11. 残圧があらかじめ打ち合わせておいたレッドゾーンの近くになっているかどうか合図し、および／または残圧を数字で伝える。
12. バディに2秒以内で手が届く範囲内にいる。
13. バディ・コンタクトを維持しながら、1分間18メートル／60フィート以下の速度で浮上する。ファイブ・ポイント方法を使う（限定水域ダイブ3を修了している場合）。

## ダイブ2 達成条件

### 水面：

1. エア・マネジメント／ターン・プレッシャー、タイムリミット、エントリーとエキジット、バディとはぐれた場合の手順、基本的な緊急手順を含めて、ダイブプランを立てる。
2. 器材を装着し、調整し、流線形にまとめる。器材の正しい装着テクニックを使う。
3. プレダイブ・セーフティ・チェックを実施する。
4. 必要に応じて、ウエイト量とトリムを調整する。
5. 水面にいるときには、浮力を確保し、マスクをつけたまま、スノーケルまたはレギュレーターから呼吸する。
6. 足がつかない深さの場所で、BCDから空気を抜き、それからプラス浮力になるまでオーラルで膨らませる。

### 水中：

7. 潜降ラインが傾斜している水底の地形を使って、コントロールしながら12メートル／40フィート以内の深度まで潜降する。ファイブ・ポイント方法を使う。
8. パワー・インフレーターを使ってBCD（またはドライスーツ）の中の空気の量を調節し、中性浮力をとる
9. 全部に水を入れたマスクをクリアする。
10. それぞれの役割を演じる：静止状態で、バディの一方が「エア切れ」の合図を出し、もう一方のバディが差し出す予備の空気源をとって呼吸する。

11. 与える役かもらう役として予備の空気源を使って浮上し、水面に出たら浮力を確保する 水面に出たら浮力を確保する。
12. ダイビング・ポイントを探検する。
13. 傷つきやすい生物や水底と接触しないように注意し、緩んでぶら下がってきた器材を留め直す。
14. バディに2秒以内で手が届く範囲内にいる。
15. 残圧計を見ずに、誤差20bar / 300psiの範囲内で残圧を予測して知らせる。
16. ダイブプランを立てるときに打ち合わせておいた間隔で残圧を合図する。
17. バディ・コンタクトを維持しながら、1分間18メートル / 60フィート以下の速度で浮上する。ファイブ・ポイント方法を使う（ただし、予備の空気源使って浮上する場合を除く。） できれば、安全停止をする。

## ダイブ3 達成条件

### 水面:

1. ダイブプランを立てる。
2. 器材を装着し、調整し、流線形にまとめる。器材の正しい装着テクニックを使う。
3. プレダイブ・セーフティ・チェックを実施する。
4. 必要に応じて、ウエイト量とトリムを調整する。
5. 水面にいるときには、浮力を確保し、マスクをつけたまま、スノーケルまたはレギュレーターから呼吸する。

### 水中:

6. 視標を使ってコントロールしながら、深度18メートル / 60フィートを超えない深さへ潜降する。ファイブ・ポイント方法を使う。
7. オーラルでBCDを膨らませて中性浮力をとり、ホバリングする。

8. マスクを取り外し、元通り装着し、クリアする。
9. ダイビング・ポイントを探検する。
10. 傷つきやすい生物や水底と接触しないように注意し、緩んでぶら下がってきた器材を留め直す。
11. バディに2秒以内で手が届く範囲内にいる。
12. 残圧計を見ずに、誤差20bar／300psiの範囲内で残圧を予測して知らせる。
13. ダイブプランを立てるときに打ち合わせておいた間隔で残圧を合図する。
14. バディ・コンタクトを維持しながら、1分間18メートル／60フィート以下の速度で浮上する。ファイブ・ポイント方法を使う。できれば、安全停止をする。

## ダイブ4 達成条件

水面:

1. バディチームとして、PADIスキル練習とダイブ・プランニング・スレートを使ってダイブプランを立てる。
2. 器材を装着し、調整し、流線形にまとめる。器材の正しい装着テクニックを使う。
3. プレダイブ・セーフティ・チェックを実施する。
4. 必要に応じて、ウエイト量とトリムを調整する。
5. 水面にいるときには、浮力を確保し、マスクをつけたまま、スノーケルまたはレギュレーターから呼吸する。

水中:

6. 視標を使わずに18メートル／60フィート以内の深度へ潜降する。  
ファイブ・ポイント方法を使う。
7. バディと一緒に、ダイビング・ポイントを探検する。
8. 傷つきやすい生物や水底と接触しないように注意し、緩んでぶら下がってきた器材を留め直す。
9. バディに2秒以内で手が届く範囲内にいる。

10. 残圧計を見ずに、誤差20bar／300psiの範囲内で残圧を予測して知らせる。
11. バディと一緒に、残圧またはダイブプランで決めておいた時間に基づいて、戻り始めるときと浮上を開始するときを合図し、適切な行動をとる。
12. バディ・コンタクトを維持しながら、1分間18メートル／60フィート以下の速度で浮上する。ファイブ・ポイント方法を使う。安全停止をする

# PADI SCUBA DIVER COURSE

## INSTRUCTOR GUIDE



# PADI®

本ガイドで別途指定されている場合を除き、  
「一般規準と手続きガイド」に概説されている規準は  
PADI Scuba Diverコースに適用される。

この認定を取得しているダイバーは、レクリエーションル・スクーバ・ダイ  
バー・トレーニングのISO 24801-1の要件を満たしている  
パート1:レベル1-監督付きダイバー

# コース規準

PADI Scuba DiverコースはOpen Water Diverコースのサブセットである。PADI Scuba Diverは、PADI Divemaster、Assistant Instructor、またはInstructorの直接的な監督の下で、最大深度12メートル／40フィートまで潜るトレーニングを受けている。PADI Scuba Diverは、Discover Scuba® Divingの参加者より多くの理論的知識と水中スキルを身につけるが、独立してダイビングする資格はない。

**以下の変更点以外、Open Water Diverコースの規準がすべて適用される。**

## 認定条件

- クイズを含む知識開発1～3を修了する。
- **ダイブ・フレキシブル・スキルを含めて、限定水域ダイブ1～3を修了する：**
  - 器材の準備と手入れ
  - パワー・インフレーターから中圧ホースを外す
  - ウェイト・システム脱着
- **オープンウォーター・ダイブ2の前に、10分間の立ち泳ぎ／フロートを行なって、足がつかない深さの水面に落ち着いていられることをデモンストレーションする。**
- **ダイブ・フレキシブル・スキルを含めて、オープンウォーター・ダイブ1～2を修了する：**
  - スノーケル／レギュレーター交換
  - 足がつったときの治し方
  - シグナルチューブ／DSMBの使い方
  - エマージェンシー・ウェイト・ドロップ（限定水域、もしくはオープンウォーター）
- **PADI Scuba Diver声明書（10062J）を読んで署名する。**

## インストラクター資格

### Instructor

### 認定PADI Scuba Diverの監督

環境、コンディション、PADI Scuba Diverの経験に基づいて適切な人数比を決定する。ガイド付きダイブは最大深度12メートル／40フィートまでとする。PADI Scuba Diverは、ダイブテーブルやダイブ・コンピューターの使い方に関して正式なトレーニングを受けていないため、PADI Scuba Diverに代わって、ダイブテーブルと反復ダイビングのノンストップ・リミットをチェックする必要がある。

### Open Water Diverにアップグレード

以下の手順により、いつでもPADI Scuba DiverをOpen Water Diverにアップグレードできる：

1. ダイバーの認定カードのコピーを保有する。
2. ダイバー・メディカル／参加者チェックシート、PADI安全潜水実施了解声明書、免責同意書（日本の場合はPADIコースの危険の告知書）に必要事項を記入してもらう。
3. ダイバーの知識とスキルを前評価し、必要に応じて補習する。
4. ダイバーは、水泳具を使用せずに200メートル／ヤードの距離をノンストップで泳ぐか、マスク、スノーケル、フィンを使用して300メートル／ヤードを泳ぐ。
5. Open Water Diverコースの残りの部分を行なう：
  - a. 知識開発4～5、クイズ4とファイナル・エグザム
  - b. 限定水域ダイブ4～5、残りのダイブ・フレキシブル・スキル。
  - c. オープンウォーター・ダイブ3～4、残りのダイブ・フレキシブル・スキル



# ADVANCED OPEN WATER DIVERコース

## INSTRUCTOR GUIDE



**PADI**<sup>®</sup>

本ガイドで別途指定されている場合を除き、  
「一般規準と手続きガイド」に概説されている規準は PADI Advanced  
Open Water Diverコースに適用される。

# セクション1

## コース規準

### アドベンチャー・ダイブ

標準化されたスペシャルティ・インストラクター・ガイドがある PADI Specialty Diver コース (および PADI Rebreather Diver コース) での最初のダイブは、アドベンチャー・ダイブとして資格認定される。

**注意:** PADI Rebreather Diver コースは PADI Specialty Diver コースではないが、限定水域での最初のダイブは、アドベンチャー・ダイブとしてカウントすることができる。

アドベンチャー・ダイブ知識開発オプションおよび必須スキル用にセクション2と3を参照のこと。

### 認定条件

**Adventure Diver**の場合、生徒ダイバーは以下の達成条件を満たさなければならない:

- 3種類のアドベンチャー・ダイブを修了する。
- 修了した3種類のアドベンチャー・ダイブのナレッジレビューを修了する。
- **Thinking Like a Diver** (経験豊富なダイバーの視点で物事を考える)の知識開発セクションを修了する。

**Advanced Open Water Diver**の場合、生徒ダイバーは以下の達成条件を満たさなければならない:

- **Deep**と**Underwater Navigation**を含む5種類のアドベンチャー・ダイブを修了する。
- 修了した5種類のアドベンチャー・ダイブのナレッジレビューを修了する。
- **Thinking Like a Diver** (経験豊富なダイバーの視点で物事を考える)の知識開発セクションを修了する。

## 深度

### 15歳以上のダイバー - 30メートル／100フィート

深度の必要条件はダイブによって異なる。各アドベンチャー・ダイブの条件についてはセクション3を参照し、ジュニア・ダイバーの深度制限については「一般規準と手続きガイド」を参照。**リブリーザーを使用する場合、最大深度は、所持するリブリーザーに適した深度、もしくは18メートル／60フィートのいずれか浅いほうとする。**

## ダイバーの参加前条件

- **PADI (Junior) Open Water Diver認定**

各アドベンチャー・ダイブへの特定の参加前条件の最低年齢に関してはセクション2を参照のこと。

注意: 10～11歳のダイバーはJunior Adventure Diver認定を取得できる。

## 器材

生徒ダイバーは「一般規準と手続きガイド」の必要器材に加えて、**ナイフ／ダイバー用ツール、コンパスとダイブ・コンピューター（または時計とeRDP<sub>ML</sub>／RDPテーブル）が必要。**

各アドベンチャー・ダイブへの特定の器材に関してはセクション3および／または関連Specialty Instructor Guideを参照のこと。

## 書式

最新の書式をPADIプロサイトからダウンロードすること。各国固有の免責同意書、申請書、書式については、所属PADIオフィスに確認する。

## 必須

### 継続教育専用書式 (10038JまたはEU10541)

## 推奨

Advanced Open Water Diverコース記録ワークシート (10090J)

## インストラクター資格

### Instructor

### 教材

#### 必須

- **PADI Advanced Open Water Diverマニュアル**  
例外：各アドベンチャー・ダイブで使用されたPADIスペシャルティ・マニュアルまたはAWARE教材をダイバーが持っている場合は除く。
- **ログブック**

各生徒ダイバーは、PADI Advanced Open Water Diverマルチパーパス(多目的)データ・キャリア(69230J)をオープンウォーター・ダイブ中に使用すること。

#### 推奨

- PADI Advanced Open Water Diver Video
- PADI Specialty Diverマニュアルとビデオ
- AWAREコース教材

### 人数比

一般規準 — 1:8 認定アシスタント1名につき、生徒ダイバー4名まで追加できる。

ディープ・ダイブでは、認定アシスタントを使ってもこの人数比を増やすことはできない。

セクション3に記載されている通り、人数比はダイブによって異なる。

### 監督

一般規準 — 総則として、深度18メートル／60フィート以内で実施されるダイブには間接的監督が認められる。ダイバー全員がDeep Adventure Diveを修了している場合を除いて、18メー

ル／60フィートを超える深度で実施されるダイブには直接的監督が必要。

監督はダイブによって異なる。各アドベンチャー・ダイブの条件についてはセクション3を参照。

## セクション2

### 知識開発

各アドベンチャー・ダイブ前に、安全にダイブを修了するのに必要な知識を復習する。知識の復習は、プレダイブ・ブリーフィングや体系的なディスカッションを通じて行なうか、適切なアドベンチャー・ダイブ・ナレッジレビューをダイバーに修了させることで実施する。可能な場合は、アドベンチャー・ダイブ用にPADI Specialty Diver／AWARE教材を使用してもよい。

理想としては、「Thinking Like A Diver（経験豊富なダイバーの視点で物事を考える）」知識開発セクションを最初のアドベンチャー・ダイブよりも前に実施したほうがよいが、認定の前までに修了していればよい。

ナレッジレビューを修了し、復習した場合のみ、生徒ダイバーに対してアドベンチャー・ダイブのクレジットを認める。アドベンチャー・ダイブ・トレーニング・レコードに必要事項を記入して署名するか、別の方法で生徒ダイバーがナレッジレビューとダイブの両方を修了したことを記録する。

ナレッジレビュー・アンサーキーはPADIのプロサイトに掲載されている。

### PADI Specialty Diverコース教材を使用して実施されるアドベンチャー・ダイブ

PADI Advanced Open Water Diver教材でカバーされていないアドベンチャー・ダイブ用のSpecialty Diver教材を使用する場合は、これらの条件を満たすこと：

1. スペシャルティのインストラクターとしての資格を有していること。
2. 生徒ダイバーは、スペシャルティの全参加前条件および必要事項を満たしていること。

例外:生徒ダイバーは、Cavern, IceまたはSelf-Reliant Adventure DiveのためにAdvanced Open Water Diverである必要はない。

3. 知識開発の熟達度(マスタリー)を判断するために、スペシャルティ教材にあるナレッジレビューを使用する。

# アドベンチャー・ダイブ知識開発オプションと必要条件

## 教材オプション

アドベンチャー・ダイブ	Advanced Open Water Diver教材	Specialty Diver教材/AWARE教材	Specialty Instructor資格要件の有無	生徒ダイバー最低年齢
Adaptive Support			X	15
Altitude	X			10
Boat	X	X		10
Cavern			X	18
Deep	X	X		12
Delayed Surface Marker Buoy			X	12
Digital Underwater Imaging	X	X		10
Dive Against Debris (AWARE)		X	X	12
Diver Propulsion Vehicle		X	X	12
Drift	X	X		12
Dry Suit	X	X		10
Enriched Air		X	X	12
Fish Identification	X			10
Full Face Mask			X	12
Ice			X	18
Night	X	X		12
Peak Performance Buoyancy	X	X		10
Rebreather		X	X	18
Search & Recovery	X	X		12
Self-Reliant			X	18
Shark Conservation (AWARE)		X	X	12
Sidemount		X	X	15
Underwater Naturalist	X	X		10
Underwater Navigation	X	X		10
Wreck	X	X		12

# セクション 3

## オープンウォーター

### オープンウォーターでの一般的な注意事項

- 複数のアドベンチャー・ダイブの達成条件を1回のアドベンチャー・ダイブの中に組み合わせて行なうことはできない。
- 直接水面へ浮上できない場合は、いかなる場合でもアドベンチャー・ダイブを実施しない。

例外: IceおよびCavern Adventure Diveを除く

- 毎回のアドベンチャー・ダイブ時、ダイバーにはダイブ前、ダイブ最中、ダイブ後にThinking Like a Diver (経験豊富なダイバーの視点で物事を考える)をあてはめる。ダイブ計画に関連するリマインダー (思い出させるヒント) を含むブリーフィング時に、状況認識の利用、タスクの管理、よいダイバーとしての行動のデモンストレーションを行う。ディブリーフィング中は、Thinking Like a Diver (経験豊富なダイバーの視点で物事を考える) の理念をあてはめさせるために、ダイバーに質問を投げかける。
- PADI Specialty Diver コースのダイブ1の実施時には、適切なスペシャルティ・インストラクター・ガイド内に記載されているすべての深度制限、人数比、その他トレーニング必要条件に従う。

## コアダイブ

### Deep Adventure Dive

#### 注意事項

1. その生徒ダイバーと一緒に最近潜ったことがない場合には、ダイブに備えて生徒ダイバーの知識を確認し、オープンウォーターで深い場所へ行く前に、Deep Diveを修了するのにもって必要なスキルがあるかどうか、水中で評価する。

2. 生徒ダイバー全員を直接的に監督する。必要であれば、自分か認定アシスタントがすぐに手を伸ばして生徒ダイバーアシストできる位置に自分自身を配置する。ダイブを先導し、個々の生徒ダイバーをアシストするために短い時間だけ目を離す以外、生徒ダイバー全員に目を配り続ける。
3. 最大人数比は1:8。認定アシスタントを使っても、この人数比を増やすことはできない。生徒ダイバーに直接的に目を配って対応する能力に影響が及ぶようなコンディションの場合には、人数比を減らす。
4. 深度18～30メートル／60～100フィートの間でダイブを実施する。
5. ジュニア・ダイバーの深度制限と人数比については、「一般規準と手続きガイド」に概説されている規準に従う。

#### 達成条件

1. バディと一緒に、ターン・プレッシャー、浮上開始時残圧、予備の残圧を含むガスの使用を計画、管理する。ノンストップとダイブ時間制限を設定する。
2. ライン、ウォール（壁）、または傾斜した水底を用いて潜降する。
3. 陸上と深度下で、色の変化を比較する。
4. ダイブ・コンピューター（または深度計）を他のダイバーの深度計と比較する。
5. ダイブ・コンピューター（または深度計とタイマー）を使って、1分間に18メートル／60フィート以下の速度で浮上する。
6. 深度5メートル／15フィートで少なくとも3分間の安全停止を行なう。

## Underwater Navigation Adventure Dive

### 達成条件

1. 中性浮力を維持する。
2. 水中を普通のリラックスしたペースで約30メートル／100フィート泳ぐのに必要なキックサイクルの平均回数と平均時間を測定する。
3. 自然の目標物と距離測定（キックサイクルの回数または時間）を使って、あらかじめ決めておいた場所へナビゲーションし、スタート地点の15メートル／50フィート以内に戻る。必要となきのみ浮上して方向を確かめる。
4. コンパスを正しい位置に持ち、泳ぎながら正確な方向を維持する。
5. コンパスと距離測定（キックサイクルの回数または時間）を使って、あらかじめ決めておいた場所へ浮上せずにナビゲーションし、スタート地点の6メートル／20フィート以内に戻る。
6. 一定の場所からスタートして、コンパスを使って水中を四角形もしくは長方形のパターンで泳ぎ、スタート地点の8メートル／25フィート以内に戻る。一辺の長さが30メートル／100フィートの四角形か、すべての辺の長さをたすと120メートル／400フィートになる四角形が望ましい。

## エレクティブ・ダイブ

### Adaptive Support Diver Adventure Dive

#### 注意事項

1. PADI Adaptive Techniques Specialty Instructor Guideを使用し、生徒ダイバーにナレッジレビューのパート1を終了させる。
2. 必要な限定水域ワークショップ1を実施する: Adaptive Techniques

3. すべてのオープンウォーター・ワークショップ1の達成条件を修了する。推奨される深度は6～12メートル／20～40フィート。

## Altitude Adventure Dive

### 注意事項

海拔2,400～3,000メートル／8,000～10,000フィートの高所では、到着してからダイビング開始まで少なくとも6時間待機しなければならない。

### 達成条件

1. 高所機能付きのダイブ・コンピューターか、レクリエーション・ダイブプラナーと高所での理論深度表を使用して、ダイブを行なう標高での理論深度に対するノンストップ・リミットを調べる。
2. ラインまたは傾斜した水底を用いて潜降する。
3. 他のダイバーのコンピューター（または深度計）と自身のコンピューターを比較し、異なる場合はできるだけスレートや水中ノートに記録する。
4. ダイブ・コンピューター（または深度計とタイマー）を使って、1分間に9メートル／30フィート以下の速度で浮上する。
5. ラインまたは傾斜した水底を用いて浮上する。
6. 深度5メートル／15フィートの理論深度、もしくはダイブ・コンピューターに従って、少なくとも3分間の安全停止を行なう。

## Boat Adventure Dive

### 注意事項

生徒ダイバーはシグナルチューブまたはDSMBを携帯しなければならない。

### 達成条件

1. 次の各用語がボートのどの部分を指しているか識別する：バウ、スターン、スターボード、ポート、エントリー・エリア、エキジット・エリア、ダイビング器材の収納場所。
2. ボートに搭載されている緊急用／安全用設備の設置場所を確認する（ファーストエイド・キット、酸素、AED、救命具、ダイブフラッグ、無線、消火器など）。
3. 使用しているボートの種類に適した方法でエントリーする。
4. 環境に適した方法で、ボートからスタートし、ボートに戻るまでナビゲーションをし、計画したとおりに、環境とボートに適切な方法で、ボートの係留／アンカーライン、指標ラインなどを使うか、エキジット・エリアの近くで浮上する。
5. 深度5メートル／15フィートで少なくとも3分間の安全停止を行なう。
6. 水面でシグナルチューブを膨らませるか、浮上する直前に水中からディレイドサーフェスマーカーブイ（DSMB）膨らませて水面に打ち上げる。
7. 使用しているボートの種類に適した方法でエキジットする。

## Cavern Adventure Dive

### 注意事項

1. Cavern Diver Specialty Instructor Guideを使用し、生徒ダイバーにナレッジレビューとダイブ1のすべての達成条件を修了させる。
2. オープンウォーター（水面に直接浮上できる環境）でダイブを実施し、ラインとリールの使い方と緊急手順を練習する。カバーク探索はオプションである。

3. カバーンに入る場合は、最大人数比1:2でダイバーを直接監督する。
4. カバーンに入る場合は、ライトゾーン内で、水面から垂直と水平の距離の合計が40メートル／130フィート内でのダイブに制限する。

## Delayed Surface Marker Buoy Adventure Dive

### 注意事項

1. Delayed Surface Marker Buoy Diver Specialty Instructor Guideを使用し、生徒ダイバーにナレッジレビューとダイブ1のすべての達成条件を修了させる。
2. 最大深度18メートル／60フィート。推奨深度9～12メートル／30～40フィート。

## Digital Underwater Imaging Adventure Dive

### 注意事項

生徒ダイバーは各自が水中カメラシステムを持っていないければならない。

### 達成条件

1. カメラと外部ライト(使用の場合)のセッティング、ハウジングの準備を含む、水中カメラ・システムの適切なセットアップの仕方をデモンストレーションする。
2. 基本的な露出、フォーカス、構図をデモンストレーションするためのスチール写真および／もしくはビデオの撮影を行なう。
3. ビデオ撮影の場合は、ストーリーを表現する基本の撮影と編集も行なう。
4. カメラや撮影よりも、ダイバーの安全と環境保護を最優先するマナーをデモンストレーションし、カメラを携帯してダイブする。

## Dive Against Debris (AWARE) Adventure Dive

### 注意事項

1. **AWARE – Dive Against Debris Specialty Instructor Guide**を使用する。
2. 生徒ダイバーには、ナレッジレビューを修了させるために、Dive Against Debris調査ガイドを使用させる。
3. すべてのダイブ1の達成条件を修了する。

## Diver Propulsion Vehicle (DPV) Adventure Dive

### 注意事項

1. **Diver Propulsion Vehicle Diver Specialty Instructor Guide**を使用する。
2. 生徒ダイバーに、PADI Diver Propulsion Vehicle (DPV) マニュアル内のナレッジレビューを修了させる。
3. **ダイブ1の達成条件を修了する。**推奨深度は6～18メートル／20～60フィート。

## Drift Adventure Dive

### 達成条件

1. バディと一緒に、環境、その場の状況、深度、その他の要因に適したテクニックからなるドリフト・ダイブを計画する。
2. 環境状態および計画したドリフトのテクニックに適したエントリーをする。
3. その場のコンディションに適した方法で、計画した通りにバディ・コンタクトを維持する。
4. 中性浮力を維持し、生物や水底と不注意による接触を避ける。
5. 深度5メートル／15フィートで少なくとも3分間の安全停止を行なう。

6. その場のコンディションに適した方法で、計画した通りにエキジットする。

## Dry Suit Adventure Dive

### 注意事項

1. 1:8の人数比で生徒ダイバーを直接的に監督するか、1:4の人数比で認定アシスタントに監督させる。
2. 生徒ダイバーが初めてオープンウォーターでドライスーツを使う前に、限定水域でドライスーツに慣れさせる。一般規準と手続き、ドライスーツ・オリエンテーションに記載された必要条件を参照。
3. 生徒ダイバーは各自がドライスーツを使用しなければならない。

### 達成条件

1. 他のダイバーの手を借りて、ドライスーツを着脱する。
2. 水面でのウエイト調整 - BCDとドライスーツから空気を抜き、通常の肺の大きさで呼吸を止めて、目の高さで浮くようにウエイトを調節する（リブリーザーを使用する場合は頭頂部の位置）。
3. スーツのスクイズを起こさずに、コントロールされた潜降をする。
4. 1分間息を吸ったり吐いたりしながらコントロールされた形でゆっくりと上下し、中性浮力をとる（リブリーザーを使用する場合は上下する必要はない）。
5. キックしたり手で水をかいたりせずに、浮力コントロールを使って1分間ホバリングをする（リブリーザーを使用する場合は、多少は手で水をかいてもよい）。
6. ダイブ中は中性浮力を維持し、誤って沈殿物を巻き上げたり水底に接触したりしない。
7. 水底から1分間に18メートル／60フィートを超えない速度で中性浮力を維持しながら浮上する。

8. 深度5メートル／15フィートで少なくとも3分間の安全停止を行なう。
9. 水面でスクーバキットとウエイト・システムを脱着する。

## Enriched Air Adventure Dive

### 注意事項

1. Enriched Air Diver Specialty Instructor Guideを使用する。
2. 生徒ダイバーに、PADI *Enriched Air Diver* マニュアルもしくは *Enriched Air Diver eLearning* 内のナレッジレビューを修了させる。
3. 生徒ダイバーが Enriched Air Diver ナレッジレビューを修了していない場合には、ダイブの前に、Enriched Air Dive Today のブリーフィングを行なう。
4. ダイブ前に、Enriched Air Diver コースの実践応用1を修了させる。これは、ダイビングの前のブリーフィングと準備の一環として行なってもよい。
5. ダイブの最大深度は、30メートル／100フィートまたは  $PO_2$  (酸素分圧) 1.4ata – いずれか浅いほう。
6. エンリッチド・エアの最大許容酸素割合は40パーセントまで。
7. 生徒ダイバーがエンリッチド・エア用ダイブ・コンピューターを使用せずにダイビングをする場合は、最大許容酸素割合は32パーセント、最大深度は30メートル／100フィート (これより浅い制限が適用される場合には、30メートル／100フィートより浅い深度)、その日の総潜水時間は160分とする。
8. 生徒ダイバーがエンリッチド・エア用ダイブ・コンピューターを使用する場合は、コンピューターを設定する様子を見守り、正しく設定されたかどうか確認する。その後は、間接的監督でよい。また、Enriched Air Diver コースの知識開発セクションとファイナル・エグザムの両方を修了した生徒ダイバーについても、間接的監督でよい。

## Fish Identification Adventure Dive

### 注意事項

生徒ダイバーは各自がスレートまたは水中ノートを携帯していなければならない。

### 達成条件

1. 魚を正しい科にグループ分けして識別し、種類を特定する。
2. できれば数や生息環境を含めて、見たものをスレートに記録する。
3. 名前を知らない魚の形をスケッチ／写真をとり、特徴を書き留め、ダイビング後にフィールドガイド、魚の分類スレートおよび／またはオンラインの参考文献を使用しながら名前を調べる。
4. 環境へ悪影響を最小限に抑えるために、適切かつ責任あるダイビングと行動をデモンストレーションする。

## Full Face Mask Adventure Dive

### 注意事項

1. Full Face Mask Diver Specialty Instructor Guideを使用し、生徒ダイバーにナレッジレビューを修了させる。
2. 必要な限定水域ダイブを実施し、ダイバーには、アドベンチャー・ダイブ中に使用するフルフェイス・マスクを使用しながら練習させる。
3. ダイブ1のすべての達成条件を修了する。
4. 最大深度は18メートル／60フィート
5. ダイバーには、バックアップとして、通常のスクーバ用マスクを携帯させる。

## Ice Adventure Dive

### 注意事項

1. Ice Diver Specialty Instructor Guideを使用し、生徒ダイバーにナレッジレビューとダイブ1のすべての達成条件を修了させる。
2. アイス・ダイバー・トレーニング・ダイブでの最小のチームサイズは、2名までのチームと1名のインストラクター／認定アシスタントに加えて2名の安全ダイバーと2名の水面テンダー（プライマリーとレスキュー）とする。
3. 最大深度は、エントリーホールから水平、垂直を含む全距離が18メートル／60フィート。

## Night Adventure Dive

### 注意事項

1. このダイブは、日没から日の出までの間の時間に実施する。
2. 1:8の人数比で生徒ダイバーを直接的に監督するか、1:4の人数比で認定アシスタントに監督させる。
3. 生徒ダイバーは各自が水中ライトを携帯していなければならない。予備の水中ライトとマーカー／ケミカルライトの携帯が推奨される。

### 達成条件

1. ラインまたは傾斜した水底を用いて潜降する。
2. ダイビング中、ハンドシグナルと水中ライトの両方を使ってコミュニケーションする。
3. 夜間に水中ライト、残圧計、コンパス、タイマー、深度計の使い方をデモンストレーションする。
4. あらかじめ決めておいた場所へコンパス／自然の目標物を使ってナビゲーションし、スタート地点の8メートル／25フィート以内に戻る。必要であれば、浮上して方向を確認する。

5. 最初から最後までバディ・コンタクトを維持する。
6. ラインまたは傾斜した水底を使って浮上する。

## Peak Performance Buoyancy Adventure Dive

### 達成条件

1. 以下のポイントに注意しながらウエイト・システムを組む：
  - a. PADIベーシック・ウエイト・ガイドラインを使用するか、同様の環境で、同じ器材を使用して行なったこれまでの経験に基づいて見積もったウエイト量。
  - b. 水中で自分の望む快適な姿勢がとれるようにウエイトを配分して位置を決める(トリム)。
2. すべてのホース、ゲージ、アクセサリを適切に固定、装着することで、器材を流線型にする
3. 適正ウエイトの調整 - 通常の肺の大きさで呼吸を止めて、BCDに空気が入っていない状態で目の高さで浮くようにウエイトを調整する(リブリーザーを使用する場合は頭頂部の高さ)。
4. 水底へ向かってゆっくりとコントロールされた潜降を行ない、中性浮力をとる。
5. あらかじめ決めておいた深度で中性浮力をとる。
6. 呼吸コントロールだけで(オープン・サーキット・スクーバ)、または手やフィンをごくわずかに動かすだけで(リブリーザー)深度の微調整を行ない、1メートル／3フィート以上浮いたり沈んだりしないように60秒間ホバリングする。
7. ダイブ中は、浮力をコントロールし、水底にぶつかったり、水面から身体や器材を出したりせずに、必要な場合は浮力を頻繁に少しずつ調整しながら、リラクセスし、水平ポジションで中性浮力を維持する。
8. ウエイトを調節し、垂直、水平、足が上、頭が上など様々な姿勢でホバリングを練習する。
9. ポスト・ダイブ浮力チェックを行ない、付けている適正ウエイト量を確認する。

## Rebreather Adventure Dive

### 注意事項

1. Rebreather Diver Course Instructor Guideを使用すること。
2. 生徒ダイバーに、PADI Rebreather & Advanced Rebreather Diverマニュアルを使用しながら、PADI Rebreather Diver のセクション1とナレッジレビュー1を修了させる。
3. ダイバーには、ダイブの前にPADI Rebreather Diverコース・プラクティカル・アプリケーション1を修了させる。これをダイブ前準備に実施してもよい。
4. ダイブ1のすべての達成条件を修了する。
5. Underwater NavigationとDeep Adventure Diveを修了しているPADI Adventure Diverは、PADI Rebreather DiverとAdvanced Rebreather Diverの統合コースの参加前資格を満たしていれば、統合プログラムの最初のダイブ(リブリーザー・ダイブ1とアドバンスド・リブリーザー・ダイブ1の組み合わせ)をRebreather Adventure Diveとして行うことができる。これは、統合プログラムにクレジットすることができる。

## Search and Recovery Adventure Dive

### 注意事項

ダイブを実施するには、小さい物体、大きい物体(重さ最大11キロ/25ポンド)、ライン、索具とリフトバッグを用意する。

### 達成条件

1. およそ15メートル×15メートル/50フィート×50フィートのエリアをサーチして、水中に沈んでいる小さな物体を見つけるか、計画したダイブリミットに達するまで探す。

2. およそ30メートル×30メートル／100フィート×100フィートのエリアをサーチし、水中に沈んでいる重さ11キロ／25ポンド以下の物体を見つけるか、計画したダイブリミットに達するまで探す。
3. 水中で、パウライン、ツーハーフヒッチ、シートバンドをそれぞれ正しく結ぶ。
4. リフトバッグを使って、重さが11キロ／25ポンド以下の物体を安全に結索し、水面へ引き上げる。

## Self-Reliant Adventure Dive

### 注意事項

1. Self-Reliant Diver Specialty Instructor Guideを使用し、生徒ダイバーにナレッジレビューとダイブ1のすべての達成条件を修了させる。
2. そのダイバーと一緒に最近潜ったことがない場合には、ダイバーの知識を確認し、ダイブを修了するのに必要なスキルがあるかどうか、水中で評価する。
3. 最大1:8の人数比でダイバーを直接的に監督する。認定アシスタントを使っても、この人数比を増やすことはできない。

## Shark Conservation (AWARE) Adventure Dive

### 注意事項

1. AWARE - Shark Conservation Diver Specialty Instructor Guideを使用し、生徒ダイバーにナレッジレビューとダイブ1のすべての達成条件を修了させる。

## Sidemount Adventure Dive

### 注意事項

1. Sidemount Diver Specialty Instructor Guideを使用する。
2. 生徒ダイバーにPADI Sidemountセクションおよびナレッジレビュー1をPADI Sidemount and Tec Sidemount Diverマニュアルを使用しながら修了させる。

3. ダイバーは限定水域ダイブの前に、Sidemount Diver実践応用を完了しなければならない。
4. 限定水域ダイブの間にダイバーはアドベンチャー・ダイブで使用する器材の組み立て(1本もしくは2本のシリンダーを使用)を練習する。
5. もしダイバーがアドベンチャー・ダイブを1本のシリンダーを使用して行う場合は、2本のシリンダーを使ったスキルは適用されない。
6. 生徒ダイバーに、ダイブ1のすべての達成条件を修了させる。深度6～18メートル／20～60フィート内でダイブする。

## Underwater Naturalist Adventure Dive

### 達成条件

1. 水中生物を静かに受動的に観察する。
2. 水中生物にマイナスの影響を与えないように、中性浮力を維持して正しい姿勢をとる。
3. バディと一緒に、少なくとも2種類の水中植物を探し、名前を確認する(淡水の場合は1種類)。
4. バディと一緒に、少なくとも4種類の水中無脊椎動物を探し、観察し、名前を確認する(淡水の場合は1種類)。
5. バディと一緒に、少なくとも5種類の水中脊椎動物を探し、観察し、名前を確認する(淡水の場合は2種類)。

## Wreck Adventure Dive

### 注意事項

1. 1:8の人数比で生徒ダイバーを直接的に監督するか、1:4の人数比で認定アシスタントに監督させる。
2. レック・ペネトレーションを行ってはならない。

### 達成条件

1. 中性浮力を維持しながらレックの外側を泳ぐ。潜在する危険性を特定し、避ける。
2. レックをナビゲーションし、水面に出ずに浮上ポイントを探す。必要に応じて、インストラクター／認定アシスタントの助けを借りる。
3. 水底やレックにぶつからないように、中性浮力と適切な姿勢を維持する。



# RESCUE DIVERコース

## INSTRUCTOR GUIDE



**PADI**<sup>®</sup>

本ガイドで別途指定されている場合を除き、  
「一般規準と手続きガイド」に概説されている規準は  
PADI Rescue Diverコースに適用される。

# セクション1

## コース規準

### 認定条件

生徒ダイバーはコース達成条件を満たし、さらに：

- 5つの知識開発セグメントとエグザムを修了する。
- 限定水域またはオープンウォーターで、セルフレスキュー・レビューのスキルをデモンストレーションする。
- オープンウォーターで、レスキュー課題1～10のスキルをデモンストレーションする。
- オープンウォーターでのレスキュー・シナリオ1と2に参加する。
- ダイビング・ポイントの緊急アシストプランを作成する。

### 深度

レスキュー課題4 – 12メートル／40フィート

レスキュー課題6とシナリオ1 – 9メートル／30フィート

### ダイバー参加前条件

- **12歳**  
注意：12～14歳のダイバーはJunior Rescue Diver認定を取得できる。
- **PADI (Junior) Adventure Diver 認定は、Underwater Navigation Adventure Diveを修了していなければならない**
- PADI Open Water Diverは、知識開発と限定水域でのレスキュー課題に参加できる。
- **過去24ヶ月以内にEFR® Primary and Secondary Careのトレーニングを受けている。**このトレーニングは、Rescue Diverコースと一緒に修了することができる。

## 器材

「一般規準と手続きガイド」を参照。さらに：

- **ファーストエイド・キット、酸素ユニット、レスキュー・ブリージング・マスク**
- **必要に応じて、フロート、マーカージョイント、CPRマネキンなど**

## 書式

最新の書式をPADIプロサイトからダウンロードすること。各国固有の免責同意書、申請書、書式については、所属PADIオフィスに確認する。

## 必須

継続教育専用書式 (10038J)

## 推奨

Rescue Diverコース・トレーニング記録と委託紹介書 (10295J)

## インストラクター資格

### インストラクター

## 教材

- **PADI *Rescue Diver Manual***
- **ダイビング自己管理ワークスレート**
- **ログブック**

生徒ダイバーは**PADI *Rescue Diver Video***を見なければならない。

## 人数比

「一般規準と手続きガイド」を参照。

## 監督

「一般規準と手続きガイド」を参照。

## セクション 2

### 知識開発

生徒ダイバーは、ナレッジレビューとRescue Diverエグザムを含めて、5つの知識開発セグメントをすべて修了しなければならない。

デジタル学習者のために、生徒ダイバーがオンラインで修了しなかったすべての評価を完了させる。オンラインですべての評価を修了した生徒ダイバーは、Rescue Diverクイックレビューを修了する。

生徒ダイバーは、シナリオを実施する場所の緊急アシストプランを作成する。

ナレッジレビューとエグザムのアンサーキーはPADIのプロサイトに掲載されている。

## セクション 3

### レスキュー課題

#### 一般的な注意事項

すべてのレスキュー課題は、オープンウォーターで実施する。必要であれば、最初に限定水域でレスキュー課題について説明し、練習する。各課題は以前に学習したスキルに基づいているので、レスキュー課題を順番に実施する。ただし、柔軟なスケジュールに対応するためにどのような順番で実施してもよい。レスキュー課題9はレスキュー・シナリオ1の前に完了してもよい。

レスキュー課題とシナリオ練習は、少なくとも2日間に分散して行なう。レスキュー・シナリオ1の前にレスキュー課題1～6を完了し、レスキュー・シナリオ2の前に課題7～10を完了する。

レスキュー練習中に浮上するときには、1分間に18メートル／60フィート以下の速度で浮上し、レギュレーターはくわえたままにし、絶対に息を止めてはいけないことを忘れないよう生徒ダイバーに念を押す。

## 達成条件

### セルフレスキュー・レビュー

以下のセルフレスキューが必要な状況での正しい実施手順をデモンストレーションする：

- 足のつりを治す。
- 水面で浮力を確保する。
- 気道のコントロールをする。
- 予備の空気源を使用する。
- ヴァーティゴを克服して方向感覚を取り戻す。

### 課題1 - 疲労ダイバー

疲労していて(パニックは起こしていない)反応のあるダイバーを水面でアシストし、以下をデモンストレーションする：

- アプローチ
- 状況判断
- コンタクトを取る
- 事故者を安心させる
- アシストと移動
- 器材を外す

### 課題2 - パニック・ダイバー

パニックを起こしている(理性を失っている)ダイバーをレスキューし、以下をデモンストレーションする：

- アプローチと状況判断
- コンタクトを取る
- しがみついてくる事故者を振り払う
- パニック・ダイバーにつかまれぬように、すばやくクイック・リバー スを利用しながら近づく

### 課題3 - 浜、ボート、棧橋からの対応(反応があるダイバー)

トラブルを起こしていて反応があるダイバーをアシストし、以下をデモンストレーションする：

- リーチ、エクステンション、スローイングなどのノンスイミング・アシスト
- 事故者から目を離さないようにエントリーして、体力を消耗しないペースで近づく
- 浮力補助具がある場合とない場合のスイミング・アシストとレスキュー
- 器材有り無しでのアンダーアーム・プッシュ、シリンダー・バルブ・トゥ、修正された疲労スイマー・キャリアなどの曳行
- エキジット

#### 課題4 – 水中でトラブルに遭遇しているダイバー

1. 水中で、動きすぎによる疲労状態をシミュレーションしているダイバーを正しく識別し、対応する。
2. やみくもに浮上しようとしているパニックダイバーを正しく識別し、対応する。
3. 予備の空気源を使用して、エア切れをシミュレーションしているダイバーを正しく識別してエアを与え、エアを分けあいながら一緒にコントロールされた浮上をする。

#### 課題5 – 行方不明ダイバー

水中サーチパターンを使用して、迅速に効率よく行方不明ダイバーを捜索して発見する。

#### 課題6 – 反応がないダイバーを浮上させる

1. 浮上の補助として、コントロールされたプラス浮力を利用する。
2. 反応がないダイバーまたは救助者自身の浮力コントロールを使って、事故者を水面に浮上させる。

#### 課題7 – 水面で反応がないダイバー

1. 水面で反応がないダイバーにアプローチして呼吸をチェックし、以下をデモンストレーションする：

- 浮力を確保しながら助けを呼び、ダイバーを仰向けにする。
  - ダイバーのマスクとレギュレーターを外し、気道を確保して呼吸を確認する。
2. 以下の方法を使って、水中でのレスキュー呼吸をデモンストレーションする：
    - マウス・トゥ・レスキュー・ブリージング・マスク
    - マウス・トゥ・マウス
    - マウス・トゥ・ノーズ (オプション)
    - マウス・トゥ・スノーケル (オプション)
  3. 効果的なレスキュー呼吸を続け、エキジットへ向かってダイバーを曳行しながら、器材(事故者と救助者)を取り外す方法をデモンストレーションする。

#### 課題8 – 反応のないダイバーのエキジット

1. 呼吸しているが反応がないダイバーを、アシストありとアシストなしでエキジットさせる。
2. 呼吸していないダイバーを、アシストありとアシストなしでエキジットさせる。

#### 課題9 – 圧力関連事故のファーストエイドと酸素供給

1. 呼吸をしているが反応がなく、減圧障害が疑われるダイバーに酸素供給するステップと手順をデモンストレーションする。
2. レスキュー呼吸用のレスキュー・ブリージング・マスクを使って、呼吸していないダイバーに酸素供給をする。

#### 課題10 – 水面で反応のない(呼吸していない)ダイバーに浜／ボートから対応

反応がなく呼吸をしていないダイバーをレスキューしなければならないという緊急事態に対応し、水面でのレスキュー呼吸、エキジット、CPRをデモンストレーションする。

# セクション4

## レスキュー・シナリオ

### シナリオについての一般的な注意事項

**レスキュー・シナリオはすべてオープンウォーターで実施する。**

1. シナリオは、無理のない計画と安全確保の範囲内で、できる限り現実的なものにする。
2. 環境とクラスの人数に合わせてシナリオを調整する。生徒ダイバーは、チームまたは個人としてシナリオを実行する。
3. 認定アシスタントを使って、傍観者役、救急隊 (EMS) の電話に出る役、他のダイバー役、事故者役など、シナリオに欠けている部分を補う。
4. 標準的な器材 (ファーストエイド・キットと酸素キット) を準備し、器材のセッティングと設置は生徒ダイバーが行なう。
5. 自信をつけるために必要に応じてシナリオを繰り返し練習し、救助者としての能力を高めるとともに、全員が各役割を演じられるようにする。

## 達成条件

### シナリオ1 - 水中で反応のないダイバー

事故のシミュレーションで、行方不明ダイバーを捜索して発見する。デモンストレーション:

1. 事故者のボディに話を聞き、情報から論理的な結論を引き出す。
2. 迅速で効率的な捜索方法を計画する(水面と水中のサーチパターンを使う)。
3. 行方不明ダイバーを捜索して発見する。
4. コントロールされたプラス浮力を使って、意識不明をシミュレーションしているダイバーを水面に引き上げる。

### シナリオ2 - 水面で反応がないダイバー

デモンストレーション:

1. 事故のシミュレーションで、反応がなく呼吸をしていないダイバーに効果的に対応する。
2. 評価、曳行、水面でのレスキュー呼吸、器材の取り外し、エキジット、CPR。

注意: CPRマネキンを使うか、CPR圧迫をシミュレーションする。



# MASTER SCUBA DIVER™プログラム

## INSTRUCTOR GUIDE



**PADI®**

本ガイドで別途指定されている場合を除き、  
「一般規準と手続きガイド」に概説されている規準は  
PADI Master Scuba Diverプログラムに適用される。

# コース規準

Master Scuba Diver資格は、PADIシステムの中で最高のレクリエーション・ダイバー資格であり、優れた経験と実績のあるダイバーを表す。

## 認定条件

- **12歳**

注意:12~14歳のダイバーはJunior Master Scuba Diver資格を取得できる。

- **PADI (Junior) Advanced Open Water Diver、PADI (Junior) Rescue Diver、および5種類のPADI Specialty あるいはTecRecコースで認定を受けている。**

注意:SpecialtyあるいはTecRec認定はPADIの認定でなければならない。他の認定は条件を満たさない。PADI Freediver(ベーシックではない)認定をひとつだけクレジットできる。

- **ログに記録されたダイブ本数50本**

## インストラクター資格

### インストラクター

## 手順

認定条件を確認し、Master Scuba Diver申請書(10142J)をPADIオフィスへ提出する。

## Dedicated Master Scuba Diverの認定

ダイバーは次の方法でDedicated Master Scuba Diverの資格を得る:

- **年齢、PADI Advanced Open Water DiverとRescue Diverの認定、50本以上のログに記録されているダイブ経験本数など、Master Scuba Diver認定のための必要条件を満たす。**
- **Dedicated Master Scuba Diverのプログラムのひとつとして、5つのPADIディスティンクティブ・スペシャルティ・ダイバー・プログラムの認定を取得する。**
- **インストラクターと一緒に、PADI Dedicated Master Scuba Diverの申請書をPADIリージョナル・ヘッドクォーター(各地域本部)に提出する。**

# DIVEMASTERコース

## INSTRUCTOR GUIDE



**PADI**<sup>®</sup>

本ガイドで別途指定されている場合を除き、  
「一般規準と手続きガイド」に概説されている規準は  
PADI Divemasterコースに適用される。

この認定を取得しているダイバーは、レクリエーショナル・スクーバ・ダイ  
バー・  
トレーニングのISO 24801-3要件を満たしている-パート3:レベル3-ダイ  
ブ・リーダー

# セクション 1

## コース規準

### 認定条件

ダイブマスター候補生はコース達成条件を満たし、さらに以下を満たさなければならない:

- 「PADI *Divemaster Manual*」または*Divemaster eLearning*を使ってナレッジレビューを含めた知識開発セクションを修了し、Divemasterファイナル・エグザムに合格する。
- 指定されたダイビング・ポイントの緊急アシストプランを作成する。
- 水中スキル実習を修了する。
- ダイバー・レスキュー評価を修了する。
- ダイブスキル・ワークショップと評価を修了する。
- 実践応用スキルを修了する。
- Divemasterが実施できるプログラムのワークショップを修了する。
- 実践評価を修了する。
- プロフェッショナリズムの基準を満たす。

認定時、候補生が以下を満たしていることを確認する:

- ナイト・ダイビング、ディープ・ダイビング、アンダーウォーター・ナビゲーション経験を含めて、ログに記録されたダイブ本数60本以上。
- 過去24ヶ月以内にEFR Primary and Secondary Care トレーニングを修了(インストラクター・マニュアル「一般規準と手続き」参加前条件に準ずる)。
- PADIメンバーシップ同意書およびライセンス同意書を読んで同意する。

## ダイバー参加前条件

- PADI Advanced Open Water DiverおよびPADI Rescue Diver認定
- 18歳以上
- ログに記録されたダイブ本数40本
- 過去24ヶ月以内にEFR Primary and Secondary Care トレーニングを修了(インストラクターマニュアル「一般規準と手続き」参加前条件に準ずる)。
- 過去12ヶ月以内に医師による健康診断を受け、ダイビング許可を得ている

## 器材

「一般規準と手続きガイド」に記載されているインストラクターおよび認定アシスタント用器材を参照。

## 書式

最新の書式をPADIプロサイトからダウンロードすること。各国固有の免責同意書、申請書、書式については、所属PADIオフィスに確認する。

## 必須

Divemaster資格申請書 (10144J)

Release of Liability/Assumption of Risk/Non-agency Acknowledgment Form – 免責同意書 (10072) (日本の場合はPADIコースの危険の告知書)

ダイバーメディカル／参加者チェックシート (10346J)

PADI安全潜水実施了解声明書 (10060J)

## 推奨

ダイブマスター候補生個人情報と評価表 (10147J)

## インストラクター資格

### Instructor

### 教材

#### 必須

- PADI *Divemaster Manual*または*Divemaster eLearning*
- PADI *Instructor Manual*
- RDP – テーブルおよびeRDP<sub>ML</sub>と使用説明書
- *エンサイクロペディア・オブ・レクリエーションナル・ダイビング*
- Divemasterスレート
- ログブック

ダイブマスター候補生はPADI *Divemaster Video*見なければならぬ。

#### 推奨

- PADI's *Guide to Teaching*
- *Diving Knowledge Workbook*または*Dive Theory eLearning*
- PADIスキル練習とダイブ・プランニング・スレート

### 人数比

1:8

### 順序

1. 実習、ワークショップ、評価、実践応用を含めて、すべての水中セッションの前に、知識開発トピック1「PADI Divemasterの役割と資質」を実施する。

注意: 候補生はDivemaster eLearningを修了した場合でもインストラクターからプレゼンテーションが必要。

2. 知識開発トピック2と3「認定ダイバーの監督」と「生徒ダイバーのアシスト」は、実践評価の前に実施する。
3. 知識開発トピック5「Divemasterが実施できるプログラム」は、「Divemasterが実施できるプログラムのワークショップ」の前に実施する。

## 監督

「一般規準と手続きガイド」を参照。

# セクション2

## 知識開発

知識開発トピック1 - 「PADI Divemasterの役割と資質」を実施する。

ナレッジレビューを含めて、候補生はすべての知識開発トピックを修了しなければならない。候補生は「PADI *Divemaster Manual*」と「*Video*」を使うか、*Divemaster eLearning*で自習する。知識開発は、自習、プレゼンテーション、ディスカッションの組み合わせで行なうことができる。

デジタル学習者のために、候補生がオンラインで修了しなかったすべての評価を完了させる。オンラインですべての評価を修了した候補生は、*Divemaster*クイックレビューを修了する。

PADI *Divemaster*ファイナル・エグザムを対面で行う場合、候補生は、RDPテーブルとeRDPML、電卓、PADI *Instructor Manual*を参考用に使用することができる。過去12ヶ月以内に*Dive Theory eLearning*を修了した候補生は（eレコードで証明）、エグザムのパート2に対するクレジットを受けることができる。

候補生は、指定されたダイビング・ポイントで発生したダイビング事故を管理するのに必要な情報を記載した緊急アシストプランを作成しなければならない

ナレッジレビューとエグザムのアンサーキーはPADIのプロサイトに掲載されている。

# セクション 3

## 水中スキル開発

### 水中スキル実習

候補生は5つの水中スキルを終了し、合計得点15点以上を得点しなければならない。候補生は器材交換スキルで少なくとも3点以上を取らなければならない。そのほかの各実習に合格点はない。

#### スタミナ実習 1:400メートル／ヤード水泳

水泳用の補助具を使わずに400メートル／ヤードをノンストップで泳ぐ。泳ぎ方はどのようなものでもよく、組み合わせてもよい。

400メートル 時間	得点	400ヤード 時間
6分30秒未満	5	6分未満
6分30秒以上8分40秒未満	4	6分以上8分未満
8分40秒以上11分未満	3	8分以上10分未満
11分以上13分未満	2	10分以上12分未満
13分以上	1	12分以上
途中で止まった	不合格	途中で止まった

#### スタミナ実習2:15分間立ち泳ぎ

水泳用の補助具は使わずに水着だけで、溺れないように15分間立ち泳ぎをする。最後の2分間は手首を水から出す(腕ではない)。

例外:身体的障害のある候補生で、手首を水から出しておくのが困難あるいは不可能な場合は、手首を出しておく評価部分は得点に関係なしに省略できる。

基準	得点
満足に終了した	5
浮いていたが、2分間水から手首を出して いなかった	3
2回以下ではあるが、プールサイド ／水底にさわって身体を支えた	1
2回以上プールサイド ／水底にさわって身体を支えた	不合格

### スタミナ実習3:800メートル／ヤード・スノーケル・スイム

**マスク、スノーケル、フィンを使い、浮き具なしで手を使わずに、顔を水につけたままノンストップで800メートル／ヤードを泳ぐ。**

例外:身体障害により脚の動きが制限されているため、普段のダイビングで腕を使って泳いでいる候補生は、腕を使ってもよい。

800メートル 時間	得点	800ヤード 時間
14分未満	5	13分未満
14分以上16分30秒未満	4	13分以上15分未満
16分30秒以上18分30秒未満	3	15分以上17分未満
18分30秒以上21分未満	2	17分以上19分未満
21分以上	1	19分以上
途中で止まった	不合格	途中で止まった

## スタミナ実習4:100メートル／ヤード疲労ダイバー曳行

アシストなしで、ダイバーをノンストップで100メートル／ヤード曳行する(または押す)。ダイバーは両方ともスクーバ器材をフル装備。

100メートル 時間	得点	100ヤード 時間
2分10秒未満	5	2分未満
2分10秒以上3分15秒未満	4	2分以上3分未満
3分15秒以上4分20秒未満	3	3分以上4分未満
4分20秒以上5分30秒未満	2	4分以上5分未満
5分30秒以上	1	5分以上
途中で止まった	不合格	途中で止まった

## スタミナ実習5 — 器材交換

限定水域で、ダイブマスター候補生は互いの予備の空気源から呼吸をしながらバディとすべてのスクーバ器材(保護スーツとウェイト・ベルトは除く)を交換することで、水中での予期せぬトラブルに対処する能力をデモンストレーションする。交換中は中性浮力を保ち、少なくとも3点以上を取らなければならない。マスクは交換せず、候補生自身のマスクを一旦外した後に再度装着する。

## 実施方法:

- バディチームに最大5分間の打ち合わせ時間を与える。
- 足がつかない深さの場所で中性浮力を保ちながら、水底や水面に接触せずに行うよう指示する。
- トラブルの課題は指定しない。自然発生するトラブルを解決させる。

- 5 よく考えて、手ぎわよく、トラブルを感じさせないような、しっかりと目的にあったやり方で、器材交換を完了した。不安のレベルはきわめて低かった。いつも通りの動きのようで、簡単そうに見え、どちらの候補生も水底や水面に接触しなかった。
- 4 不安のレベルは比較的低く、上手にやりとげた。トラブルはあったが、簡単かつ効率的に水底や水面にふれることなく対処した。
- 3 中性浮力を保ちながら器材交換を完了した。ただし、多数のトラブルがあったため、スピードが遅く、効率が悪かった。このスコアは、バディに頼りすぎるダイバーにも適用される。
- 2 大きなトラブルがあった。バディの一方または両方が1回浮上した後に、器材交換を完了した。
- 1 器材交換を完了できなかった。あるいは、交換できたが、バディの一方または両方が複数回浮上した。

## ダイバー・レスキュー

以下のステップを含めて、意識不明で呼吸していないダイバーに対応する候補生の能力を評価する：

- 水に入り、25メートル／ヤードほど離れたところに沈んでいるダイバーを探して水面に引き上げる。
- ダイバーを仰向けにし、浮力を確保する。
- ダイバーのマスクとレギュレーターを外し、気道を確保して呼吸をチェックする。
- 助けを呼ぶ
- ゆっくりと2回のレスキュー呼吸を施した後、できるだけ中断することなく、5秒ごとに1回の効果的なレスキュー呼吸を続ける
- 気道を確保し、レスキュー呼吸を続けながら、安全な場所までダイバーを曳行する
- 双方の器材を外す（器材回収係を使うのは可）。

- **ダイバーを水から引き上げる。**（アシストを使うのは、特定の身体障害や環境上のコンディションによりアシストが必要な場合のみとする。

**実施方法：** 限定水域またはオープンウォーターのいずれかでダイブマスター候補生のレスキュースキルを育成し、評価する。

## ダイブスキル・ワークショップ

**スクーバとスキン・ダイビングの全スキルをデモンストレーションし、各スキルで少なくとも3点、合計で82点以上を得点し、少なくともひとつのスキルで5点を取る。**

実施方法：

- デモンストレーションレベルのスキルの特質について述べ、重要なポイントを大げさに強調して見せることが大切であることを説明する。
- 各スキルをデモンストレーションし、候補生に練習させる。
- 練習後、候補生にスキルをデモンストレーションさせ、採点する。達成条件を満たすまで、必要に応じて補習する。

得点	基準
5	正しくゆっくりと、誇張した動作で実施した。簡単そうに見えた
4	正しくゆっくりと、スキルの詳細を十分に見られる様に実施した
3	正しく実施したが、早すぎてスキルの詳細を十分に見せられなかった
2	スキルがやっとできた、または間違っていた
1	候補生は、スキルができなかった

**注意：**この評価基準は、PADIのリーダーシップ・トレーニングのすべてのランクにおいて、スキル評価の採点に使用されている。

## ダイブスキル

1. 器材セッティング(組立と取外)、準備、装着と調整
2. プレダイブ・セーフティ・チェック(BWRAF)
3. ディープ・ウォーター・エントリー
4. 水面での浮力チェック
5. スノーケルからレギュレーター／レギュレーターからスノーケル交換
6. ファイブ・ポイント潜降、浮力コントロールを行ない、水底に接触しないで潜降する
7. レギュレーター・リカバリーとクリア\*
8. マスクの脱着とクリア\*
9. エア切れの練習と予備の空気源の使用(停止位置)
10. 予備の空気源での浮上
11. フリーフロー・レギュレーターからの呼吸
12. 中性浮力で上下動 - パワー・インフレーターを使って
13. ファイブ・ポイント浮上
14. コントロールされた緊急スイミング・アセント
15. オーラルを使ってBCDに空気を入れ、少なくとも60秒間ホバリング
16. 水中でのマスクなし移動
17. 水中でウエイト・システムの脱着
18. 水中でスクーバキットの脱着
19. 水面でスクーバキットの脱着
20. 水面でウエイト・システムの脱着
21. スキンダイブ中のサーフェスダイブおよび、水面に戻った際のブラスト法によるスノーケル・クリア
22. インフレーター・ホースの取り外し
23. 緩んだシリンダー・バンドの締め直し
24. エマージェンシー・ウエイト・ドロップの実施

\*5.0点を得点するには、ダイバーは中性浮力の状態でスキルをデモンストレーションしなければならない

# セクション4

## 実践応用

候補生は以下の実践スキル、ワークショップ、実践評価を修了しなければならない。必要に応じて、スキルとワークショップおよび実践評価を組み合わせて実施する。

## 実践スキル

### スキル1ー ダイビング・ポイントでのセットアップと管理

ダイブマスター候補生は、バディチーム、もしくは個々に以下のようにダイビング・ポイントをセットアップし、プレダイブ準備を管理する：

- ダイバーが器材をセッティングするのに適した場所を選ぶ。
- ファーストエイドキットや酸素ユニットなど緊急用器材の準備をする。
- ダイビング・ポイント／ポートに到着したダイバーを出迎え、指示を与える。例－どこに器材を置けばよいか、トイレなどの施設はどこにあるかなど。
- 名簿を準備し、チェックインとチェックアウトの手順をダイバーに説明する。
- ビーチダイビングの場合には、フロート／ダイブフラッグを準備してセッティングする。ポート・ダイビングの場合には、潜降ラインとダイブフラッグが準備されているかどうか確認する。
- ダイバーを監督するのに適した位置を選ぶ。
- ダイビングの前後に、ダイバーからの質問に答え、いつでもアシストできる準備を整えておく。

### スキル2:水中地図の作成

ダイブマスター候補生は、バディチームでオープンウォーターのダイビング・ポイントを調査し、水底の起伏、重要なポイント、環

境上の注意点、エントリー／エキジットに推奨されるエリア、付近の施設、危険物などを示す詳しい地図を作成する。

### スキル3:ブリーフィング

各ダイブマスター候補生は、よく知っているダイビング・ポイントで、下記およびDivemasterスレートにリストされている10のポイントを取り入れたブリーフィングを実施する。可能なら、ダイビング・ポイントの水中地図作成の課題で作った地図を使うよう指示する。

1. ダイビング・ポイントの名称
2. ポイントの説明
3. ダイブマスターの役割、水中での見分け方
4. エントリー／エキジット方法
5. ダイビング手順
6. 緊急手順
7. そのダイブに合わせたシグナルの復習
8. ダイバー確認作業(名簿)／ボディチェック
9. 環境のオリエンテーション
10. プレダイブ・セーフティ・チェック

### スキル4:サーチ&リカバリーのシナリオ

様々なサーチ&リカバリーのシナリオを設定して、ダイブマスター候補生に以下の課題を与える：

- 水中に沈んだ小さな物体を探すのに適したサーチ方法をデモンストレーションする。
- 重さ11キロ／25ポンド以下のマイナス浮力の物体を探すのに適したサーチ方法をデモンストレーションする。
- 水中で、バウライン、ツーハーフヒッチ、シートバンドを正しく結ぶ。
- 適切なリフトバッグを使って、重さ11キロ／25ポンド以下のマイナス浮力の物体をリフトバッグに結びつけ、安全に水面まで引き揚げる方法をデモンストレーションする。

## スキル5: ディープ・ダイビングのシナリオ

ディープ・ダイビングで、各ダイブマスター候補生に以下の課題を与える:

- バディとダイビング前に、緊急用呼吸機材を準備し、安全停止の位置に設置する。
- バディと離れないように注意し、潜降速度をコントロールしながら、ライン、ウォール(壁)、傾斜した水底を視標として使って潜降する。
- 視標ラインまたは指定した場所から少なくとも20キックサイクル分の距離を、コンパスを使ってナビゲーションしながら往復する。
- 深度計と時計またはダイブ・コンピューターを使って浮上速度を確認しながら、指標ライン、ウォール(壁)、傾斜した水底を視標として使って、1分間に18メートル以下の速度で浮上する。
- 水面に出る前に、視標ラインにつかまらずにポジションを維持しながら、深度5メートル/15フィートの位置で3分間の安全停止を行なう。

## ダイブマスターが実施できるプログラムのワークショップ

### ワークショップ1: ReActivateプログラム

- PADI *Instructor Manual*でReActivateの規準を参照する。
- ReActivateの知識評価の方法について説明する。
- ReActivateの処方的な方法で、練習するスキルの決定の仕方をデモンストレーションする。

スキル練習中に気付いた問題点を正す。

### 実施方法:

- PADI *Instructor Manual*に記載されている ReActivateの規準を説明し、知識評価の方法について話し合う。

- お手本となるReActivateのウォータースキル・セッションを限定水域もしくはオープンウォーターで実施し、参加者のまとめ方、器材の準備方法、実施場所の説明の仕方などをデモンストレーションする。
- 候補生は交代で参加者にどのスキル練習をするかを定めるための聞き取りをする。他の候補生／スタッフが参加者役を演じる。候補生に、練習したいスキルを確認したり、ダイビングしてなかった期間や、過去のダイビングの経験から、見直しが必要なスキルを勧めたりする。
- スキル練習中、参加者役にトラブルをランダムに割り当て、候補生には、トラブルに気付いたらただちに対処するよう指示する。必要に応じて、デモンストレーションと問題解決の補習を行なう。
- PADI OLPC (オンライン・プロセッシング・センター) を通じて、ReActivateの日付での認定カードの手続き方法を見直す。

## ワークショップ2: Skin Diver (Advanced Snorkeler)コースとスノーケリングの監督 (限定水域またはオープンウォーターで実施)

- **Skin Diver (Advanced Snorkeler)コースのブリーフィングまたはスノーケリングツアーのブリーフィングを行なう。**
- **Skin Diver (Advanced Snorkeler)コースの限定水域ダイブまたはオープンウォーター・ダイブ、またはスノーケリングツアーを実施して、コントロールと監督方法をデモンストレーションする。**
- **スキン・ダイビングまたはスノーケリングツアー中に気付いた問題点を正す。**

### 実施方法:

- スクーバ・ダイビングのブリーフィングとスキン・ダイビング／スノーケリングツアーのブリーフィングとの違いについて話し合う。
- 各候補生は、指定されたシナリオに基づいてブリーフィングを実施する。例えば、20人のスノーケラーが大型のボート

から熱帯のサンゴ礁を探検する、4人のスキン・ダイバーがビーチから波をくぐってエントリーする、子供連れの2家族が穏やかなラグーンでスノーケリングする、4人のSkin Diverコースの生徒ダイバーがプールでスキルを練習するなど。

- 候補生は交代で参加者役を演じる他の候補生／スタッフを相手にショートツアーを実施するか、スキン・ダイビングのスキル練習を実施する。参加者役にトラブルをランダムに割り当て、候補生には、トラブルに気付いたらただちに対処するよう指示する。必要に応じて、監督テクニックと問題解決の補習を行なう。

### ワークショップ3: 限定水域でのDiscover Scuba Divingプログラム

- **PADI *Instructor Manual*でディスカバー・スクーバ・ダイビングの規準が記載されているページを開き、限定水域における認定アシスタントとしてのダイブマスターの役割について説明する。**
- **PADI *Instructor Manual*でDiscover Scuba Diving Leader Internshipの必要条件が記載されているページを開き、DSD Leaderの資格を得る方法について説明する。**
- **インストラクターの指示に従って、参加者に対する正しいポジショニングをデモンストレーションする。**
- **ワークショップ中に気付いた問題点を直す。**

#### 実施方法:

- Discover Scuba Divingの規準を説明し、認定アシスタントとしてダイブマスターが限定水域でできることについて話し合う。
- Discover Scuba Diving Leader Internshipの必要条件について説明し、ダイブマスターの認定を受けた後に、どうすればDSD Leaderの資格を得ることができるかについて話し合う。
- お手本となる限定水域セッションを実施する。候補生は交代で、参加者役を演じる他の候補生／スタッフを相手

に、認定アシスタント役を練習する。参加者役にトラブルをランダムに割り当て、候補生には、トラブルに気付いたらただちに対処するよう指示する。必要に応じて、アシスタントのポジショニング、監督テクニク、問題解決の補習を行なう。

#### ワークショップ4: Discover Scuba Divingプログラムの追加のオープンウォーター・ダイブ

- **Discover Scuba Diving参加者にPADI Divemasterが実施する追加ダイブ(インストラクターが実施した最初のダイブの後のダイブ)の人数比と監督条件について説明する。**
- **Discover Scuba Diving参加者の追加のオープンウォーター・ダイブに適したブリーフィングをする。**
- **適切なコントロール方法と必要な監督をデモンストレーションしながら、ダイブを先導する。**
- **ダイビング中に気付いた問題点を直す。**

#### 実施方法:

- Discover Scuba Divingでダイブマスターが実施する追加のオープンウォーター・ダイブでの人数比と監督条件に関する規準を説明する。
- 候補生にブリーフィングを実施するよう指示する。
- 候補生は交代で、他の候補生／スタッフが演じる参加者役を先導する。参加者役にトラブルをランダムに割り当て、候補生には、トラブルに気付いたらただちに対処するよう指示する。必要に応じて、監督テクニクと問題解決の補習を行なう。

#### ワークショップ5: オープンウォーターでのDiscover Local Diving

- **PADI *Instructor Manual*でDiscover Local Divingプログラムの規準が記載されているページを開く。**
- **ダイビング・ポイントのコンディションを評価し、ダイブプランを立てる。**

- **Discover Local Divingのブリーフィングをする。**
- **コントロール方法と監督をデモンストレーションしながら、ダイブを先導する。**
- **ダイビング中に気付いた問題点を直す。**
- **サーフェス・マーカース・ブイの使い方をデモンストレーションする。**

#### 実施方法:

Discover Local Divingの規準を説明する。

コンディションを評価し、観察し事柄を説明するよう候補生に指示する。

指定されたシナリオに基づいてダイブプランを立て、ブリーフィングを実施するよう候補生に指示する。例えば、数年間ダイビングから遠ざかっている、先日ReActivateを修了したばかりのダイバー、初めて冷たい海のケルプ群生地域で潜るダイバー、初めてボート・ダイビングに参加するダイバー、初めてサーフェス・マーカース・ブイ(SMB)を使うダイバーなど。

- 候補生は交代で、他の候補生／スタッフが演じる参加者役を先導する。参加者役にトラブルをランダムに割り当て、候補生には、トラブルに気付いたらただちに対処するよう指示する。必要に応じて、監督テクニックと問題解決の補習を行なう。
- 地域で使用するDSMB(ディレイド・サーフェス・マーカース・ブイ)やシグナルフロートなど、数種類のサーフェス・マーカース・ブイの使い方をデモンストレーションするよう候補生に指示する。

## 実践評価

実践評価1～3は、実際の生徒ダイバーで実施する。それができない場合には、ロールプレイでもよい。実際の生徒ダイバーではなくシミュレーションで行なう場合には、各評価で少なくとも4人がロールプレイに必要。ロールプレイには、他のダイブマスター候補生、スタッフ、認定ダイバーに参加してもらうことができる。

実践評価4は少なくとも実際の認定ダイバー4人で実施する。

下記の基準に基づいてダイブマスター候補生が各達成条件で3点以上を得点するまで、必要に応じて評価を繰り返して実施する。

得点	基準
5	失敗をせずに、目標を自分の力で達成した。インストラクターとダイバーが必要とすることを予測して行動した。
4	失敗をせず、インストラクターやスタッフの手助けを特に大きく借りることなく目標を達成した。
3	いくつか多少の失敗はあったが、適切に目標を達成した。インストラクターによる訂正と途中のアドバイスも、短い注意やヒントの範囲内にとどまった。
2	目標を達成するのに必要な任務について、初歩的にしか理解していなかった。大きな失敗や内容不足があった。要求にかなう結果にするには、インストラクターによる訂正と途中のアドバイスが必要だった。
1	目標を達成しようと努力したが、多数の大きな失敗や内容不足があった。または、目標を達成できなかった。

ダイブマスター候補生を使って、インストラクター対生徒ダイバーの人数比を増やすことはできない。しかし、ダイブマスター候補生は、インストラクター対生徒ダイバーの最大人数比に加算されない。インストラクターはまた、生徒ダイバーをアシストしている候補生を直接的に監督し、生徒ダイバーが正しいトレーニングを受けられるよう、必要に応じて補足し、候補生のやり方に間違いがあった場合には、それを訂正しなければならない。

## 実践評価1 — 限定水域でのOpen Water Diverコースの生徒ダイバー

1. 生徒ダイバーによるダイビング前の器材セッティングをアシストする。
2. トレーニング中の生徒ダイバーの流れを取りまとめる。
3. トレーニング中、インストラクターが直接的に見ていない生徒ダイバーを監督する。
4. うまくマスターできない生徒ダイバーを手助けする。
5. 生徒ダイバーのトラブルに対処する、または防止する。
6. 生徒ダイバーにスキルをデモンストレーションする。

## 実践評価2 — オープンウォーターでのOpen Water Diverコースの生徒ダイバー

1. オープンウォーター・トレーニングの場所をチェックし、その場所がエントリー・レベルのダイバーのトレーニングに適しているかどうかについて、インストラクターに報告する。
2. 生徒ダイバーによるダイビング前の器材セッティングをアシストする。
3. ダイビング・ポイントの準備をアシストする
4. トレーニング中の生徒ダイバーの流れを取りまとめる。
5. トレーニング中、インストラクターが直接的に見ていない生徒ダイバーを監督する。
6. 生徒ダイバーのトラブルに対処する、または防止する。
7. 水中ツアーで生徒ダイバーを先導する(人数比 2:1)。

## 実践評価3 — オープンウォーターでの継続教育生徒ダイバー

1. トレーニング中の生徒ダイバーの流れを取りまとめる。
2. インストラクターの間接的監督可能なトレーニング・ダイブ中、継続教育生徒ダイバーに付き添い、パフォーマンスや学習に問題があった場合には、それをインストラクターに報告する。

3. うまくマスターできない継続教育の生徒ダイバーを手助けする。
4. 生徒ダイバーのトラブルに対処する、または防止する。

#### 実践評価4 — オープンウォーターでの認定ダイバー

1. コンディションとダイバーの評価を実施し、評価に基づいて適切な監督と対策を講じる。
2. ダイビング・ポイントに適したブリーフィングを行なう。
3. エントリー／エキジットするバディチームを確認する。
4. ダイバーのトラブルに適切に対処する、または防止する。

### プロフェッショナルリズム

実践応用が終了するまでに、ダイブマスター候補生は以下の各カテゴリーで3点以上を得点しなければならない。

1. 積極的でトレーニングセッションに前向きに参加している。
2. 生徒ダイバーに対し、良き助言者(メンター)としての役割を果たす能力がある。
3. 進んで指示に従う。
4. 生徒ダイバー、認定ダイバー、スタッフに対し、積極的な姿勢／態度を示す。
5. 環境を大切にすることに対し、積極的な姿勢を实践する。
6. ダイブマスターの役割を全般的に理解している。
7. 外見。

得点	基準
5	優秀
4	平均以上
3	許容範囲
2	平均以下
1	不可



# DISCOVER SCUBA<sup>®</sup> DIVINGプログラム INSTRUCTOR GUIDE



# PADI<sup>®</sup>

本ガイドで別途指定されている場合を除き、  
「一般規準と手続きガイド」に概説されている規準は  
PADI Discover Scuba Divingプログラムに適用される。

このプログラムを完了する参加者は、スクーバ・ダイビングの入門プログラム、  
ISO 11121要件を満たしている

# セクション1

## プログラム規準

### 深度

限定水域 — 6メートル／20フィート

オープンウォーター — 12メートル／40フィート

### ダイバー参加前条件

10歳以上

### 器材

マスク、フィン、スクーバ・シリンダー、パワー・インフレーター付きBCD、レギュレーター、残圧計

### インストラクター資格

限定水域 — **Discover Scuba Diving (DSD®) Leaderの資格を持つDivemaster**

注意: Discover Scuba Diving Leaderのトレーニング必要条件については、「プロフェッショナル・メンバーシップ・ガイド」を参照。

オープンウォーター — **Instructor**

### 教材

#### 必須

**参加者 - PADI *Discover Scuba Diving Participant Guide***

インストラクターもしくはDSD Leaderは、知識開発／*Discover Scuba Diving Participant Guide*もしくはDiscover Scuba Divingキューカードまたはフリップチャートを使ったブリーフィングを実施する。

## 推奨

PADI *Discover Scuba Diving Video*

## 参加者登録

**Discover Scuba Diving参加者を体験7日以内に所属PADIオフィスに登録する。クオリティ・マネージメントを目的とした、参加者の正確な連絡先情報が含まれる。**

*Discover Scuba Diving Participant Guide* の登録ページを使用する、オンラインで登録する、またはDiscover Scuba Divingプログラム登録用紙(10119J)を使用する。

## 人数比

ダイビング前、ダイビング中、そしてダイビング後も、継続して正しい判断を働かせる必要がある。様々な要素を検討してリスク評価を実施することは、プロとしてのインストラクターの責任である。水温、透視度、流れ、エントリー／エキジット、参加者の能力、認定アシスタントの数、自分とアシスタントの限界といったような要素を考慮して、どの程度の人数比が状況に適しているかを決定し、必要であれば人数比を減らす。変化する状況や、参加者を直接的に監督し、目を配ることについての自分自身の能力を考慮に入れ、ダイビング中もリスク評価を続行する。

## 参加者対インストラクター

PADIメンバー	プール	限定水域	オープン・ウォーター	追加のオープン・ウォーター・ダイブ**
Instructor	8:1	4:1*	4:1*	4:1*
Assistant Instructor	8:1	4:1*	—	2:1
DSD Leader	4:1	2:1	—	2:1
Divemaster	—	—	—	2:1

\* 認定アシスタント1人につき、最大2人まで参加者を追加できる。

\*\* 参加者がインストラクターと最初のオープンウォーター・ダイブを修了した後。

認定ダイバーがDiscover Scuba Diving参加者に加わる場合には、認定ダイバーを人数比に数え入れ、Discover Scuba Divingの参加者対インストラクター人数比の範囲内に留める。

## 監督

水面でも水中でも、誰も生徒ダイバーに付き添っていない状態にしてはならない。

- 自分か認定アシスタントがすぐに手を伸ばし、浮力を調節し、生徒ダイバーをアシストできる位置に自分自身を配置する。
- ダイブを先導し、個々の参加者をアシストするために短い時間だけ目を離す以外、参加者全員に目を配り続ける。
- 参加者を監督している間は、写真やビデオを取るなど他の活動を行ってはならない。

Discover Scuba Diving Leaderの資格を持つDivemasterとAssistant Instructorは、プールまたは海の限定水域でのみ、このプログラムを実施できる。

注意: Discover Scuba Diving Leaderのトレーニング必要条件については、「プロフェッショナル・メンバーシップ・ガイド」を参照。

最初のオープンウォーター・ダイブはインストラクターが直接的に監督する。参加者は、認定アシスタントまたはインストラクターが直接的に監督する追加のオープンウォーター・ダイブに参加できる。インストラクターは、認定アシスタントが実施する追加のダイブを間接的に監督する。

# セクション2

## 知識開発

知識開発セッション／ブリーフィングでは、以下の内容をカバーする：

- 呼吸のルールと圧平衡のテクニック
- 器材の目的と使い方
- ハンドシグナル
- レギュレーターとマスククリアのテクニック
- 水中動植物への敬意(該当する場合)
- インストラクターをよく見て、常にそばにいることの大切さ
- プログラムの制限と、さらにトレーニングを受けることの価値

Discover Scuba Divingの知識と安全の復習を含めて、参加者は*Discover Scuba Diving Participant Guide* に必要事項を記入し、署名する。

# セクション3

## 限定水域

- ブリーフィングを実施する(セクション2 - 知識開発を参照)。
- 参加者が器材を装着するのを手伝う。
- プール体験の場合には、浅い水面でBCDに空気を出し入れする練習をさせる。
- 海の限定水域の場合には、参加者はスキル達成条件を満たさなければならない。
- 参加者が浅い場所で水中を泳ぎまわるのを監督する。慣れてきたら、深い場所へ連れて行き、落ち着きとエアの消費量をモニターしながら見守る。
- ディブブリーフィングを実施し、PADI認定コースへ進むよう参加者を誘う。

## スキル達成条件

浅い場所で以下のスキルを参加者に修了させる:

例外: プール体験の場合は、BCDに空気を出し入れするスキルのみ必修。

- 水中での呼吸
- レギュレーター・クリア
- レギュレーター・リカバリー
- マスク・クリア
- 圧平衡のテクニック
- 水面でBCDに空気を出し入れする

参加者がオープンウォーター・ダイブに進むことになっていて、スキル練習に適した浅い場所がない場合には、深度2メートル／6フィート以内の潜降ライン、ハングバー、プラットフォームを使って、ボート、栈橋、その他の水面サポートステーションからスキル練習セッションを実施する。潜降ラインを使用する場合の人数比は1:1。

## セクション4

### オープンウォーター(オプション)

インストラクター:

- セクション2 - 知識開発を実施する。
- スキル達成条件を実施する(セクション3 - 限定水域を参照)。
- 落ち着きとエアの消費量をチェックしながら、参加者をガイドしてダイビング・ポイントのツアーをする。

# BUBBLEMAKERプログラム

## INSTRUCTOR GUIDE



**PADI®**

本ガイドで別途指定されている場合を除き、「一般規準と手続きガイド」に概説されている規準はPADI Bubblemakerプログラムに適用される。

# プログラム規準

## 深度

限定水域 — 2メートル／6フィート

## ダイバー参加前条件

8歳以上

## 器材

マスク、フィン、スクーバ・シリンダー、パワー・インフレーター付きBCD、レギュレーター、残圧計

## インストラクター資格

Assistant Instructor

## 教材

参加者と親／保護者が署名したPADI Bubblemaker声明書 (10268J)

## 表彰

ダイビング体験後、Bubblemaker参加証とカードを渡して参加者を表彰する。参加者のBubblemakerログブックに記入する。Bubblemakerのワッペンとステッカーをプレゼントする。

## 人数比 — 参加者対インストラクター

PADIメンバー	プール	限定水域
Assistant Instructor	4:1	4:1
Instructor	6:1	4:1*

\* 認定アシスタント1人につき、最大2人まで参加者を追加できる。

**注意:**浅い深度制限のため、10～11歳以上を対象とする海の限定水域制限は適用されない。

## 監督

直接的監督 — 水面でも水中でも、誰も生徒ダイバーに付き添っていない状態にしてはならない

## 限定水域

### 一般的な注意事項

- ブリーフィング - 器材の使い方、圧平衡の方法、レギュレーターとマスクをクリアする方法、呼吸のルールについて説明する。
- 足がつく浅い場所に参加者を連れて行く。
- 参加者が器材を装着するのを手伝い、水中で監督する。
- ディブブリーフィング - プログラムの制限について説明し、監督者なしでダイビングするには、さらにトレーニングを受ける必要があることを伝える。



# PADI SEAL TEAM™

## INSTRUCTOR GUIDE



# PADI®

本ガイドで別途指定されている場合を除き、  
「一般規準と手続きガイド」に概説されている規準は  
PADI Seal Teamプログラムに適用される。

# セクション1

## プログラム規準

### 修了条件

PADI Seal Teamのメンバー資格を取得するには、参加者はア  
クアミッション1～5を修了しなければならない。

PADI Master Seal Teamのメンバー資格を取得するに  
は、PADI Seal Teamメンバーは10種類のスペシャルティ・アク  
アマッションを修了し、一人で器材のセッティングと取り外しが  
できなければならない。

### 深度

AquaMission 1 - 2メートル／6フィート

AquaMission 1以降 - 4メートル／12フィート

### ダイバー参加前条件

8歳以上

### 器材

マスク、フィン、スクーバ・シリンダー、パワー・インフレーター付  
きBCD、レギュレーター、バックアップ空気源、残圧計

必要に応じて保護スーツとウエイト

**AquaMission Night Dive**、各参加者が水中ライトを持つ。予  
備の水中ライトとマーカー／ケミカルライトの携帯が推奨され  
る。

## インストラクター資格

### Assistant Instructor

例外: アクアミッション: スキン・ダイバー・スペシャリストについては、PADI Skin Diverコース規準に従って、Divemasterが実施できる。

### 教材

- PADI Seal Team *AquaMission and Log Book*、ステッカー
- PADI Seal Team 証書、メンバー・カード申請書
- 参加者と親／保護者が署名したPADI Seal Team 声明書 (10264J)

参加者は「PADI Seal Team Video」を見る。

### 参加者の表彰と登録

各AquaMission後、参加者のログブックに該当するAquaMission・ステッカーを貼り、ログページに署名し、日付を入れる。

PADI Seal TeamまたはMaster Seal Teamメンバー・カード申請書を提出して参加者をPADIオフィスに登録する。クオリティ・マネージメントを目的とした、参加者の正確な連絡先情報が含まれる。

### 人数比 — 参加者対インストラクター

PADIメンバー	深度／アクティビティ	人数比
Assistant Instructor	2m／6ftより浅い深度	1:4
Instructor	2m／6ftより浅い深度	1:6*
Assistant Instructor／Instructor	2～4m／6～12ft	1:2*
Divemaster／Assistant Instructor／Instructor	AquaMission: Skin Diver Specialist	1:16

\* 認定アシスタント1人につき、最大2人まで参加者を追加できる。

## 順序

AquaMission 1～5を順序通りに実施する。

## 監督

直接的監督 — 水面でも水中でも、誰も生徒ダイバーに付き添っていない状態にしてはならない

# セクション 2

## 知識開発

PADI Seal TeamフリップチャートまたはPADI Seal Team *AquaMission and Log Book* を使って、各アクアミッションの内容を参加者に説明する。

参加者はプールダイブの前または後に、PADI Seal Team *AquaMission and Log Book* から該当するチャレンジを修了する。

# セクション 3

## 限定水域

### 一般的な注意事項

- アクアミッションは水泳用プールでのみ実施する。
- AquaMission 2、3、4で、参加者は浅い場所でスキルを練習してから深い場所へ移動する。

AquaMissionのゲームについてのアイディアは、PADIのプロサイトを参照。

## AquaMission 1

達成条件

水面:

1. 浅い場所へエントリー
2. 手助けを借りて器材を装着し調節する

水中:

3. 息を止めずに普通に呼吸する
4. 泳ぎながら深度と方向をコントロール
5. 耳とマスクの圧平衡
6. 残圧をチェックし、エアが十分か少ないか合図する
7. ハンドシグナルを使ってコミュニケーション
8. 正しい浮上をデモンストレーション

## AquaMission 2

達成条件

水面:

1. 浅い場所へエントリー
2. 器材を装着し調節する

水中:

3. パージボタンを使ってレギュレーターをクリアし、呼吸を再開する
4. 耳とマスクの圧平衡
5. ハンドシグナルを使ってコミュニケーション
6. 正しい浮上をデモンストレーション

## AquaMission 3

### 達成条件

#### 水面:

1. 浅い場所へエントリー
2. 器材を装着し調節する
3. パワー・インフレーターを使ってBCDに空気を出し入れする

#### 水中:

4. 下半分に水を入れたマスクをクリアする
5. インストラクターの予備の空気源から少なくとも30秒間以上呼吸する
6. ハンドシグナルを使ってコミュニケーション
7. 正しい浮上をデモンストレーション

## AquaMission 4

### 達成条件

#### 水面:

1. 浅い場所へエントリー
2. 器材を装着し調節する

#### 水中:

3. 肩越しにレギュレーターをリカバリーする
4. 息を吐く方法でレギュレーターをクリアし、呼吸を再開する
5. パワー・インフレーターを使って中性浮力 — 息を吸ったり吐いたりしながら、コントロールされた形で身体をゆっくりと上下させる
6. キックしたり手を使ったりせずにホバリング

## 7. 正しい浮上をデモンストレーション

### AquaMission 5

達成条件

水面:

1. ブラスト法でスノーケルをクリアする
2. 水から顔を上げずにスノーケル／レギュレーター交換を何度か繰り返す
3. スクーバ器材を装着し、スノーケルを使って呼吸しながら泳ぐ
4. BCDから空気を抜き、それからプラス浮力になるまでオーラルで膨らませる。

スキル・サーキット:

- 浅い場所へエントリー
- スノーケルからレギュレーターへ交換、潜降ポイントまで泳ぐ
- BCDの空気を抜く
- 潜降
- 耳抜き
- 普通に呼吸し、泳ぎながら残圧をチェックする
- 下半分に水を入れたマスクをクリア
- インストラクターの予備の空気源から呼吸する
- ハンドシグナルを使ってコミュニケーション
- 肩越しにレギュレーターをリカバリーする
- 息を吐く方法とパージボタンを使う方法でレギュレーターをクリアする
- パワー・インフレーターを使って中性浮力 - 息を吸ったり吐いたりしながら、コントロールされた形で身体をゆっくりと上下させる。
- ホバリング

- 浮上
- 水面でBCDに空気を入れる

## AquaMission Creature ID Specialist

1. 少なくとも1種類の水中生物を名前で見分ける
2. ハンドシグナルを使って、少なくとも1種類の水中生物を見分ける

## AquaMission Environmental Specialist

1. 水中クリーンナップで使われる、足を高くして頭を低くした搜索姿勢での泳ぎ方をデモンストレーションする
2. 水中クリーンナップで使われる、基本的なサーチパターンを実施する

## AquaMission Inner Space Specialist

1. パワー・インフレーターを使って中性浮力 - 息を吸ったり吐いたりしながら、コントロールされた形で身体をゆっくりと上下させる。
2. キックしたり手を使ったりせずにホバリング

## AquaMission Navigation Specialist

1. コンパスの使い方をデモンストレーションする
2. 泳ぎながらコンパスを持つ姿勢をデモンストレーションする
3. キックする回数(キック・サイクル)を使い、水中で距離を見積るための方法をデモンストレーションする

## AquaMission Night Specialist

1. 水中ライトの使い方をデモンストレーションする

## AquaMission Safety Specialist

1. プレダイブ・セーフティ・チェックをバディに実施する
2. 自分とバディの足がつったときの治し方をデモンストレーションする

3. レスキュー用ラインまたはフロートを投げる
4. 水面で自分とバディの浮力を確保する
5. ダイバーを曳行する

## AquaMission Search and Recovery Specialist

1. サーチパターンを使って、落としたものを捜す
2. リフトバッグを使って、小さい物を引き上げる

## AquaMission Skin Diver Specialist

1. 水面で手を使わずにスノーケルで泳ぐ
2. スノーケルで呼吸しながら、水を飲まない様に気道をコントロールする
3. ブラスト法でスノーケルをクリアする
4. 水面をスノーケリングしながら下半分に水を入れたマスクをクリアする

## AquaMission Snapshot Specialist

1. 基本的な水中写真撮影のルールを用いて、水中カメラを使用する

## AquaMission Wreck Specialist

1. 浮力コントロールをデモンストレーションする
2. 水中のレック(物体)の大きさを測り、スレートに記録する



# ReACTIVATE®

## INSTRUCTOR GUIDE



# PADI®

本ガイドで別途指定されている場合を除き、  
「一般規準と手続きガイド」に概説されている規準は  
PADI ReActivateプログラムに適用される。

# セクション1

## プログラム規準

### 修了条件

ReActivateの新しい認証カードを取得するには、以下を満たさなければならない:

- ReActivateナレッジレビューを修了する。
- ReActivate水中スキル・ダイブを修了する。

### ダイバー参加前条件

- 10歳
- ダイバー認定 - 次のいずれかを満たす:
  - PADI (Junior) Scuba Diver
  - 別のトレーニング組織からのエントリー・レベルのダイバー認定(最低4回のオープンウォーター・トレーニング・ダイブ)

### ダイブ

- 1回の限定水域ダイブまたはオープンウォーター・ダイブ

### 器材

「一般規準と手続きガイド」を参照。

### 書式

認定ダイバー・エクスペリエンス・プログラム免責同意書  
(10074J)、ダイバーメディカル・フォーム(10346J)とPADI安全潜水実施了解声明書(10060J)

または

継続教育専用書式 (10038JまたはEU10541)

最新の書式をPADIのプロサイトからダウンロードすること。地域固有の免責同意書または書式については、所属PADIオフィスに

確認すること(日本語版は「PADIコースの危険の告知書(DLD／プロコース用)」、プロサイトからダウンロード可能)

## インストラクター資格

### ダイブマスター

## 教材

必須

### PADI ReActivate eLearning

## 人数比

限定水域

**1:10**

インストラクターは認定アシスタント1名につきダイバー4名を追加できる。

オープンウォーター

**1:8**

最大12名まで、認定アシスタント1名につき生徒ダイバー2名を加えることができる。

## 認証

オンラインでナレッジレビューとReActivateクイックレビューを修了したダイバーは、ReActivate終了証を受け取る。

- ナレッジレビューとダイブスキル・リフレッシュの両方を修了したPADIダイバーに対し、ReActivateの新しいPADI認定カードの発行手続きを取る。
- ナレッジレビューとダイブスキル・リフレッシュの両方を修了した別のトレーニング組織によって認定されたダイバーに対し、ReActivateの新しいPADI認証カードの発行手続きを取る。

## ReActivateを使ってダイバーの準備態勢を評価する

その他、ダイバーの準備態勢を評価する手段としてReActivateを使うことができる。評価方法の指標はPADI's *Guide to Teaching* を参照。

## セクション 2

### ナレッジレビュー

ダイバーはPADI *ReActivate eLearning* を使って知識を復習する。必要に応じて補習を行なう。参加者のReActivate認証はオンラインで確認でき、ReActivateクイックレビューをまだ修了していない場合には、ここで実施する。問題の答えを間違えた場合には、内容を完全に理解するまで補習を行なう。

ReActivateクイックレビューはPADIのプロサイトに記載されている。

## セクション 3

### 水中スキル

#### 処方的なReActivate手法と一般的注意事項

- 事前の面談のときに、ダイバーのログブックがあればチェックし、以下の質問をする：
  - ダイビングの経験本数と、これまでにどのようなコンディションや環境でダイビングしたか？
  - 最後にダイビングしたのはいつ、どこで？
  - 最後のダイビングはどうだったか？ どうすればもっと良くなると思うか？
  - どのようなスキルを練習したいか？
- 限定水域ダイブまたはオープンウォーター・ダイブを実施し、プレダイブ・プランニング、器材のセッティングと調整、プレダイブ・セーフティ・チェック、エントリー、潜降、浮力コン

トロール、浮上、エキジットの間にダイバーをよく観察し、圧平衡といったような一般的なダイビングスキルがきちんとできているかチェックする。観察した事柄に基づいて、必要に応じてアドバイスし、デモンストレーションを見せて調整し、その他の補習や練習を行なってマスターさせる。

3. Open Water Diver Course Instructor Guideに記載されているスキルの達成条件およびスキルのレベルに関する必要条件に従う。

## 達成条件

1. 限定水域ダイブまたはオープンウォーターでガイド付きのダイブを修了し、以下を含む一般的なダイビング・スキルを練習してデモンストレーションする：
  - a. マスクを取り外し、元通り装着し、クリアする。
  - b. 中性浮力をとってホバリングする。
  - c. 足がつかない深さの水面で、BCDから空気を抜き、ウェイト・システムのクイックリリースを使って、プラス浮力になるだけの分のウェイトを外し、身体から離して落とす。
  - d. 予備の空気源を使って正しく浮上し、水面でプラス浮力を確保する。与える側と受ける側の両方の役割を果たす。
2. 事前の面談のときにダイバーが練習したいと言ったスキルと、ダイバーを観察した結果、もっと練習が必要だと思われるスキルを練習させる。
  - a. 限定水域では、コントロールされた緊急スイミング・アセントを水平でのみ実施する。



# DISCOVER LOCAL DIVING

## INSTRUCTOR GUIDE



**PADI**<sup>®</sup>

本ガイドで別途指定されている場合を除き、  
「一般規準と手続きガイド」に概説されている規準は  
PADI Discover Local Divingプログラムに適用される。

# プログラム規準

## ダイバー参加前条件

- PADI (Junior) Scuba Diver認定
- 10歳以上

## 器材

「一般規準と手続きガイド」を参照。

## インストラクター資格

### ダイブマスター

## 教材

認定ダイバー経験プログラム免責同意書(10074J) (日本の場合はPADIコースの危険の告知書)

## 人数比

「一般規準と手続きガイド」に従って、ダイバーの落ち着き、経験、年齢、環境のコンディション、人数などの要素に基づいて人数比を決定する。

# オープンウォーター

## 一般的な注意事項

### 1. ブリーフィング

- コンディション、危険物、見どころなど、ダイビング・ポイントの概要をブリーフィングする
- 水中環境を保護する為の節度ある接し方について説明する。
- その地域で一般的に使われているダイビング手順と方法について説明する。

2. ダイビング・ポイントのガイド付きツアーを実施する。

3. ディブブリーフィング - 観察した事柄について話し合う。

4. Discover Local Divingのログを記入 - 各ダイバーのログブックに署名する。



# SKIN DIVER (ADVANCED SNORKELER) コース

## INSTRUCTOR GUIDE



# PADI®

本ガイドで別途指定されている場合を除き、  
「一般規準と手続きガイド」に概説されている規準は  
PADI Skin Diverコースに適用される。

# セクション1

## コース規準

### 認定条件

- 知識開発セッションに参加する。
- 限定水域の達成条件を満たす。

### 深度

5メートル／15フィート

### ダイバー参加前条件

8歳以上

### 器材

#### マスク、フィン、スノーケル、浮力調整具

注意:スノーケリング・ベストまたは浮力のある保護スーツを使用することができます。ウエイトを装着する場合、水面では息を吐き出した状態で浮くことができ、5メートル／15フィートでもプラス浮力であること。

### インストラクター資格

DivemasterあるいはFreediver Instructor

### 教材

最新のPADIディスカバー・スノーケリング／スキン・ダイビング  
免責同意書(10089J) (日本の場合はディスカバー・スノーケリ  
ング／スキン・ダイビング／サブライド・エア・スノーケリングの  
確認書(成年用、中学生以上用、中学生未満用))

## 人数比

限定水域

1:16

オープンウォーター

1:10

# セクション 2

## 知識開発

知識開発セッション／ブリーフィングを実施し、以下を含むスノーケリングの理念を説明する：

- 器材
- スキン・ダイバーに影響を及ぼす圧力と体積の関係
- ダイビング環境
- ハンドシグナルとコミュニケーション
- 水中生物との責任ある接し方
- トラブル管理
- 圧平衡
- 呼吸を止めたダイビングのための適切な呼吸法、およびハイパーベンチレーションを使ってはいけない理由。
- 潜降時には口からスノーケルを外すこと、およびその理由。
- フリーダイビング実施方法に基づく適切なウェイト量
- ワンアップ・ワンダウン・バディシステム
- 地域の安全なダイビング実施方法

# セクション 3

## 限定水域

### 達成条件

1. マスク、フィン、スノーケル及び浮力器材のセッティング、調整、準備、装着、取り外しを行なう。
2. バディとプレダイブ・セーフティ・チェックを行なう。
3. 状況に合った方法を使って、適切なエントリーとエキジットをデモンストレーションする。
4. フリーダイビング実施方法に基づく適切なウエイト量を調整する。
5. 足がつかない深さの水面で、気道をコントロールしながらスノーケルを使って泳ぐ。
6. 水面でブラスト法を使いスノーケルをクリアする。
7. 足がつかない深さの水面で、浮力を確保する。ウエイトベルトを外す(使用されている場合)、またはスノーケル・ベストを口で膨らませる(使用されている場合)。
8. 水面にいる間、常にバディと3メートル／10フィートの範囲内にいる。
9. 足がつかない深さの水面でリラックスした呼吸の後、息を止め、口からスノーケルを外して垂直にヘッドファーストで潜る。
10. 一呼吸で水中を水平に15メートル／50フィート以上泳ぐ。
11. 周囲を確かめながら上を向いて、片手を上に伸ばして浮上する。
12. 浮上後、やさしく息を吐き、リラックスした呼吸をしながらバディにOKシグナルをする。

13. 水面から、バディの潜降を見守り、アシストするためいつでも潜れるよう備える。バディの浮上後、回復呼吸 (リカバリー呼吸) の間は1-2分間、手の届く範囲内にとどまる。
14. 水面と水中で、ハンド・シグナルを使ってコミュニケーションする。

## セクション 4

### オープンウォーター (オプション)

#### 達成条件

1. 器材を装着して調整する。
2. プレダイブ・セーフティ・チェックを実施する。
3. ウェイトを調整する。
4. 地域環境に適したエントリーとエキジットをデモンストレーションする。
5. 限定水域で習得したスキルを実践でデモンストレーションする。
6. 環境に対し責任のある行動をとる。



# プロフェッショナル・ メンバーシップ

ガイド



**PADI**<sup>®</sup>

# メンバーシップ・ステータス

## アクティブ・ステータス

アクティブ・ステータスとは、規定されている通りに認定アシスタントとしての任務を果たし、コースを実施する権限をPADI Divemasterに与えるステータスである。

### 必要条件

1. 所属PADIオフィスでPADIメンバーシップを更新し、年会費を支払う。
2. PADIメンバーシップ更新同意書／ライセンス同意書に合意する。
3. 所属PADIオフィスの規定通りに、PADIメンバー賠償責任保険に加入している (PADIのプロサイト参照)。
4. 次のいずれかを満たす：
  - 前年にPADI Divemasterになった
  - 前年にアクティブ・ステータスで更新した
  - アクティブ・ステータスの必要条件を満たしている

## インアクティブ・ステータス

インアクティブ・ステータスのPADI DivemasterはPADI Professional資格/Divemasterで規定されている任務を遂行する権限はない。更新した場合、メンバーシップは継続できる。

## ティーチング・ステータス

ティーチング・ステータスとは、PADIコースを教え、生徒をPADIダイバーとして認定する権限をPADI InstructorおよびAssistant Instructorに与えるステータスである。

ティーチング・ステータスにあり、規定されている通りにアップデートをすませているPADI Course Directorは、PADI Instructorレベルのコースを教える権限を有する。

## 必要条件

1. 所属PADIオフィスでPADIメンバーシップを更新し、年会費を支払う。
2. PADIメンバーシップ更新同意書／ライセンス同意書に合意する。
3. ダイビング指導のPADIメンバー賠償責任保険に加入している。PADI TecRec InstructorはTecRecコースをカバーする賠償責任保険に加入している必要がある。

例外: PADIオフィスから保険免除と指定された地域で居住/活動している場合。

4. 以下のいずれかを満たしている：
  - ・ 前年にPADI Open Water Scuba InstructorまたはPADI Assistant Instructorになった。
  - ・ 前年にティーチング・ステータスで更新した。
  - ・ ティーチング・ステータスの再トレーニングの必要条件を満たしている。

## ノンティーチング・ステータス

ノンティーチング・ステータスのメンバーには、PADIコースを教え生徒をPADIダイバーとして認定する権限はない。更新した場合、メンバーとしての特典は引き続き受けることができる。

## レビュー・ステータス

レビュー・ステータスのメンバーは、ティーチング・ステータスの資格条件を維持している限りにおいて、PADIコースを教えPADIダイバーを認定する権限を有する。レビュー・ステータスのメンバーは、PADIマ Master InstructorおよびCourse Directorの資格を取得することはできない。

## アドミニストレーティブ・ホールド、サスペンド(資格停止)、ターミネイト(追放処分)、エクスペルド(永久追放処分)、およびインアクティブ・ステータス

アドミニストレーティブ・ホールド、インアクティブ、またはサスペンド・ステータスのメンバーおよび、メンバー資格のターミネイトまたはエクスペルドを受けたメンバーは、PADIコースまたはEFRコースを教え、PADIダイバーの認定またはEFRコース修了カードを発行し、認定アシスタントとしての任務を果たす権限を失い、メンバーとしての特典を受けることはできなくなり、PADIメンバーと称することは認められない。

メンバー資格のサスペンド、ターミネイト、エクスペルドを受けたメンバーの氏名は、「アンダーシー・ジャーナル」の誌面で発表され、PADIサイトのクオリティ・マネージメント・セクションにも記載される。

## アラムナイ・ステータス

アラムナイ・ステータスとは、「引退」し、今後はPADIコースを教えたり、積極的にダイバーの監督をしたりするつもりはないPADIメンバーのためのステータスである。PADIアラムナイには、PADIダイバーを教える、監督する、あるいは認定する権限はないが、引き続きメンバーとしての一部特典を受けることができ、PADIメンバーと称することも認められる。

# メンバーシップ書式

最新の書式をPADIプロサイトからダウンロードすること。各国固有の免責同意書、申請書、書式については、所属PADIオフィスに確認する。

# PADI Professional資格

PADI Professionalレベルのコースおよび資格には、PADI、TecRec、またはEFRの認定前条件がある。別途指定のない限り、他の資格または認定は同等として認められない。

## Divemaster

### コース参加前条件

1. PADI Advanced Open WaterおよびPADI Rescue Diver認定(または参加受入資格を満たす認定)
2. 18歳以上
3. ダイビングに適した健康体であることを証明する過去12ヶ月以内の医師の署名入り健康診断書
4. ログに記録されているダイブ経験本数が40本以上
5. 過去24カ月以内に、Emergency First Response Primary and Secondary Careコース(またはそれに相当するトレーニング)を修了

### 認定条件

1. 過去24カ月以内に、Emergency First Response Primary and Secondary Careコース(またはそれに相当するトレーニング)を修了
2. ログに記録されているダイブ経験本数が60本以上;アンダーウォーター・ナビゲーション、ナイト・ダイビング、ディープ・ダイビングの経験

### Divemasterの任務

アクティブ・ステータスのDivemasterには、以下の権限が与えられる:

1. 潜水計画を立て、準備し、指揮するという形で、トレーニングとトレーニング以外の活動の両方を監督する。
2. 限定水域とオープンウォーター・トレーニングでインストラクターをアシストする。

3. Open Water Diverコースのオープンウォーター・ダイブ2、3、4のツアー部分で、1:2の人数比でコースの生徒ダイバーをインストラクターの間接的監督下でガイドする。
4. インストラクターの間接的な監督下で、エントリー／エキジット・ポイントへの往復水面移動とナビゲーション練習の際にOpen Water Diverコースの生徒に付き添う。また、インストラクターがスキルを実施している間に、残りの生徒ダイバーを監督する。
5. インストラクターの間接的な監督下で、アドベンチャー・ダイブまたはスペシャルティ・コースのダイブで生徒ダイバーに付き添う。
6. PADI Skin Diverを単独で教えて認定する。これには、PADI Seal Teamアクアミッション: スキン・ダイバー・スペシャリストも含まれる。
7. Discover Snorkelingプログラムを実施する。
8. Discover Scuba Divingの参加者がインストラクターと最初のダイブを修了した後、インストラクターの間接的な監督下で、その後のダイブを1:2の人数比で実施する。
9. Discover Local Divingを実施する。
10. 認定ダイバーにReActivateを実施する。
11. 限定水域ダイブ2、3、4または5で、Open Water Diverコースのスキン・ダイビングのスキル部分を実施する。
12. Discover Scuba Diving Leaderの資格を有する場合は、Discover Scuba Divingをプールまたは限定水域で単独で実施する。
13. 認定PADI Scuba Diverのその後のダイブに付き添う。
14. 該当するインストラクター・トレーニングを修了しSpecialty Instructor資格を取得後、以下のコースを実施する:
  - a. PADI Instructorの指示の下で、Digital Underwater Photographerスペシャルティ・コース
  - b. ダイブを伴わないスペシャルティ・コース

# Discover Scuba Diving

## リーダー・インターンシップ達成条件

この資格を取得するには、認定PADI DivemasterはDiscover Scuba Diving (DSD) Leaderインターンシップを修了しなければならない。インターンシップでは、PADI Instructorの直接的な監督のもとで、限定水域において4回の実際の(シミュレーションではない)PADI Discover Scuba Divingプログラムを実施する。DSD Leader候補者は、効果的なブリーフィング、水中での監督、デブリーフィングを実施する能力があることを示さなければならない。

DSD Leader候補者は、PADIのプロサイトにあるDiscover Scuba Diving Leaderインターンシップ評価を修了しなければならない。

Discover Scuba Divingプログラム参加者へのDivemasterの説明や指導が不十分だった場合には、監督の行き届いた完全なDiscover Scuba Divingプログラムになるよう、インターンシップを実施するPADI Instructorが必要に応じて内容を補う。

インターンシップ中、下記のリーダーシップ評価基準を使ってDSD Leader候補者を評価する。DSD Leader候補者は各達成基準で3点以上を得点しなければならない。

### リーダーシップ評価

得点	評価基準
5	ミスをせず、自分の力で目標を達成した。参加者が必要とすることを予測して行動した。
4	ミスをせず、インストラクターやスタッフの大幅な手助けを借りずに目標を達成した。
3	いくつかの小さなミスはあったが、目標は正しく達成した。インストラクターによる訂正と途中のアドバイスも、短い注意やヒントの範囲内にとどまった。
2	目標達成の条件となる課題についての理解が不十分だった。大きなミスや手抜かりがあった。要求にかなう結果にするには、インストラクターによる訂正と途中のアドバイスが必要だった。
1	大きなミスや手抜かりが多数あった。目標は達成されなかった。

## ブリーフィングの達成条件

### DSD Leader候補生:

- 参加者とダイブマスターの役割をはっきりと説明した。
- *Discover Scuba Diving Program Instructor Guide*にリストされているブリーフィングのポイントをすべてカバーした。
- 参加者に*Discover Scuba Diving Participant Guide*を読ませ、署名させた。
- プログラムに参加する準備が整っているか参加者を評価した。

## スキルの達成条件

### DSD Leader候補生:

- 参加者の器材をセッティングしチェックした。
- 浅い水面で、以下のスキルを参加者に練習させた:
  - 水中での呼吸
  - レギュレーター・クリア
  - レギュレーター・リカバリー
  - マスク・クリア
  - 圧平衡のテクニック
  - 水面でBCDに空気を出し入れ
- 素早く浮力を調節するなど、水中で参加者にトラブルが生じた場合にすぐに対応できる位置にいて参加者を監督した。
- 参加者の浮力を効果的に調節した。
- 参加者のトラブルに効果的に対処した。
- すべての限定水域活動を手際よく実施しコントロールした。
- 参加者に積極的に楽しい経験をさせてあげることができた。
- すべてのPADI規準に従った。

## ディブブリーフィングの達成条件

### DSD Leader候補生:

- プログラムの制限事項を説明した。
- PADI認定コースへ進むよう参加者に勧めた。

インターンシップを修了したPADI Divemasterは、担当インストラクターが署名したPADIダイブマスター・ディスカバー・スクーバ・ダイビング・インターンシップ修了書をPADIをオフィスへ提出する。

# Assistant Instructor

## コース参加前条件

1. PADI Divemaster、または他のダイバー指導団体でのリーダーシップ・レベルの認定
2. 18歳以上
3. ログに記録されているダイブ経験本数が60本以上; ナイト・ダイビング、ディープ・ダイビング、アンダーウォーター・ナビゲーションの経験
4. ダイビングに適した健康体であることを証明する過去12ヶ月以内の医師の署名入り健康診断書
5. 過去24カ月以内に、Emergency First Response Primary and Secondary Careコース(またはそれに相当するトレーニング)を修了
6. PADI Divemasterでない場合には、PADI Divemasterコースのダイブ・レスキュー評価を修了し、他のレクリエーション・ダイバー指導団体から発行されたエントリー・レベル、アドヴァンス、レスキュー、リーダーシップレベルに相当する資格認定に関する書類をPADIへ提出する。

## Assistant Instructorの任務

ティーチング・ステータスのAssistant Instructor(1995年以降に認定/アップグレード)には、以下の権限が与えられる:

1. インストラクターの間接的な監督下で、PADIダイバー・コースの知識開発を行なう。生徒ダイバーの知識レベルについての評価は、インストラクター自身が実施する。
2. 限定水域ダイブで、インストラクターの直接的な監督下で最初のスキル・トレーニングをプレゼンテーションする。
3. Open Water Diverコースのトレーニング・ダイブで、インストラクターの間接的な監督下でオープンウォーター水面スキルの評価を行なう。
4. インストラクターの指示の下で、Peak Performance Buoyancy スペシャルティール・ダイバーを教えて認定する。

5. Project AWAREスペシャルティ・コース(ノンダイビング)を単独で教える。
6. Coral Reef Conservationスペシャルティ・コース(ノンダイビング)を単独で教える。
7. Discover Scuba Divingを、プールまたは限定水域で単独で実施する。
8. Bubblemakerプログラムを単独で実施する。
9. PADI Seal Team AquaMissionsを単独で実施する。
10. ノンダイビングのスペシャルティのSpecialty Instructorトレーニング・コース修了し、Specialty Instructor資格を取得した後、生徒ダイバーを教えて認定する。
11. 対応するインストラクター・トレーニング修了し、Specialty Instructor資格を取得した後、PADI Instructorの指示の下で、Digital Underwater Photographerスペシャルティ・コースを教えて認定する。

## Open Water Scuba Instructor Instructor Development Course (IDC)

### コース参加前条件

1. PADI Divemaster、または他のダイバー指導団体でのリーダーシップ・レベルの認定。
2. 18歳以上
3. ログに記録されているダイブ経験本数が60本以上; ナイト・ダイビング、ディープ・ダイビング、アンダーウォーター・ナビゲーションの経験
4. PADI Divemasterでない場合には、PADI Divemasterコースのダイブ・レスキュー評価を修了する
5. 認定ダイバーになってから6ヶ月以上経過
6. ダイビングに適した健康体であることを証明する過去12ヶ月以内の医師の署名入り健康診断書
7. 過去24カ月以内に、Emergency First Response Primary and Secondary Careコース(またはそれに相当するトレーニング)を修了

# Open Water Scuba Instructor (OWSI)プログラム

## コース参加前条件

1. IDCの全参加前条件
2. PADI Assistant Instructorまたは、レクリエーション・ダイバー指導団体に6ヶ月以上所属している良好な状態(更新資格のある\*)のインストラクターメンバー。

\*資格についての詳細は、PADIオフィスへ問い合わせること。

## Instructor Examination

PADI Open Water Scuba Instructor認定を取得するには、PADI Instructor Examinerが実施するPADI Instructor Examination (IE) を修了しなければならない。

## IE参加前条件

1. ログに記録されているダイブ経験本数が100本以上  
例外:PADI5スター・キャリア・ディベロップメント・センター (CDC) で5つのIDC プレもしくはポスト・コース、または6週間プログラムに登録している候補生。
2. 過去12ヶ月以内にIDCまたはOWSIプログラムを修了している

## 認定条件

- Emergency First Response Instructor、または他の救急ケア団体のCPR／ファーストエイド・インストラクター
- CDC卒業の場合、100回記録されたダイブの証明

## Open Water Scuba Instructorの任務

ティーチング・ステータスのOpen Water Scuba Instructorには、以下のPADIコースを教える権限が与えられる：

- PADI Scuba Diver/Open Water Diver
- Adventure Diver/Advanced Open Water Diver
- Rescue Diver
- Divemaster

- Skin Diver (Advanced Snorkeler)とDiscover Snorkeling
- Discover Scuba Diving
- PADI Seal TeamとBubblemaker
- ReActivateとDiscover Local Diving
- Peak Performance Buoyancy
- Project AWAREスペシャルティ
- Coral Reef Conservation

## Specialty Instructor

PADIメンバーは、PADI Course Directorが実施するSpecialty Instructor Training Coursesを受けるか、所属PADIオフィスへ直接申請することによって、PADI Specialty Instructor資格を得ることができる(下記例外を除く)。

### Specialty Instructor Training Course

#### コース参加前条件

##### すべてのスペシャルティ

- **PADI Instructor**、または過去12か月以内に現在のIDC／OWSIプログラムに参加、もしくは修了。  
IDC／OWSI候補生はIEに合格した場合のみ、**Specialty Instructor**認定を申請することができる。

##### ダイブを伴わないスペシャルティ

- **PADI Assistant Instructor**
- **PADI Divemaster**は以下のコースに参加することができる：**Emergency Oxygen Provider, Equipment Specialist, Coral Reef Conservation, Project AWARE Specialist, PADI Distinctive Specialty Diver** (許可されている)

**例外:** DivemasterとAssistant InstructorはDigital Underwater Photographer Specialty Instructorトレーニング・コースに参加することができる。

## 特定のスペシャルティ・インストラクター・トレーニング・コース のその他の参加前条件:

- **Cavern** — PADIに認められているケーブ・ダイビング認定団体によるフル・ケーブのダイバー認定
- **Enriched Air** — PADI Enriched Air Diver認定 (または相当する資格)
- **Ice** — PADI Ice Diver認定 (または相当する資格)
- **Self-Reliant** — PADI Self-Reliant Diver認定 (または相当する資格) もしくは TecRec Diver

## 認定条件

- 申請対象のスペシャルティ分野で、ログに記録されているダイブ経験本数が10本以上

例外:PADI Semiclosed Rebreather Specialty Instructorの場合は、20本以上。

- **Public Safety Diver** — PADI Master Scuba Diver Trainer, PADI Dry Suit Specialty Instructor, PADI Full Face Mask Specialty Instructor、そのほか3種類のPADI Specialty Instructor資格(サーチ&リカバリー、ナイト、アンダーウォーター・ナビゲーター、エマージェンシー・オキシジェン・プロバイダー、視界不良ディスティンクティブ)、現行のEmergency First Response Instructor、パブリック・セーフティ・チームに所属もしくは雇用されていて10回のミッションとIncident Command Training Level 200の証明(またはその地域での相当する資格)
- PADI DivemasterはIDCカリキュラムにある「学習と指導のワークショップ」を特定のスペシャルティ・ダイバー・コースに合わせたシナリオで修了する。

## PADIオフィスへ直接申請する場合

### 前条件

1. PADI Instructor
2. これまでに25名以上のダイバーを認定
  - a. そのうち、ノンダイビング・コースでの認定は5名以下

b. PADI Seal TeamまたはMaster Seal Team登録は5名以下

3. 申請対象のスペシャルティで、ログに記録されているダイブ経験本数が20本以上
4. 申請書の声明文に署名することで、PADI Specialty Course Instructor Guideを使うことに同意する、もしくはインストラクター自身が作成したアウトラインを審査のためPADIオフィスへ提出する。

特定のスペシャルティ・コースのその他の前条件:

- Adaptive Techniques — アダプティブ・テクニクのトレーニング、および／もしくは特化しているダイビング機関から障害を持つダイバーの訓練を経験する。
- Equipment Specialist Instructor資格 — 器材メーカーによるリペア・クリニックに参加したことを証明する文書か、メーカーから器材リペアの免許を受けていることを証明する文書。ダイブ経験の証明は必要ない。
- Emergency Oxygen Provider Instructor資格 — PADI Emergency Oxygen Provider認定(または参加受入資格を満たす認定)
- Cavern — PADIに認められているケープ・ダイビング認定団体によるフル・ケープのダイバー認定
- Enriched Air — PADI Enriched Air Diver認定(または相当する資格)
- Ice — PADI Ice Diver認定(または相当する資格)
- Public Safety Diver — PADI Master Scuba Diver Trainer, PADI Dry Suit Specialty Instructor, PADI Full Face Mask Specialty Instructor、そのほか3種類のPADI Specialty Instructor資格(サーチ&リカバリ、ナイト、アンダーウォーター・ナビゲーター、エマージェンシー・オキシジェン・プロバイダー、視界不良ディスタントタイプ)、現行のEmergency First Response Instructor、パブリック・セーフティ・チームに所属もしくは雇用されていて20回のミッションのパブリック・セーフティ・ダイビング経験がある、もしくは10回のミッションと10

人のパブリック・セーフティ・ダイバー認定のあるIncident Command Training Level 200のインストラクター（またはその地域での相当する資格）

- **Self-Reliant** — PADI Self-Reliant Diver認定（または相当する資格）もしくはTecRecダイバー
- **Sidemount** — PADI Sidemount Diver 認証（または同等の評価）またはサイドマウント構成を使用して50回のダイビングを証明します。

## 指導経験のクレジット

PADI Specialty Instructor (申請方法2または3), Master Scuba Diver Trainer, Master Instructor, またはCourse Director格を申請する場合、規定数の指導経験があることが求められる。以下に従って指導経験の追加クレジットを得ることができる。

1. すべての知識開発、限定水域ダイブ、および水中能力評価を実施したことを条件として、Open Water Diverコース委託紹介2件につき、Open Water Diver認定1名分のクレジットを取得できる。委託紹介クレジットを受けるには、トレーニング修了記録(10234J)をPADIオフィスへ送付する。
2. Discover Scuba Diving登録者5名につき、Open Water Diver認定1名分のクレジットを取得できる。
3. 5名のReActivateプログラムの完了につき、Open Water Diver認定1名分のクレジットを取得できる。
4. IDC Staff Instructorは、IDCのスタッフとして働くことで、Master Instructor資格へ向けて、Adventure Diverまたはそれ以上の認定クレジットを取得できる。
  - スタッフとして1回の全IDCに参加。コースを受けているインストラクター候補生1名につき1クレジットで、1回のIDCで最高8クレジットまで取得できる。
  - スタッフとして2回の全IDCに参加すると、Assistant Instructor5名分のクレジットになる。
  - スタッフとして1回の全IDCに参加し、3名のAssistant Instructorを認定すると、Assistant Instructor5名分のクレジットになる。

**例外:** IDCでスタッフとして働き、そこに参加していた候補生にAssistant Instructor認定を発行した場合には、同じ候補者で複数のクレジットを受けることはできない。

クレジットを取得するには、Master Instructor資格申請書と一緒に、インストラクター・コース報告書を提出する。

# Master Scuba Diver Trainer

## 前条件

1. PADI Instructor
2. 5種類以上のPADI Specialty Instructor資格
 

注意：PADI Peak Performance Buoyancy, Project AWARE, Coral Conservation Specialty Instructorの資格は含まれない。PADI Freediver Instructor資格が一つだけクレジット可能。
3. これまでに25名以上のダイバーを認定
  - a. そのうち、ノンダイビング・コースでの認定は5名以下
  - b. PADI Seal TeamまたはMaster Seal Team登録は5名以下

## Dedicated Master Scuba Diver Trainer

PADI Instructorは以下の方法でDedicated Master Scuba Diverの認定を行なう資格がある：

- 特定の地域またはダイビングのテーマに特化した5つのPADI Distinctive Specialty Instructorになる。
- Master Scuba Diver Trainerの前条件である25名以上のPADIダイバーを認定を満たす。
- レビューと承認のために、PADI Master Scuba Diver Trainer申請をPADIリージョナル・ヘッドクォーター（各地域本部）に提出する。

# IDC Staff Instructor

講師は、PADI Course Directorが実施するIDC Staff Instructorコースに参加することで、PADI IDC Staff Instructorとして資格を得ることができる。

## コース参加前条件

1. Master Scuba Diver Trainer
2. Emergency First Response Instructor
3. すべてのPADI認定コースと体験プログラムを、PADI *Instructor Manual*およびPADI's *Guide to Teaching*に規定されているPADI規準と理念に従った方法で実施することに同意する。

4. PADIシステムとその構成要素をすべて使用することに同意する。

## IDC Staff Instructorの任務

ティーチング・ステータスで資格更新済みのIDC Staff Instructorには、以下の権限が与えられる：

1. PADI Assistant Instructorを単独で教えて認定する（PADI 5スター・ダイブセンターまたはPADI 5スター・ダイブリゾートで実施）。
2. PADI Course Directorが現場にいて、いつでもアドバイスを受けられる状況で、IDCトレーニングの一部を実施する。
3. インストラクター候補生の知識開発、限定水域、およびオープンウォーター講習プレゼンテーションを評価して講評する。
4. インストラクター候補生とIDC Staff Instructor候補生にカウンセリングと補習トレーニングを行なう。
5. インストラクター・レベルの継続教育プログラムでトレーニングをアシストする。

## Master Instructor

前条件

1. PADI IDC Staff Instructor
2. PADI Instructorになってから2年以上経過している。
3. Emergency First Response Instructor
4. PADIセミナーに3回以上参加している。
5. これまでに150名以上のPADI認定を発行している：
  - a. そのうちの50名以上が以下を含む継続教育認定（Adventure Diver以上のレベル）：Specialty Diver15名以上、Rescue Diver5名以上、Divemaster5名以上、Assistant Instructor5名以上

Assistant Instructor5名以上認定の条件を満たす方法：

- 2回の全IDCでスタッフとして働く。
    - 1回の全IDCでスタッフとして働き、3名の Assistant Instructorを認定する。
  - b. 150名のうち、Discover Scuba Divingのクレジットは75名以下
  - c. 150名のうち、ノンダイビングのスペシャルティ認定 (Equipment Specialist, Project AWAREなど)は25名以下
  - d. 150名のうち、PADI Seal TeamまたはMaster Seal Team登録は10名以下
  - e. IDCのスタッフとして働いたことから得たクレジットは50名以下
- 6. これまでに10名以上のEmergency First Responseコース修了カードを発行している。
- 7. PADIプログラムを実施する際には、すべての適切なPADIトレーニング教材を含む、完全なPADIダイバー教育システムを使用している。
- 8. PADI認定の発行をメインとし、すべてのPADI認定コースおよび体験プログラムを、PADI *Instructor Manual*およびPADI's *Guide to Teaching*に規定されているPADI規準と理念に従った方法を用いて実施している。
- 9. 過去6ヶ月間にクオリティ・アシュアランス違反の記録がなく、現在クオリティ・アシュアランス調査中の案件はない。

## Course Director

### コース参加前条件

1. PADI Master Instructor
2. コース開始日までの12ヶ月間：
  - a. 確認されたクオリティ・アシュアランスの案件がない。
  - b. すべてのPADI認定コースと体験プログラムを、PADI *Instructor Manual*およびPADI's *Guide to*

**Teaching**に規定されているPADI規準と理念に従った方法で実施している。

- c. 適切な全てのPADIトレーニング教材を含む完全なPADIダイバー教育システムを使用している。
- d. PADIダイバー・コースだけを教えている。

例外:PADIが現在提供していないテクニカル・ダイビング、コマーシャル・ダイビング、その他のコースや、エントリー・レベルのトレーニングを修了するという目的で他の団体から委託紹介された生徒は例外とする。

3. IDC Staff Instructor認定の後に、全IDCで2回以上スタッフとして働いた。
4. Emergency First Response Instructor Trainer
5. ログに記録されているダイブ経験本数が250本以上。
6. PADIダイブセンターやリゾートで働いた経験がある。
7. 申請の時点で、PADIが指定するその他の条件をすべて満たしている。

参加前条件をすべて満たしているからといって、自動的にコース参加が許可されるわけではない。申請書は厳正な評価基準によって審査され、申請者のランクがつけられる。上位にランクされた申請者にコース参加が認められる。

## Course Directorの任務

ティーチング・ステータスで資格更新済みのPADI Course Directorには、IDC、OWSIプログラム、IDC Staff Instructorコース（認可を受けた場所で実施されるもの）、ステータス・アップデートを実施する権限が与えられる。

## Specialty Course Instructor Trainer

前条件

1. PADI Course Director
2. 該当するスペシャルティ分野でのPADI Specialty Instructor資格
3. PADI Specialty Course Instructor Guidesを使用することに同意するか、自分で作成した模範的アウトラインをPADIオフィスへ提出して審査を受ける。

# PADI TecRec® Professional資格

詳細については、該当するPADI TecRec Instructor Guideを参照。

## Gas Blender Instructor

### 前条件

1. PADI Instructor
2. PADI Enriched Air Diver Specialty Instructor
3. PADI Gas Blender (もしくは相当する認定)

以下のいずれかを満たしている:

1. PADI Gas Blender Instructorコースを修了
2. PADI Gas Blender (または参加受入資格)認定を受けてから6ヶ月以上経過し、さらに:
  - エンリッチド・エア充填を50回以上ブレンドした経験があり、希望するブレンドの酸素含有量に対して1%以内の分析結果を得ている。
  - *PADI Gas Blender Manual*と*PADI Gas Blender Instructor Guide*を入手して読んだ。

## Trimix Blender Instructor

### 前条件

1. PADI Instructor
2. PADI Enriched Air Diver Specialty Instructor
3. PADI Trimix Blender (もしくは相当する認定)

以下のいずれかを満たしている:

1. PADI Trimix Blender Instructorコースを修了
2. PADI Trimix Blender (または参加受入資格)認定を受けてから6ヶ月以上経過し、さらに:

- a. トライミックス充填を50回以上ブレンドした経験があり、希望するブレンドの酸素含有量に対して1%以内の分析結果を得ている。
- b. PADI *Gas Blender Manual*とPADI *Gas Blender Instructor Guide*を入手して読んだ。

## PADI Rebreather Instructor

### 前条件

1. PADI Instructor
2. PADI Enriched Air Diver Specialty Instructor
3. PADI Deep Diver Specialty Instructor
4. 特定のリブリーザー・ユニットを使ってPADI Advanced Rebreather Diver認定（または参加受入資格を満たす認定）
5. 150本以上のダイブ経験をログに記録していて、少なくとも30本と30時間を特定のユニットを使って行なったダイブ。

### 認定条件

1. PADI Rebreather Instructorコースを修了している。
2. 少なくとも1回のPADI Rebreatherコース、または1回のPADI Advanced Rebreatherコースをアシストした経験がある。

## Tec Instructor

### 前条件

1. PADI Instructor
2. PADI Enriched Air Diver Specialty Instructor
3. PADI Deep Diver Specialty Instructor

### 認定条件

1. PADI Master Scuba Diver Trainer
2. Tec 45 diver

### 3. 少なくとも20本以上の段階的減圧ダイブの経験。

以下のいずれかを満たしている：

1. PADI Tec Instructorコースを修了。
2. 他団体のTecインストラクター資格を持ち、少なくとも1回のTec40もしくは2回の参加受入資格を満たすコースを教えるかアシストし、申請から12か月以内にTec Instructorエグザムに合格する。

## Tec Deep Instructor

前条件

1. PADI Instructor
2. PADI Enriched Air Diver Specialty Instructor
3. PADI Deep Diver Specialty Instructor

認定条件

1. PADI Master Scuba Diver Trainer
2. PADI Tec 50 Diver (または参加受入資格を満たす認定)
3. 270本以上のダイブ経験をログに記録していて、そのうちの少なくとも25本以上が40メートル／130フィートを超える段階的減圧ダイブ。
4. これまでに10名以上のPADI Deep DiverとPADI Enriched Air Diverを認定しているか、もしくは少なくとも、10名以上のTecRec認定をしている (Gas Blenderを除く)。

以下のいずれかを満たしている：

1. PADI Tec Deep Instructor コースを修了し、1回Tec 45もしくはTec 50 Diverコースをアシストした。
2. 2回PADI Tec 50 Diverコースもしくは1回Tec 45 Diverと1回Tec 50 Diverコースをアシストした。申請から12か月以内に、Tec Deep Instructorエグザムに合格する。PADI

Tec Diver Instructor Guideに記載されている、ピア・リビュー水中スキル要件を満たした。

## Tec Trimix Instructor

### 前条件

1. PADI Master Scuba Diver Trainer
2. Tec Deep Instructor

### 認定条件

1. Tec Trimix Diver (または参加受入資格を満たす認定)
2. 350本以上のダイブ経験をログに記録している:
  - a. 50本以上が40メートル／130フィートより深いテクニカル減圧ダイブ(認定のためのトレーニング・ダイブは含まない)
  - b. 30本以上が40メートル／130フィートより深く、トライミックスをボトムガスとして使用
  - c. 10本以上が50メートル／165フィートより深く、21%未満の酸素割合のトライミックスを使用

以下のいずれかを満たしている:

1. PADI Tec Trimix Instructorコースを修了している。
2. Tec Trimix Diverコースのアシストを行なう。申請から12か月以内にTec Trimix Instructorエグザムに合格する。

## Tec Specialty Instructor

PADI Instructorは、PADI Tec Specialty Instructor Trainerが実施するSpecialty Instructorトレーニング・コースを受けるか、所属PADIオフィスへ直接申請することによってPADI Tec Specialty Instructor資格を取得することができる。

## Tec Sidemount Instructor

### 前条件

1. PADI Instructor
2. PADI Enriched Air Diver Specialty Instructor

3. PADI Deep Diver Specialty Instructor
4. 100本以上のダイブ経験をログに記録していて、そのうちの少なくとも20本以上がエンリッチド・エアを使用したダイブで25ダイブが18メートル／60フィートより深いダイブで15本以上が30メートル／100フィートより深いダイブ。
5. Tec 45 Diver (直接申請の場合はTec 50ダイバー)

#### 認定条件

##### 1. Tec Instructor

以下のいずれかを満たしている：

1. Tec Sidemount Diver、Tec Sidemount Instructorコースを修了していて、20本のテクニカル・サイドマウント・ダイブ - 少なくとも10本以上は3本以上のシリンダー（2本がメインで少なくとも残りの1本は減圧用シリンダー）を使う。
2. PADI Tec Sidemount Diver (または相当する資格) と3本以上のシリンダーを使った30本のダイブを含む、少なくとも50本以上のテクニカル・サイドマウント・ダイブの証明。
3. PADI Sidemount Diver (または相当する資格) と3本以上のシリンダーを使った35本のダイブを含む、少なくとも60本以上のテクニカル・サイドマウント・ダイブの証明（2本がメインで少なくとも残りの1本は減圧用シリンダー）。
4. 3本以上のシリンダー（2本がメインで少なくとも残りの1本は減圧用シリンダー）を使った少なくとも40本のダイブを含む、80本のサイドマウント・ダイブ。

## Tec 40 CCR Instructor

#### 前条件

1. PADI Master Scuba Diver Trainer
2. PADI Enriched Air Diver Specialty Instructor
3. PADI Deep Diver Specialty Instructor

4. 特定のタイプT CCRに精通するTec 40 CCR Diver(または相当する資格)
5. 150本以上のダイブ経験をログに記録していて、少なくとも特定のタイプT CCRでの100本以上のダイブと100時間以上の経験

#### 認定条件

1. Tec 40 CCR Instructorトレーニング・コースの修了。
2. 少なくとも1回のTec 40 CCRコースのアシスト。

## Tec 60 CCR Instructor

#### 前条件

1. 特定のタイプT CCRに精通するTec 40 CCR Instructor
2. 特定のタイプT CCRに精通するTec 60 CCR Diverもしくは相当する認定)
3. 300本以上のダイブ経験をログに記録していて - 少なくとも特定のタイプT CCRでの120本以上のダイブと120時間以上の経験を含む、特定のタイプT CCRでの150本以上のダイブと150時間以上の経験。少なくとも25本以上のトライミックス／ヘリオックスを使って40メートル／130フィート以深へのCCRダイブ。
4. 少なくとも1回Tec 40 CCRコースをすべて開催し、1名以上Tec 40 CCR Diverを認定。

#### 認定条件

1. Tec 60 CCR Instructorトレーニング・コースの修了。
2. 少なくとも1回のTec 60 CCRコースのアシスト。

## Tec 100 CCR Instructor

#### 前条件

1. 特定のタイプT CCRでのTec 60 CCR Instructor。
2. 特定のタイプT CCRに精通するTec 100 CCR Diver(もしくは相当する認定)。

3. 350本以上のダイブ経験をログに記録していて - 少なくとも特定のタイプT CCRでの120本以上のダイブと120時間以上の経験を含む、タイプT CCRでの200本以上のダイブと200時間以上の経験。少なくとも50本以上のトライミックス／ヘリオックスを使って40メートル／130フィート以深へのCCRダイブ、そのうち25本はトライミックス／ヘリオックスを使った60メートル／200フィート以深へのCCRダイブ。
4. 少なくとも1回Tec 60 CCRコースをすべて開催し、1名以上Tec 60 CCR Diverを認定。

#### 認定条件

1. Tec 100 CCR Instructorトレーニング・コースの修了。
2. 少なくとも1回のTec 100 CCRコースのアシスト。

## Gas Blender Instructor Trainer

#### 前条件

1. PADI Course Director、もしくはTecRec Instructor Trainer
2. PADI Gas Blender Instructor

## Trimix Blender Instructor Trainer

#### 前条件

1. PADI Course Director、もしくはTecRec Instructor Trainer
2. PADI Trimix Blender Instructor

## PADI Rebreather Instructor Trainer

#### 前条件

1. PADI Course Director、もしくはTecRec Instructor Trainer
2. 特定ユニットに関するPADI Rebreather Instructor

3. PADI Rebreather Instructor Trainerコースを修了。
4. 150本以上のリブリーザー・ダイブ経験 - そのうちの少なくとも75本以上のダイブと75時間以上の経験を特定のユニットを使って行なったダイブ。
5. 少なくとも5人のPADI Rebreather Diverと5人のPADI Advanced Rebreather Diverの認定、そのうち少なくとも4回は特定のユニットを使っての認定。

## Tec Deep Instructor Trainer

### 前条件

1. Tec Deep Instructor
2. Tec 40、Tec 45、Tec 50の各ダイバーレベルで、それぞれに少なくとも5つのTecRecコースから少なくとも30名の認定を発行。

以下のいずれかを満たしている：

1. 少なくとも1つのTecまたはTec Deep Instructor コースをアシストし、Tec Deep Instructor Trainer OrientationまたはTec Deep Instructor Trainerコースを修了したPADI Course Director。
2. Tec Deep Instructor Trainerコースを修了し、現在のPADI TecRec独占契約をPADIリージョナル・ヘッドクォーター（各地域本部）に提出している。

## Tec Trimix Instructor Trainer

### 前条件

1. PADI Tec Deep Instructor Trainer
2. PADI Tec Trimix Instructor
3. Tec Trimix 65およびTec Trimixコースから、少なくとも4つのTec Trimix認定を含む、少なくとも8つの認定を発行している。
4. Tec Trimix Instructor Trainer Orientationおよびナレッジレビューを修了している。

## Tec Specialty Instructor Trainer

### 前条件

1. PADI Course Director、もしくはTecRec Instructor Trainer
2. Tec Deep Instructor/Tec CCR Instructor
3. 該当するスペシャルティ分野でのTec Specialty Instructor

## Tec Sidemount Instructor Trainer

### 前条件

1. PADI Course Director、もしくはTecRec Instructor Trainer
2. PADI Tec Sidemount Instructor

## Tec 40 CCR Instructor Trainer

### 前条件

1. PADI Course Director、もしくはTecRec Instructor Trainer
2. 特定のタイプT CCRに精通するTec 40 CCR Instructor
3. 350本以上のダイブ経験をログに記録していて、そのうちの少なくとも200本のCCRダイブのうち100本以上のダイブと100時間以上の経験を特定のタイプT CCRユニットを使って行なったダイブ。
4. 30人以上のリブリーザー・ダイバー、10人以上のTec 40 CCR Diver認定、そのうち少なくとも4人は特定のユニットを使っでの認定。最大15名のレクリエーショナル・リブリーザー・ダイバー・認定が適応される場合がある。
5. Tec 40 CCR Instructor Trainerコースの修了。

# Tec 60 CCR Instructor Trainer

## 前条件

1. PADI Course Director、もしくはTecRec Instructor Trainer
2. 特定のタイプT CCRでのTec 60 CCR Instructor。
3. 特定のタイプT CCRでのTec 40 CCR Instructor Trainer
4. 少なくとも40人のTec CCR Diver認定を行ない、その内少なくとも10人がPADI Tec 60 CCR Diverでその内4人は特定のタイプT CCRでの認定。
5. 少なくとも2人のTec 40 CCR Instructor認定を行なっている。

# Tec 100 CCR Instructor Trainer

## 前条件

1. PADI Course Director、もしくはTecRec Instructor Trainer
2. 特定のタイプT CCRでのTec 100 CCR Instructor
3. 特定のタイプT CCRでのTec 60 CCR Instructor Trainer
4. 少なくとも50人のTec CCR Diver認定を行ない、その内少なくとも4人がPADI Tec 100 CCR Diverでその内2人は特定のタイプT CCRでの認定。
5. 少なくとも2人のTec 60 CCR Instructor認定を行なっている。

# EFR® Professional資格

## Emergency First Response Instructor

EFR Instructor Trainerが実施するEFR Instructorコースを受けることにより、EFR Instructor資格を取得することができる。

### コース参加前条件

1. 過去24カ月以内に、EFR Primary and Secondary Care (または参加受入資格を満たすトレーニング)を修了
2. 18歳以上

## Emergency First Response Instructor Trainer

EFR Instructor Trainerコースを受けることにより、EFR Instructor Trainer資格を取得することができる。

### コース参加前条件

1. EFR Instructor (Care for Children Instructorを含む)
2. 25人以上のEFRコース修了カードを発行している (または、少なくとも5回のEFRコースを開催)。
3. 過去12ヶ月間にクオリティ・アシュアランス違反の記録がない。

# PADI Freediver™ Professional資格

## PADI Freediver Instructor

PADI Freediver Instructor認定を受けるには、PADI Freediver Instructor Training Courseに参加する、もしくはPADI Freediver Instructor Orientationを受ける。

### PADI Freediver Instructor参加前条件

1. 次のいずれかを満たす：
  - a. PADI Master Freediver
  - b. PADI Instructor及びPADI Advanced Freediver
  - c. 参加受入資格を満たすフリーダイバー・インストラクター認定およびPADI Advanced Freediver
2. 18歳以上
3. 過去12カ月以内に医師が署名した最新の病歴書
4. PADI Freediver Instructor Training Courseを修了するか、他団体からの参加受入資格を満たすフリーダイバー・インストラクターの場合は、PADI Freediver Instructor Orientationを修了する。

### 認定条件

- 現役のEmergency First Response (CPR/ファーストエイド) Instructor

## Freediver Specialty Instructor

PADIメンバーは、PADI Freediver Instructor Trainerが実施するPADI Freediver Specialty Instructor Training Courseを受けるか、所属PADIオフィスへ直接申請することによって、PADI Freediver Specialty Instructor資格を得ることができる(下記例外を除く)。

## Freediver Specialty Instructor Training Course

### コース参加前条件

#### PADI Freediver Instructor

**注意:** 特定のSpecialty Instructor Training Courseの追加参加前条件が適用される場合がある。

#### 認定条件

- 申請対象のスペシャルティ分野で、別々のオープンウォーター・セッション10回以上

#### PADIオフィスへ直接申請する場合の前条件

1. PADI Freediver Instructor
2. これまでに10名以上のフリーダイバーを認定
3. 申請対象のスペシャルティ分野で、別々のオープンウォーター・セッション少なくとも20回。
4. 申請書の声明文に署名することで、PADI Freediver Specialty Course Instructor Guideを使うことに同意する、もしくはインストラクター自身が作成したアウトラインを審査のためPADIオフィスへ提出する。

#### 特定のスペシャルティ・コースのその他の前条件:

- Emergency Oxygen Provider Instructor資格 — PADI Emergency Oxygen Provider認定 (または参加受入資格を満たす認定)

## PADI Advanced Freediver Instructor

### 前条件

1. PADI Freediver Instructor (またはPADI Freediver Instructor Orientationを修了している参加受入資格を満たすフリーダイバー・インストラクター)
2. PADI Master Freediver認定または参加受入認定
3. 現役のEmergency First Response (CPR/ファーストエイド) Instructor

## 4. 25以上のPADI Freediver認定を発行

注意:PADI Basic Freediver認定5名につきPADI Freediver認定1名としてカウントされ、最大5クレジットまで加算することができます。

# PADI Master Freediver Instructor

## 前条件

1. PADI Advanced Freediver Instructor (またはPADI Freediver Instructor Orientationを修了している参加受入資格を満たす認定)
2. PADI Master Freediver認定または参加受入認定
3. 現役のEmergency First Response (CPR/ファーストエイド) Instructor
4. 50以上のPADI Freediverプログラム認定を発行していて、そのうち最低10人はAdvanced Freediver認定

注意:PADI Basic Freediver認定5名につきPADI Freediver認定1名としてカウントされ、最大5クレジットまで加算することができます。

5. 過去6ヶ月間にクオリティ・アシュアランス違反の記録がなく、現在クオリティ・アシュアランス調査中の案件はない。

# PADI Freediver Instructor Trainer

個人は、PADI Freediver Instructor Trainer Courseに参加するか、PADIリージョナル・ヘッドクォーター（各地域本部）に直接申請することによって、PADI Freediver Instructor Trainerの資格を得る。

## Freediver Instructor Trainer Course申請の参加前条件

1. PADI Master Freediver Instructor
2. すべてのフリーダイバー・プログラム・レベルの講習経験があること
3. Freediver Instructor Training Courseでスタッフ経験があること
4. EFR Instructor Trainer

## 5. 過去6ヶ月間にクオリティ・アシュアランス違反の記録がなく、現在クオリティ・アシュアランス調査中の案件はない。

参加前条件をすべて満たしているからといって、自動的にPADI Freediver Instructor Training Course参加が許可されるわけではない。

PADIリージョナル・ヘッドクォーター（各地域本部）に直接申請する前条件

1. PADI Course Director
2. PADI Master Freediver Instructor

## Freediver Specialty Course Instructor Trainer

前条件

1. PADI Freediver Instructor Trainer
2. 該当するスペシャルティ分野でのPADI Freediver Specialty Instructor認定
3. PADI Freediver Specialty Course Instructor Guideを使用することに同意するか、自分で作成した模範的アウトラインをPADIオフィスへ提出して審査を受ける。